



講義內容 2012

全学共通科目

宗教教育科目・教養教育科目
保健体育科目

「日本語」・「日本事情」科目

随意科目

教職課程・資格講座科目

講 義 内 容

目次案内

I. 全学共通科目	
1. 宗教教育科目	… (2)
2. 教養教育科目	
(1) 人文分野	… (4)
(2) 社会分野	… (7)
(3) 自然分野	… (8)
(4) 総合分野	… (11)
3. 保健体育科目	… (12)
II. 「日本語」・「日本事情」科目	… (16)
III. 随意科目	… (17)
IV. 教職課程・資格講座科目	… (18)

※科目の並び順は、科目名の 50 音順、担当教員氏名の 50 音順でソートされています。

※全学共通科目の外国語科目、専門教育科目は別冊になっています。

(この冊子は平成 24 年 3 月 1 日現在の情報を元に作成しています。)

I. 全学共通科目

1. 宗教教育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
坐禅	熊本 英人 池上 光洋	206451	5
坐禅	熊本 英人 池上 光洋	206551	6
坐禅	角田 泰隆 池上 光洋	206401	6
坐禅	角田 泰隆 池上 光洋	206501	7
自然と宗教	小川 順敬	206101	8
社会と宗教	矢野 秀武	206201	9
仏教と人間	新井 一光	205101	10
仏教と人間	栗谷 良道	203001	10
仏教と人間	飯塚 大展	204001	11
仏教と人間	池上 光洋	205001	11
仏教と人間	池上 光洋	205121	12
仏教と人間	池上 良正	202801	13
仏教と人間	池田 練太郎	204401	13
仏教と人間〔再クラス〕	石井 公成	206001	14
仏教と人間	石井 修道	203801	14
仏教と人間〔再クラス〕	伊藤 良久	205801	15
仏教と人間	岩永 正晴	203501	15
仏教と人間	岡部 雅明	204701	16
仏教と人間	小川 順敬	202701	17
仏教と人間〔再クラス〕	奥野 光賢	205701	18
仏教と人間	片山 一良	203901	18
仏教と人間	金沢 篤	203401	19
仏教と人間〔再クラス〕	木村 誠司	341601	19
仏教と人間	熊本 英人	202501	20
仏教と人間	熊本 英人	205601	20
仏教と人間	佐藤 秀孝	204301	21
仏教と人間	佐藤 憲昭	203201	22
仏教と人間	菅原 壽清	204501	23
仏教と人間	須藤 寛人	203301	23
仏教と人間	清野 宏道	205401	24
仏教と人間	竹内 弘道	203101	25
仏教と人間	角田 泰隆	205501	25
仏教と人間	程 正	204011	26
仏教と人間	徳野 崇行	203601	26
仏教と人間	永井 政之	203701	27
仏教と人間	長谷部 八朗	202601	28
仏教と人間	藤井 淳	205201	29
仏教と人間	藤井 淳	205301	30
仏教と人間	松田 陽志	204021	31
仏教と人間	松本 史朗	341801	32
仏教と人間	村松 哲文	204801	32

宗教教育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
仏教と人間	村松 哲文	205111	33
仏教と人間	矢野 秀武	202901	34
仏教と人間	山本 元隆	204201	35
仏教と人間〔再クラス〕	吉津 宣英	205901	35
仏教と人間	吉村 誠	204901	36
仏教と人間	四津谷 孝道	341901	37
仏教と人間	渡部 正英	204601	38
仏教と人間	渡邊 幸江	204101	39
文化と宗教	長谷部 八朗	206301	39

2. 教 養 教 育 科 目

(1) 人 文 分 野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
科学史〔科学と技術〕	高橋 秀裕	210401	45
科学史〔近代科学の成立と展開〕	高橋 秀裕	210501	45
キャリアを考えるⅠ	岡崎 洋	169611	46
キャリアを考えるⅠ	岡崎 洋	169621	47
キャリアを考えるⅠ	岡崎 洋	169631	48
キャリアを考えるⅡ	岡崎 洋	169661	49
キャリアを考えるⅡ	岡崎 洋	169671	50
キャリアを考えるⅡ	岡崎 洋	169681	51
芸術学〔音楽〕	浦本 裕子	208601	52
芸術学〔日本美術〕	北野 良枝	208401	52
芸術学〔西洋美術〕	矢野 陽子	208501	53
実務表現	内藤 寿子	360801	54
実務表現	萩原 義雄	360901	55
実務表現	湯浅 陽子	361001	56
宗教学〔比較宗教文化〕	池上 良正	211201	57
宗教学〔世界観と儀礼〕	小川 順敬	211401	58
宗教学〔生活と宗教〕	菅原 壽清	211511	59
宗教学〔聖と俗〕	田中 かの子	211301	60
宗教学〔比較宗教文化〕	田中 かの子	342401	60
宗教学〔民俗宗教の諸相〕	宮田 義矢	211521	61
宗教学〔日本人の宗教〕	矢野 秀武	211501	62
人文地理学〔空間と行動〕	伊藤 修一	211901	63
人文地理学〔空間と行動〕	伊藤 慎悟	211801	64
人文地理学〔風土と文化〕	櫻井 明久	211701	65
人文地理学〔風土と文化〕	山口 太郎	211601	66
哲学〔西洋思想の源流〕	河谷 淳	208901	67
哲学〔現代文明と人間〕	久保 陽一	209501	68
哲学〔現代文明と人間〕	黒崎 剛	209301	69
哲学〔近代の人間観と世界観〕	小島 優子	209201	69
哲学〔西洋思想の源流〕	佐藤 暁	208801	70
哲学〔近代の人間観と世界観〕	佐藤 暁	209101	70
哲学〔近代の人間観と世界観〕	佐藤 暁	343201	70
哲学〔現代文明と人間〕	鈴木 聡	343301	71
哲学〔西洋思想の源流〕	滝口 清栄	208701	71
哲学〔現代文明と人間〕	滝沢 正之	209401	72
哲学〔西洋思想の源流〕	滝沢 正之	343101	73
哲学〔近代の人間観と世界観〕	古田 知章	209001	74
日本語文化基礎	萩原 義雄	358901	75
日本語文化基礎	湯浅 陽子	358911	76
日本語文化研究Ⅰ	萩原 義雄	170901	77
日本語文化研究Ⅰ	湯浅 陽子	215721	78
日本語文化研究Ⅱ	萩原 義雄	360601	79
日本語文化研究Ⅱ	湯浅 陽子	360701	80
日本文化基礎	小林 治	358401	81
日本文化基礎	坂口 博規	358101	81

教養教育科目 人文分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
日本文化基礎	鈴木 裕子	358001	82
日本文化基礎	藺部 幹生	357901	82
日本文化基礎	藺部 幹生	358201	83
日本文化基礎	松田 直行	358501	84
日本文化基礎	湯浅 陽子	358301	85
日本文化基礎	湯浅 陽子	358601	86
日本文化研究ⅠA	坂口 博規	169701	87
日本文化研究ⅠA	坂口 博規	171101	87
日本文化研究ⅠA	鈴木 裕子	171201	88
日本文化研究ⅠA	藺部 幹生	172001	88
日本文化研究ⅠB	小林 治	170201	89
日本文化研究ⅠB	小林 治	175501	89
日本文化研究ⅠB	内藤 寿子	215731	90
日本文化研究ⅠB	松田 直行	215711	91
日本文化研究ⅡA	坂口 博規	359201	92
日本文化研究ⅡA	鈴木 裕子	359101	93
日本文化研究ⅡA	藺部 幹生	359301	94
日本文化研究ⅡB	小林 治	359801	94
日本文化研究ⅡB	内藤 寿子	359951	95
日本文化研究ⅡB	松田 直行	359701	96
日本文化研究ⅡB	松田 直行	359901	97
日本文化テーマ研究A	鈴木 裕子	168911	98
日本文化テーマ研究A	萩原 義雄	168901	99
日本文化テーマ研究B	鈴木 裕子	169011	100
日本文化テーマ研究B	萩原 義雄	169001	101
日本文化テーマ研究C	坂口 博規	169101	102
日本文化テーマ研究C	藺部 幹生	169111	102
日本文化テーマ研究D	坂口 博規	169201	103
日本文化テーマ研究D	藺部 幹生	169211	103
日本文化テーマ研究E	小林 治	169311	104
日本文化テーマ研究E	内藤 寿子	169301	104
日本文化テーマ研究F	小林 治	169411	105
日本文化テーマ研究F	内藤 寿子	169401	105
日本文化テーマ研究G	松田 直行	169501	106
日本文化テーマ研究H	松田 直行	169601	107
フレッシュマンセミナー	小林 治	357701	107
フレッシュマンセミナー	坂口 博規	357401	108
フレッシュマンセミナー	鈴木 裕子	357301	108
フレッシュマンセミナー	藺部 幹生	357501	109
フレッシュマンセミナー	内藤 寿子	357001	110
フレッシュマンセミナー	萩原 義雄	357101	111
フレッシュマンセミナー	松田 直行	357801	112
フレッシュマンセミナー	湯浅 陽子	357201	113
フレッシュマンセミナー	湯浅 陽子	357601	114
フレッシュマンセミナー	湯浅 陽子	357811	115
文学〔日本文学〕	阿部 昌子	342601	116
文学〔日本文学〕	池田 大輔	342501	117
文学〔日本文学〕	伊藤 達氏	342701	117
文学〔日本文学〕	川島 淳史	206701	118
文学〔日本文学〕	坂口 博規	206901	119

教養教育科目 人文分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
文学〔日本文学〕	塩崎 真理子	206601	119
文学〔日本文学〕	鈴木 裕子	207001	120
文学〔英語文学〕	高野 秀夫	207301	120
文学〔日本文学〕	内藤 寿子	207701	121
文学〔日本のことば〕	萩原 義雄	207201	122
文学〔ラテンアメリカ文学〕	真下 祐一	207401	123
倫理学〔価値観〕	麻生 享志	210801	124
倫理学〔応用倫理学〕	黒崎 剛	210701	124
倫理学〔応用倫理学〕	黒崎 剛	211111	125
倫理学〔東洋倫理〕	末木 恭彦	211101	126
倫理学〔人生と倫理〕	末木 恭彦	343701	127
倫理学〔制度とモラル〕	滝口 清栄	211001	128
倫理学〔応用倫理学〕	滝沢 正之	210901	128
倫理学〔人間観〕	古田 知章	210601	129
倫理学〔現代と倫理〕	古田 知章	343601	130
歴史学〔日本近世史〕	小高 昭一	208201	131
歴史学〔日本史〕	小松 寿治	208301	131
歴史学〔日本中世史〕	鈴木 将典	207801	132
歴史学〔中国史概観〕	高橋 康浩	342901	133
歴史学〔東アジア考古学〕	千葉 基次	207901	134
歴史学〔アジア史概観〕	奈良 修一	343001	134
歴史学〔日本史〕	林 彰	342801	135
歴史学〔西洋近代史〕	土方 史織	208101	135
歴史学〔禅の歴史と地域社会〕	廣瀬 良弘	208001	136
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	麻生 享志	343501	136
論理学〔知の技法〕	伊古田 理	210001	137
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	伊古田 理	343401	137
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	河谷 淳	210101	138
論理学〔知の技法〕	小島 優子	210201	139
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	鈴木 聡	209601	139
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	鈴木 聡	209801	140
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	滝口 清栄	209901	140
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	山口 祐弘	209701	141

(2) 社会分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
教育学〔アス・エデュケーション〕	柳堀 素雅子	219501	145
教育心理〔大学生の心理〕	石橋 達也	219601	146
経済学〔現代経済と人間〕	貝塚 亨	219101	147
経済学〔現代経済と人間〕	貝塚 亨	345001	147
経済学〔現代社会と市場経済〕	畠中 貴	219001	148
経済学〔現代経済理解へのガイド〕	福田 慎	219201	149
社会科学論〔社会認識の思想〕	枝松 正行	345101	150
社会科学論〔社会認識の思想〕	大石 雄爾	219401	151
社会学〔現代社会を考える〕	呉 炳三	215901	152
社会学〔現代文化を考える〕	呉 炳三	216001	153
社会学〔社会生活を考える〕	呉 炳三	216301	154
社会学〔現代文化を考える〕	武山 梅乗	216101	155
社会学〔社会生活を考える〕	武山 梅乗	216201	155
社会学〔現代文化を考える〕	橋爪 敏	344301	156
社会学〔現代社会を考える〕	藤本 隆史	215801	156
社会学〔現代社会を考える〕	藤本 隆史	344201	157
政治学〔社会生活とデモクラシー〕	白鳥 浩	218701	157
政治学〔政治システムと政治参加〕	富崎 隆	218801	158
政治学〔政治システムと政治参加〕	真下 英二	344801	159
政治学〔国際社会と日本〕	山崎 望	218901	160
政治学〔国際社会と日本〕	山村 恒雄	344901	161
統計学〔社会現象の統計的決定〕	新行内 康慈	216501	162
統計学〔社会現象の統計的決定〕	新行内 康慈	345201	163
統計学〔社会現象の統計的分析〕	松田 慎一	216401	164
文化人類学〔社会変化と価値観〕	内山 明子	217301	164
文化人類学〔社会変化と価値観〕	内山 明子	217401	165
文化人類学〔社会変化と価値観〕	小川 順敬	217201	166
文化人類学〔文化と人間〕	加藤 之晴	216801	167
文化人類学〔文化と人間〕	川上 新二	344401	167
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	杉井 純一	216901	168
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	杉井 純一	344501	168
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	鈴木 一馨	217101	169
文化人類学〔文化と人間〕	森 雅文	216701	170
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	森 雅文	217001	171
法学・憲法〔法と権利〕	天野 聖悦	218501	172
法学・憲法〔法と権利〕	池田 実	218601	172
法学・憲法〔法と社会生活〕	鷄徳 啓登	217701	173
法学・憲法〔法と国家〕	新田 浩司	218101	173
法学・憲法〔法と国家〕	新田 浩司	218201	174
法学・憲法〔法と社会生活〕	長谷川 日出世	217501	174
法学・憲法〔法と権利〕	長谷川 日出世	217901	175
法学・憲法〔法と社会生活〕	長谷川 日出世	344701	175
法学・憲法〔法と社会生活〕	山下 愛仁	217801	176
法学・憲法〔法と国家〕	山中 倫太郎	218401	177
法学・憲法〔法と社会生活〕	和知 恵一	217601	178

(3) 自然分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
宇宙科学〔星と銀河〕	篠原 正雄	223201	181
宇宙科学〔星と銀河〕	篠原 正雄	223301	181
化学〔衣食住の化学〕	持丸 真里	223001	182
化学〔衣食住の化学〕	持丸 真里	223101	183
科学基礎論	奥山 康男	220111	184
科学基礎論	熊坂 さつき	219701	185
科学基礎論	佐藤 昌憲	219801	185
科学基礎論	名古 安伸	220101	186
科学基礎論	原田 和正	220001	187
科学基礎論	森口 央基	219901	187
化学序論	山本 裕右	228001	188
基礎化学	原田 和正	227501	188
基礎数学	森口 央基	227701	189
基礎物理学	佐藤 昌憲 小川 雅生	227401	189
コンピュータ応用〔コンピュータの原理〕	坂野井 和代	225801	190
コンピュータ応用〔コンピュータの原理〕	坂野井 和代	225901	191
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小川 健次郎	223601	191
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小川 健次郎	224101	192
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小川 健次郎	224801	192
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小川 健次郎	224901	192
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小沢 誠	223701	193
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小沢 誠	224201	193
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小沢 誠	225001	194
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	金尾 美穂	223801	194
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	金尾 美穂	224301	195
コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕	金尾 美穂	345701	196
コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕	金尾 美穂	345901	197
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	坂野井 和代	225201	198
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	坂野井 和代	225601	198
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	坂野井 和代	225701	199
コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕	坂野井 和代	345801	199
コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕	坂野井 和代	346001	200
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	谷本 玲大	223401	201
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	谷本 玲大	223901	203
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	谷本 玲大	224401	205
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	谷本 玲大	224601	207
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	長坂 浩史	224701	209
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	山本 博信	223501	210
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	山本 博信	224001	211
自然環境論〔地球・太陽系環境〕	坂野井 和代	221501	212
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	221801	212
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	221901	213
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	222001	213
自然環境論〔宇宙から見た地球環境〕	篠原 正雄	346301	214
自然環境論〔生命と環境〕	中村 敏枝	221701	215
自然環境論〔生命と環境〕	持丸 真里	221301	216
自然環境論〔生命と環境〕	持丸 真里	221401	217

教養教育科目 自然分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
自然環境論〔生命と環境〕	持丸 真里	221601	218
自然環境論〔生命と環境〕	山縣 毅	221101	219
自然環境論〔生命と環境〕	山縣 毅	221201	220
自然環境論〔生命と環境〕	山縣 毅	346401	221
自然誌〔現代の自然像〕	篠原 正雄 山縣 毅 持丸 真里	222201	222
自然誌〔現代の自然像〕	篠原 正雄 山縣 毅 持丸 真里	222301	222
情報処理技術	近藤 啓介	227601	223
情報処理技術	近藤 啓介	227621	223
情報数学〔情報と論理〕	小沢 誠	222701	224
情報数学〔情報と論理〕	小沢 誠	346501	225
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	加藤 博己	226401	226
心理学〔人間関係を考える〕	加藤 博己	226801	227
心理学〔人間関係を考える〕	小室 央允	226601	228
心理学〔人間関係を考える〕	小室 央允	226901	228
心理学〔心を科学する〕	小室 央允	227301	228
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	杉山 雅美	226501	229
心理学〔人間関係を考える〕	鈴木 順一	226701	229
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	鈴木 順一	345301	230
心理学〔人間関係を考える〕	鈴木 順一	345401	231
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	高橋 良博	226201	232
心理学〔心を科学する〕	高橋 良博	227001	232
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	桑原 正修	226301	233
心理学〔心を科学する〕	堀内 正彦	227101	233
心理学〔心を科学する〕	堀内 正彦	227201	234
人類学〔人類の進化〕	馬場 悠男	226001	234
人類学〔人類の進化〕	馬場 悠男	226101	235
数学〔微積分学入門〕	小沢 誠	222401	236
数学〔線型代数学入門〕	小沢 誠	222501	237
数学〔現代数学入門〕	福田 賢一	222601	238
数学序論	森口 央基	227851	238
生物学〔生態と進化〕	大槻 涼	220301	239
生物学〔生態と進化〕	大槻 涼	345501	240
生物学〔生態と進化〕	中村 敏枝	220201	241
生物学〔生物と環境〕	中村 敏枝	220401	242
生物学〔生物と環境〕	中村 敏枝	345601	243
生命科学	持丸 真里	227901	244
地球科学〔自然景観の成り立ち〕	市川 清士	220901	244
地球科学〔自然景観の成り立ち〕	市川 清士	221001	245
地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕	加藤 潔	220501	245
地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕	加藤 潔	346101	246
地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕	加藤 潔	346201	246
地球科学〔地球システムと人間圏〕	守屋 和佳	220701	247
地球科学〔地球の変遷・生命の進化〕	山縣 毅	220601	248
地球科学〔地球の変遷・生命の進化〕	山縣 毅	220801	249
物理学〔光と物質〕	篠原 正雄	222801	250
物理学〔光と物質〕	篠原 正雄	222901	250

教養教育科目 自然分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
物理学序論Ⅰ 物理学序論	鳥山 保	227801・227802	251
物理学序論Ⅱ	佐藤 昌憲	227811	252

(4) 総合分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
総合Ⅰ〔仏教と社会〕	熊本 英人	228201	255
総合Ⅰ〔仏教と芸術〕	村松 哲文	228301	255
総合Ⅱ〔駒澤大学の歴史〕	熊本 史雄 皆川 義孝 廣瀬 良弘 佐々木 真 中村 淳 大城 道則 小泉 雅弘	228401	256
総合Ⅲ〔フランスとフランコフォニー〕	東 辰之介	228901	257
総合Ⅲ〔人権と社会問題〕	ピアス, D. M.	228701	258
総合Ⅳ〔新市民社会論〕	西村 祐子	229101	259
総合Ⅳ〔現代アメリカ事情〕	林 明人	229001	260
総合Ⅴ〔イギリスの歴史と文化〕	石原 孝哉	229301	260
総合Ⅵ〔民族とは何か〕	大野 祐二	229601	261
総合Ⅵ〔フェミニズム・ジェンダー〕	大橋 史恵	229801	261
総合Ⅶ〔都市論〕	内海 麻利 中西 正彦 早川 純貴 村上 暁信 真鍋 陸太郎	230001	262

3. 保健体育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
健康・スポーツ実習(ジョギング)	内山 雅博	194501	265
健康・スポーツ実習(サッカー)	大森 酉三郎	194501	266
健康・スポーツ実習(卓球)	下谷内 勝利	194501	267
健康・スポーツ実習(ダブルダッチ)	末次 美樹	194501	268
健康・スポーツ実習(室内球技)	鈴木 淳平	194501	269
健康・スポーツ実習(空手道)	高橋 俊介	194501	270
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	舘岡 儀秋	194501	271
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	194501	272
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	194501	273
健康・スポーツ実習(ジョギング)	内山 雅博	194601	274
健康・スポーツ実習(テニス)	江口 淳一	194601	275
健康・スポーツ実習(サッカー)	大森 酉三郎	194601	276
健康・スポーツ実習(簡化太極拳)	末次 美樹	194601	277
健康・スポーツ実習(室内球技)	鈴木 淳平	194601	278
健康・スポーツ実習(空手道)	高橋 俊介	194601	279
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	舘岡 儀秋	194601	280
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	194601	281
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	194601	282
健康・スポーツ実習(ソフトボール)	内山 雅博	194701	283
健康・スポーツ実習(テニス)	江口 淳一	194701	284
健康・スポーツ実習(サッカー)	大森 酉三郎	194701	285
健康・スポーツ実習(卓球)	下谷内 勝利	194701	286
健康・スポーツ実習(キックボクササイズ)	末次 美樹	194701	287
健康・スポーツ実習(室内球技)	鈴木 淳平	194701	288
健康・スポーツ実習(空手道)	高橋 俊介	194701	289
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	194701	290
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	194701	291
健康・スポーツ実習(卓球)	秋田 浩一	194801	292
健康・スポーツ実習(ミニサッカー)	岩本 哲也	194801	293
健康・スポーツ実習(テニス)	江口 淳一	194801	294
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	鈴木 淳平	194801	295
健康・スポーツ実習(空手道)	高橋 俊介	194801	296
健康・スポーツ実習(室内球技)	高島 瑠依	194801	297
健康・スポーツ実習(ソフトボール)	山口 良博	194801	298
健康・スポーツ実習(サッカー)	岩本 哲也	194901	299
健康・スポーツ実習(テニス)	江口 淳一	194901	300
健康・スポーツ実習(室内球技)	高島 瑠依	194901	301
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	舘岡 儀秋	194901	302
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	194901	303
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	194901	304
健康・スポーツ実習(卓球)	秋田 浩一	195001	305
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	鈴木 淳平	195001	306
健康・スポーツ実習(室内球技)	高島 瑠依	195001	307
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	195001	308
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	195001	309
健康・スポーツ実習(ソフトボール)	山口 良博	195001	310
健康・スポーツ実習(卓球)	秋田 浩一	195011	311
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	鈴木 淳平	195011	312

保健体育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
健康・スポーツ実習 (空手道)	高橋 俊介	195011	313
健康・スポーツ実習 (ソフトボール)	館岡 儀秋	195011	314
健康・スポーツ実習 (室内球技)	山口 良博	195011	315
健康・スポーツ実習 (卓球)	秋田 浩一	195101	316
健康・スポーツ実習 (室内球技)	坂尾 知昭	195101	317
健康・スポーツ実習 (トレーニング)	柳 浩二郎	195101	318
健康・スポーツ実習 (卓球)	秋田 浩一	195201	319
健康・スポーツ実習 (ミニサッカー)	岩本 哲也	195201	320
健康・スポーツ実習 (室内球技)	坂尾 知昭	195201	321
健康・スポーツ実習 (室内球技)	岩本 哲也	195301	322
健康・スポーツ実習 (卓球)	坂尾 知昭	195301	323
健康・スポーツ実習 (ゴルフ)	館岡 儀秋	195301	324
健康・スポーツ実習 (トレーニング)	柳 浩二郎	195301	325
健康・スポーツ実習 (サッカー)	秋田 浩一	195401	326
健康・スポーツ実習 (テニス)	江口 淳一	195401	327
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195401	328
健康・スポーツ実習 (体操・トランポリン)	竹田 幸夫	195401	329
健康・スポーツ実習 (室内球技)	椿原 徹也	195401	330
健康・スポーツ実習 (トレーニング)	光永 吉輝	195401	331
健康・スポーツ実習 (テニス)	江口 淳一	195501	332
健康・スポーツ実習 (卓球)	末次 美樹	195501	333
健康・スポーツ実習 (空手道)	高橋 俊介	195501	334
健康・スポーツ実習 (体操・トランポリン)	竹田 幸夫	195501	335
健康・スポーツ実習 (室内球技)	椿原 徹也	195501	336
健康・スポーツ実習 (トレーニング)	光永 吉輝	195501	337
健康・スポーツ実習 (サッカー)	秋田 浩一	195511	338
健康・スポーツ実習 (テニス)	江口 淳一	195511	339
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195511	340
健康・スポーツ実習 (ソフトボール)	末次 美樹	195511	341
健康・スポーツ実習 (空手道)	高橋 俊介	195511	342
健康・スポーツ実習 (体操・トランポリン)	竹田 幸夫	195511	343
健康・スポーツ実習 (室内球技)	椿原 徹也	195511	344
健康・スポーツ実習 (室内球技)	猪越 悠介	195601	345
健康・スポーツ実習 (サッカー)	岩本 哲也	195601	346
健康・スポーツ実習 (テニス)	平田 大輔	195601	347
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195601	348
健康・スポーツ実習 (空手道)	末次 美樹	195601	349
健康・スポーツ実習 (ソフトボール)	柳 浩二郎	195601	350
健康・スポーツ実習 (屋外球技)	猪越 悠介	195701	351
健康・スポーツ実習 (テニス)	平田 大輔	195701	352
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195701	353
健康・スポーツ実習 (体操・トランポリン)	柳 浩二郎	195701	354
健康・スポーツ実習 (室内球技)	山口 良博	195701	355
健康・スポーツ実習 (屋外球技)	岩本 哲也	195801	356
健康・スポーツ実習 (テニス)	平田 大輔	195801	357
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195801	358
健康・スポーツ実習 (ダブルダッチ)	末次 美樹	195801	359
健康・スポーツ実習 (室内球技)	山口 良博	195801	360
健康・スポーツ実習 (屋外球技)	猪越 悠介	195811	361
健康・スポーツ実習 (屋内球技)	山口 良博	195811	362

保健体育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	岩本 哲也	340201	363
健康・スポーツ実習	岩本 哲也	340301	364
健康・スポーツ実習	山口 良博	340501	364
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	竹田 幸夫	195901	365
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	竹田 幸夫	196001	365
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	岩本 哲也	196101	366
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	竹田 幸夫	196201	366
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	山口 良博	196301	367
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	村松 誠	196311	367
健康・スポーツ論	村松 誠	341201	368
健康・スポーツ論	山口 良博	341301	368
健康・スポーツ論 1	館岡 儀秋	199901	369
健康・スポーツ論 1	江口 淳一	200101	369
健康・スポーツ論 1	高橋 俊介	200201	370
健康・スポーツ論 1	江口 淳一	200401	371
健康・スポーツ論 1	秋田 浩一	200501	372
健康・スポーツ論 1	岩本 哲也	200601	372
健康・スポーツ論 1	下谷内 勝利	200801	373
健康・スポーツ論 1	光永 吉輝	200901	373
健康・スポーツ論 1	柳 浩二郎	201111	374
健康・スポーツ論 2	竹田 幸夫	201201	374
健康・スポーツ論 2	村松 誠	201301	375
健康・スポーツ論 2	末次 美樹	201401	376
健康・スポーツ論 2	鈴木 淳平	201501	376
生涯スポーツ演習Ⅰ（シーズン基礎） 生涯スポーツ演習Ⅰ（シーズン応用）	村松 誠 原田 沙織 光永 吉輝 館岡 儀秋 竹田 幸夫 下谷内 勝利 柳 浩二郎 末次 美樹	199301・199302	377
生涯スポーツ演習Ⅱ（シーズン基礎） 生涯スポーツ演習Ⅱ（シーズン応用）	末次 美樹 秋田 浩一 竹田 幸夫 江口 淳一 鈴木 淳平 山口 良博 下谷内 勝利 岩本 哲也 柳 浩二郎	199401・199402	378
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	渡辺 一郎	196801・196802・	379
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		196803・196804	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	渡辺 一郎	197001・197002・	379
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		197003・197004	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	村松 誠	197201・197202・	380
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		197203・197204	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	鈴木 淳平	198001・198002・	380
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		198003・198004	

保健体育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	村松 誠	198401・198402・ 198403・198404	381
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	村松 誠	198801・198802・ 198803・198804	381
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	渡辺 一郎	196601・196602・ 196603・196604	382
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	村松 誠	197401・197402・ 197403・197404	382
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	末次 美樹	197601・197602・ 197603・197604	383
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	末次 美樹	197801・197802・ 197803・197804	383
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	鈴木 淳平	198201・198202・ 198203・198204	384
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	村松 誠	199001・199002・ 199003・199004	384
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	渡辺 一郎	196701・196702・ 196703・196704	385
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	渡辺 一郎	196901・196902・ 196903・196904	385
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	村松 誠	197101・197102・ 197103・197104	386
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	鈴木 淳平	197901・197902・ 197903・197904	386
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	村松 誠	198301・198302・ 198303・198304	387
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	村松 誠	198701・198702・ 198703・198704	387
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	渡辺 一郎	196501・196502・ 196503・196504	388
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	村松 誠	197301・197302・ 197303・197304	388
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	末次 美樹	197501・197502・ 197503・197504	389
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	末次 美樹	197701・197702・ 197703・197704	389
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	鈴木 淳平	198101・198102・ 198103・198104	390
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）			
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	村松 誠	198901・198902・ 198903・198904	390
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）			
保健理論	黒子 幸一	202401	391
余暇学	竹田 幸夫	202001	391
余暇学	竹田 幸夫	202201	392
生涯スポーツ実習（集中後期・基礎）	休講		
生涯スポーツ実習（集中前期・基礎）	休講		

Ⅱ. 「日本語」・「日本事情」科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
日本語入門Ⅰ a	鈴木 美希	230511・230512	395
日本語入門Ⅰ b	鈴木 美希	230521・230522	395
日本語入門Ⅱ a	鈴木 美希	230531・230532	396
日本語入門Ⅱ b	鈴木 美希	230541・230542	396
日本語Ⅰ a	佐野 典子	230611・230612	397
日本語Ⅰ a	長崎 清美	230631・230632	397
日本語Ⅰ b	佐野 典子	230621・230622	397
日本語Ⅰ b	長崎 清美	230641・230642	398
日本語Ⅱ a	佐野 典子	230711・230712	398
日本語Ⅱ a	長崎 清美	230721・230722	398
日本語Ⅱ b	佐野 典子	230811・230812	399
日本語Ⅱ b	長崎 清美	230821・230822	399
日本語Ⅲ a	長崎 清美	230911・230912	399
日本語Ⅲ a	湯村 礼子	230921・230922	400
日本語Ⅲ b	長崎 清美	231011・231012	400
日本語Ⅲ b	湯村 礼子	231021・231022	401
日本語Ⅳ a	鈴木 美希	231111・231112	401
日本語Ⅳ a	湯村 礼子	231121・231122	402
日本語Ⅳ b	鈴木 美希	231211・231212	402
日本語Ⅳ b	湯村 礼子	231221・231222	403
日本語Ⅴ a	湯村 礼子	231311・231312	403
日本語Ⅴ a	長崎 清美	231321・231322	404
日本語Ⅴ b	湯村 礼子	231411・231412	404
日本語Ⅴ b	長崎 清美	231421・231422	405
日本語Ⅵ a	鈴木 美希	231511・231512	405
日本語Ⅵ a	長崎 清美	231521・231522	406
日本語Ⅵ b	鈴木 美希	231611・231612	406
日本語Ⅵ b	長崎 清美	231621・231622	406
日本事情Ⅰ〔地理〕	高橋 健太郎	231701・231702	407
日本事情Ⅱ〔自然〕	山縣 毅	231801・231802	408
日本事情Ⅲ〔歴史〕	井上 桂子	231901・231902	408
日本事情Ⅳ〔思想〕	佐藤 美奈子	232001・232002	409
日本事情Ⅴ〔社会〕	片岡 栄美	232101・232102	410
日本事情Ⅵ〔政治・法律〕	三竹 直哉	232201・232202	410
日本事情Ⅶ〔文学〕	内藤 寿子	232301・232302	411
日本事情Ⅷ〔文化・芸術〕	佐藤 美奈子	232401・232402	412
日本事情Ⅸ〔経済〕	瀬戸岡 紘	232501・232502	413
日本事情Ⅹ〔経営〕	中川 淳平	232601・232602	413

Ⅲ. 随意科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
宗教学概説	池上 良正	232901・232902	417
宗教学概説	川上 新二	233101・233102	417
宗教学概説	矢野 秀武	233001・233002	418
宗教人類学	佐藤 憲昭	075001・075002・ 075003	419
書道史	那須 隆吉	017301・017302	420
哲学概説	久保 陽一	233301・233302	420
哲学概説	末木 恭彦	233201・233202	421
東洋思想史	末木 恭彦	016801・016802・ 016803	422
日本宗教文化史	小川 順敬	232701・232702	423
日本仏教史	松本 信道	046601・046602	424
日本民俗学	谷口 貢	017101・017102・ 017103	424
比較思想特講	末木 恭彦	233501	425
美術史概説	北野 良枝	017801・017802・ 017803	426
編集実務	小檜山 範男	017201・017202	427
民間信仰論	谷口 貢	017901・017902・ 017903	428
民衆宗教成立史	鈴木 一馨	232801・232802	429
倫理学概説	河谷 淳	233401・233402	430
歴史哲学	久保 陽一	233551	431
英語（海外演習）			432
フランス語（海外演習）			433
中国語（海外演習）			434

Ⅳ. 教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
医療福祉論	宮本 博司	065821・065822	437
インド仏教文化史	金沢 篤	003801・003802	437
英語科教育法Ⅰ	佐藤 真二	031311	438
英語科教育法Ⅰa	町田 尚子	438801	439
英語科教育法Ⅰb	町田 尚子	438911	440
英語科教育法Ⅱ	佐藤 真二	031401	441
英語科教育法Ⅱa	町田 尚子	439001	442
英語科教育法Ⅱb	町田 尚子	439111	443
外国考古学概説	飯島 武次	044401・044402	444
介護等体験	北村 三子	089121	445
介護等体験	萩原 建次郎	089131	446
介護等体験指導	伊藤 茂樹	087951	446
介護等体験指導	遠藤 司	087921	447
介護等体験指導	大浜 幾久子	087931	447
介護等体験指導	北村 三子	087941	448
介護等体験指導	豊田 千代子	087911	448
介護等体験指導	萩原 建次郎	087961	449
介護等体験指導	山本 敏子	087971	449
学習・発達論	飯田 都	214201	450
学習・発達論	飯田 都	214601	451
学習・発達論	大浜 幾久子	213901	452
学習・発達論	大浜 幾久子	214001	452
学習・発達論	川原 誠司	213801	453
学習・発達論	角野 善司	214301	454
学習・発達論	角野 善司	214401	455
学習・発達論	角野 善司	214501	456
学習・発達論	藤原 善美	214101	457
学習・発達論	藤原 善美	344001	457
学習指導と学校図書館	松尾 不二夫	088101	458
学習指導と学校図書館	松尾 不二夫	088201	459
学校経営と学校図書館	松尾 不二夫	086901	460
学校経営と学校図書館	松尾 不二夫	087001	461
学校図書館メディアの構成	笠川 昭治	087601	462
学校図書館メディアの構成	源 昌久	087501	462
家庭福祉論	武山 梅乗	065101・065102	463
教育課程論	大浜 幾久子	214901	463
教育課程論	大浜 幾久子	215001	464
教育課程論	川原 誠司	214801	465
教育課程論	杉山 二季	215201	466
教育課程論	杉山 二季	215601	467
教育課程論	角野 善司	215301	468
教育課程論	角野 善司	215401	469
教育課程論	角野 善司	215501	470
教育課程論	藤原 善美	215101	471
教育課程論	藤原 善美	344101	471
教育関係法規	村元 宏行	085101	472
教育関係法規	村元 宏行	085201	473
教育基礎論	伊藤 茂樹	212301	474

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
教育基礎論	伊藤 茂樹	212401	474
教育基礎論	伊藤 茂樹	212701	475
教育基礎論	北村 三子	212101	475
教育基礎論	北村 三子	212201	476
教育基礎論	豊田 千代子	212001	476
教育基礎論	萩原 建次郎	212501	477
教育基礎論	山本 敏子	212601	477
教育基礎論	山本 敏子	343801	478
教育史	山本 敏子	085801	479
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	伊藤 茂樹	083601・083602	479
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	伊藤 茂樹	306201・306202	480
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	遠藤 司	083201・083202	480
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	遠藤 司	083901・083902	481
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	大浜 幾久子	084151・084152	481
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	北村 三子	083501・083502	482
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	北村 三子	084101・084102	482
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	豊田 千代子	083101・083102	483
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	豊田 千代子	083801・083802	483
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	萩原 建次郎	083401・083402	484
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	山本 敏子	083701・083702	485
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	山本 敏子	084001・084002	485
教育実習指導	伊藤 茂樹	088051	486
教育実習指導	遠藤 司	088021	486
教育実習指導	大浜 幾久子	088031	486
教育実習指導	北村 三子	088041	487
教育実習指導	豊田 千代子	088011	487
教育実習指導	萩原 建次郎	088061	487
教育実習指導	山本 敏子	088071	488
教育社会学	伊藤 茂樹	085701・085702	488
教育情報学	石橋 達也	085501	489
教育制度・環境論	伊藤 茂樹	213201	490
教育制度・環境論	伊藤 茂樹	213301	490
教育制度・環境論	伊藤 茂樹	213601	491
教育制度・環境論	北村 三子	213001	492
教育制度・環境論	北村 三子	213101	493
教育制度・環境論	豊田 千代子	212901	494
教育制度・環境論	萩原 建次郎	213401	494
教育制度・環境論	山本 敏子	213501	495
教育制度・環境論	山本 敏子	343901	496
教育調査	須藤 康介	086001	497
教育哲学	北村 三子	085401	498
教育とメディア	石橋 達也	076801	499
教育とメディア	石橋 達也	076901	500
教育とメディア	石橋 達也	077001	501
教育とメディア	石橋 達也	077101	502
教育とメディア	石橋 達也	077201	503
教育とメディア	石橋 達也	077301	504
教育とメディア	石橋 達也	305501	505
教育とメディア	芝崎 順司	077401	505
教育とメディア	芝崎 順司	077501	506

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
教育とメディア	芝崎 順司	077601	506
教育とメディア	芝崎 順司	077701	506
教育評価	大浜 幾久子	085301	507
教育臨床	遠藤 司	080401	507
教育臨床	遠藤 司	080901	508
教育臨床	遠藤 司	081001	509
教育臨床	川原 誠司	081101	510
教育臨床	佐藤 尚人	080301	511
教育臨床	佐藤 尚人	080701	512
教育臨床	佐藤 尚人	080801	513
教育臨床	目良 秋子	080501	513
教育臨床	目良 秋子	080601	514
教育臨床	目良 秋子	305901	514
教育臨床心理学	牟田 隆郎	085601	515
教職入門	天井 勝海	076711	516
教職入門	天井 勝海	305401	517
教職入門	藤木 篤典	076701	518
経済原論	浅野 克巳	114001	519
経済原論	藤原 碩宣	324401・324402	520
現代社会の諸問題と教育Ⅰ	鈴木 朋実	082901	521
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	鈴木 朋実	086201	521
現代商業論	辰馬 信男	152651	522
現代美術	矢野 陽子	028601・028602	523
考古学特講Ⅰ	酒井 清治	052711・052712	524
考古学特講Ⅲ	小林 謙一	052911・052912	525
考古学特講Ⅴ	寺前 直人	053011・053012	526
考古学特講Ⅶ	矢野 和之	053031・053032	526
公的扶助論	伊藤 秀一	065321・065322	527
国語科教育法Ⅰ	久保田 實	022811	528
国語科教育法Ⅱ	久保田 實	022911	529
西域美術史	松平 美和子	053101・053102	530
ジェンダーと教育Ⅰ	高井 葉子	082511	530
ジェンダーと教育Ⅱ	高井 葉子	082521	531
自然地理学概説 自然地理学概論	鈴木 秀和	043101・043102	532
自然地理学概説	角田 清美	304501	533
自然地理学概説 自然地理学概論	高木 正博	043201・043202	533
視聴覚教育	佐野 博彦	084901	534
視聴覚教育	佐野 博彦	085001	534
児童福祉論	村田 一昭	065621・065622	535
社会科教育法Ⅰ	小川 光夫	088601	536
社会科教育法Ⅰ	小川 光夫	088801	537
社会科教育法Ⅰ	天井 勝海	306301	538
社会科教育法Ⅰ	二井 正浩	089001	539
社会科教育法Ⅰ	藤木 正国	088401	540
社会科教育法Ⅱ	小川 光夫	088701	541
社会科教育法Ⅱ	小川 光夫	088901	541
社会科教育法Ⅱ	天井 勝海	306401	542
社会科教育法Ⅱ	二井 正浩	089101	543
社会科教育法Ⅱ	藤木 正国	088501	544
社会科教育法Ⅲ (地理歴史)	生田 清人	042701	545

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
社会科教育法Ⅲ（地理歴史）	櫻井 明久	042901	546
社会科教育法Ⅲ（地理歴史）	藤木 正国	057301	547
社会科教育法Ⅳ（地理歴史）	生田 清人	042801	548
社会科教育法Ⅳ（地理歴史）	櫻井 明久	043001	549
社会科教育法Ⅳ（地理歴史）	藤木 正国	057401	550
社会科教育法Ⅴ（公民）	小川 光夫	134501	551
社会科教育法Ⅴ（公民）	橋爪 敏	062401	552
社会科教育法Ⅴ（公民）	橋爪 敏	062601	552
社会科教育法Ⅴ（公民）	谷敷 正光	113401	553
社会科教育法Ⅵ（公民）	小川 光夫	134601	554
社会科教育法Ⅵ（公民）	橋爪 敏	062501	554
社会科教育法Ⅵ（公民）	橋爪 敏	062701	555
社会科教育法Ⅵ（公民）	谷敷 正光	113501	556
社会学（福祉）	武山 梅乗	066151・066152	557
社会学原理 社会学原論	呉 炳三	133901・133902	557
社会学原論	橋爪 敏	060001・060002	558
社会教育行政	荒井 隆	086301	558
社会教育計画	萩原 建次郎	084401	559
社会教育施設	萩原 建次郎	085901	560
社会教育実習	豊田 千代子	084701	560
社会教育実習	萩原 建次郎	084801	561
社会心理学A	坪井 健	058331・058332	561
社会心理学B	坪井 健	058341・058342	562
社会体育Ⅰ	吉田 実生	086501	562
社会体育Ⅱ	吉田 実生	086601	563
社会福祉原論	伊藤 秀一	062801・062802	564
社会福祉原論	船水 浩行	070701	565
社会福祉発達史	堀 千鶴子	063901・063902	565
社会保障論	長尾 譲治	065001・065002	566
宗教科教育法Ⅰ	小山 一乗	011911	567
宗教科教育法Ⅱ	小山 一乗	012001	569
宗教学概説	池上 良正	232901・232902	571
宗教学概説	川上 新二	233101・233102	571
宗教学概説	須藤 寛人	305101	572
宗教学概説	須藤 寛人	305201	572
宗教学概説	矢野 秀武	233001・233002	573
宗教教育	小山 一乗	007101・007102	574
宗教人類学	佐藤 憲昭	075001・075002・075003	575
生涯学習概論Ⅰ	豊田 千代子	084501	576
生涯学習概論Ⅱ	豊田 千代子	084601	576
障害者福祉論	桐原 宏行	065421・065422	577
商業科教育法	黒葛原 正展	113301	578
情報メディアの活用	笠川 昭治	087901	579
情報メディアの活用	源 昌久	087801	579
職業教育Ⅰ	久田 邦明	086701	580
職業教育Ⅱ	久田 邦明	086801	581
職業指導	洪 利志生	113801	581
女性福祉論	堀 千鶴子	065701・065702	582
書道科教育法	那須 隆吉	023001	583

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
人文地理学概説 人文地理学概論	中村 剛	036901・036902・036903	584
人文地理学概説 人文地理学概論	中村 剛	037001・037002・037003	585
人文地理学概説	渡邊 盾夫	304401	586
心理学(福祉)	高橋 良博	066521・066522	586
政治学原論	大塚 桂	324301・324302	587
政治学原論	真下 英二	134801	588
政治学原論	山崎 望	134701	589
青少年指導演習	渡邊 浩司	006701・006702	590
青少年文化	古閑 すま子	086101	590
青少年問題研究	讃岐 真佐子	006601・006602	591
成人学習論	荒井 隆	086401	592
生徒指導論(進路指導を含む)	遠藤 司	079401	592
生徒指導論(進路指導を含む)	遠藤 司	079901	593
生徒指導論(進路指導を含む)	遠藤 司	080001	594
生徒指導論(進路指導を含む)	川原 誠司	080101	595
生徒指導論(進路指導を含む)	佐藤 尚人	079301	596
生徒指導論(進路指導を含む)	佐藤 尚人	079701	596
生徒指導論(進路指導を含む)	佐藤 尚人	079801	597
生徒指導論(進路指導を含む)	目良 秋子	079501	597
生徒指導論(進路指導を含む)	目良 秋子	079601	598
生徒指導論(進路指導を含む)	目良 秋子	305801	598
西洋文化史	田中 佳	046911・046912	599
世界史概説	井村 行子	044201・044202	600
世界史概説	見城 光威	305001	601
世界史概説	小林 惣八	056501・056502	601
禅美術	村松 哲文	006101・006102	602
総合演習Ⅰ(環境・地域)	北村 和夫	081501	602
総合演習Ⅰ(環境・地域)	北村 和夫	306001	603
総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)	野中 弘敏	081901	603
総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)	野中 弘敏	082001	604
総合演習Ⅴ(国際理解・情報)	大浜 幾久子	082811	604
第四紀学	鈴木 毅彦	041101・041102	605
地域福祉論	川上 富雄	065901・065902	606
地形学	大上 隆史	039901・039902	607
地誌学概説 地誌学	川元 豊和	037101・037102	607
地誌学概説	川元 豊和	304201	608
地誌学概説 地誌学	山口 太郎	037301・037302	608
地誌学概説 地誌学	湯田 ミノリ	037201・037202	609
地誌学概説	渡邊 盾夫	304301	609
中国仏教文化史	程 正	003901・003902	610
哲学概説	河谷 淳	305301	610
哲学概説	久保 陽一	233301・233302	611
哲学概説	末木 恭彦	233201・233202	612
道德教育の研究	井上 勝	078301	613
道德教育の研究	井上 勝	078401	614
道德教育の研究	井上 勝	305601	615
道德教育の研究	杉崎 洋一郎	078101	616
道德教育の研究	杉崎 洋一郎	078201	616

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
道徳教育の研究	藤木 篤典	077901	617
道徳教育の研究	藤木 篤典	078001	617
東洋思想史	末木 恭彦	016801・016802・ 016803	618
読書と豊かな人間性	松尾 不二夫	087201	619
読書と豊かな人間性	松尾 不二夫	087301	620
特別活動論	井上 勝	079011	621
特別活動論	井上 勝	079111	622
特別活動論	井上 勝	305711	623
特別活動論	杉崎 洋一郎	078811	624
特別活動論	杉崎 洋一郎	078911	624
特別活動論	藤木 篤典	078611	625
特別活動論	藤木 篤典	078711	626
日本考古学概説	酒井 清治	044301・044302	626
日本史概説	菅野 洋介	304801	627
日本史概説	小泉 雅弘	056401・056402	628
日本史概説	鈴木 雅晴	304901	628
日本史概説	野尻 かおる	056301・056302	629
日本宗教文化史	小川 順敬	232701・232702	630
日本仏教文化史	藤井 淳	004001・004002	631
日本文化史	廣瀬 良弘	047111・047112	631
日本民俗学	谷口 貢	017101・017102・ 017103	632
博物館概論 博物館学Ⅰ（概論）	湯淺 隆 太田 喜美子	056701・056702	632
博物館学Ⅱ（資料論） 博物館資料論	岸上 興一郎	056801・056802	633
博物館学Ⅲ（経営論・情報論）	岸上 興一郎	056901	634
博物館実習Ⅰ（館務）	湯淺 隆 寺前 直人 太田 喜美子	057001	634
博物館実習Ⅱ（収集）	太田 喜美子 久保田 昌希 佐々木 真 中野 達哉 瀧音 能之 國見 徹 熊本 史雄	057101	635
博物館実習Ⅲ（見学）	太田 喜美子 松本 信道 酒井 清治	057201	635
美術史概説	北野 良枝	017801・017802・ 017803	636
福祉科教育法	桐原 宏行	070801	637
仏教美術	村松 哲文	006201・006202	638
仏教民俗学	佐藤 憲昭	006301・006302	639
保健福祉論	山本 哲也	065201・065202	640
民間信仰論	谷口 貢	017901・017902・ 017903	640
民衆宗教成立史	鈴木 一馨	232801・232802	641

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
民法（総則・物権法） 民法Ⅰ（総則・物権法） 民法Ⅰ	熊谷 芝青	127801・127802・ 127803	642
民法一部 民法Ⅰ	和知 恵一	098301・098302	643
リハビリテーション論	佐藤 将朗	064901・064902	644
倫理学概説	河谷 淳	233401・233402	645
老人福祉論	東條 光雅	065521・065522	646
経済原論	休講		
考古学特講Ⅱ	休講		
考古学特講Ⅳ	休講		
考古学特講Ⅵ	休講		
考古学特講Ⅷ	休講		
国際社会福祉論	休講		

I. 全学共通科目

1. 宗 教 教 育 科 目

履修コード	206451
科目名	坐禅
担当者名	熊本 英人 池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。</p> <p>この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。</p> <p>(ねらい)</p> <p>今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考えたいものです。</p> <p>坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしょう。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>半期単位ですので、全体で15回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。</p> <p>1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得)</p> <p>4～「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です)</p> <p>(前半は黙々と坐禅を行い、後半は道元禅師が坐禅の意義と作法について書かれた『正法眼蔵』「坐禅儀」の講義を聞きます)</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	<p>実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。抽選登録ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。</p>
成績評価の方法	平常点(90%)、レポート(10%)を総合して成績評価とします。
教科書/テキスト	適宜、プリントにて配布します。
参考書	『坐禅—講本—』(更生社)2,226円

履修コード	206551
科目名	坐禅
担当者名	熊本 英人 池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。</p> <p>この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。</p> <p>(ねらい) 今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。</p>
---------------------	--

坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしよう。

授業スケジュール	<p>半期単位ですので、全体で15回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。</p> <p>1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得) 4～「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です) (前半は黙々と坐禅を行い、後半は道元禪師が坐禅の意義と作法について書かれた『正法眼蔵』「坐禅儀」の講義を聞きます)</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。抽選登録ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。
成績評価の方法	平常点(90%)、レポート(10%)を総合して成績評価とします。
教科書/テキスト	適宜、プリントにて配布します。
参考書	『坐禅—講本—』(更生社)2,226円

履修コード	206401
科目名	坐禅
担当者名	角田 泰隆 池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。</p> <p>この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。</p> <p>(ねらい) 今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。</p> <p>坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしよう。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>半期単位ですので、全体で13回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。</p> <p>1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得) 4～「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です) (前半は黙々と坐禅を行い、後半は道元禪師が坐禅の意義と作法について書かれた『正法眼蔵』「坐禅儀」の講義を聞きます)</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。抽選登録ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。
成績評価の方法	平常点(90%)、レポート(10%)を総合して成績評価とします。
教科書/テキスト	適宜、プリントにて配布します。
参考書	『坐禅—講本—』(更生社)2,226円

履修コード	206501
科目名	坐禅
担当者名	角田 泰隆 池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。 この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。 (ねらい) 今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考えたいものです。坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしよう。
---------------------	---

授業スケジュール	半期単位ですので、全体で13回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。 1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得) 4～「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です) (前半は黙々と坐禅を行い、後半は道元禅師が坐禅の意義と作法について書かれた『正法眼蔵』「坐禅儀」の講義を聞きます)
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。抽選登録ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。
成績評価の方法	平常点(90%)、レポート(10%)を総合して成績評価とします。
教科書/テキスト	適宜、プリントにて配布します。
参考書	『坐禅-講本-』(更生社)2,226円

履修コード	206101
科目名	自然と宗教
担当者名	小川 順敬

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 人間は古来から、自然のいとなみの背後に説明のつかない大きな力を感じ、自然の事物や、自然現象を崇拜の対象としてきたと言われます。それでは、人間は自然の背後にどのような「説明のつかない力」をみたのでしょうか。あるいは、自然を人間とのつながりでどのようにとらえ、考えてきたのでしょうか。この講義では、宗教と自然との関わりという角度から、これらの問題を考えてゆくことにしたいと思います。</p> <p>(到達目標) 最初に、宗教現象を考えていくための宗教学、宗教人類学の基本的な概念を概説、紹介します。その後、山と宗教、海と宗教、森と宗教、また仏教と自然、キリスト教と自然などのテーマを立て、具体的事例をあげながら人間と自然との宗教的な関わりを紹介していくことにしたいと思います。また、人間も自然の一部です。人間そのものをどの様にとらえようとしてきたのか、仏教、キリスト教や伝統宗教などから事例を取り上げて紹介してゆきたいと考えています。宗教と自然を外なる自然と、内なる自然の2つの側面から考えてみることにしたいと思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目標・進め方・約束事について 2. 宗教と宗教研究について 3. アニミズムとは何か 4. タイラーのアニミズム説 5. 環境とアニミズム説 6. アニミズム説批判 7. 日本の民俗宗教 靈魂観をめぐって 8. 自然と生命の更新 9. 来訪神信仰 10. 日本の来訪神信仰 11. まれびと 12. 異人 13. 災害と宗教 その1 14. 災害と宗教 その2 15. 前期のまとめ 16. いのちとアニミズム 17. 生命観と靈魂観 18. からだ・性 男性と女性 19. からだ・性 逸脱する性 その1 20. からだ・性 逸脱する性 その2 21. 生殖 いのちはいつから宿るのか 22. 生殖 民俗生殖観をめぐって 23. ころの所在 24. ころとからだ その1 25. ころとからだ その2 26. 原始心性について 27. レヴィ・ブリュルとレーナルト 28. 人格概念考 29. アニミズム再考 30. 後期のまとめ
----------	---

準備学習	授業準備として次回授業で取り上げる内容について、関連資料のコピーに眼を通しておくこと。また、授業で行う小テストの内容は必ず復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点

成績評価の方法	原則として、年8回の「小テスト」(平常点)が2割、夏期レポート(前期試験に相当)が4割、年度末の筆記試験が4割として評価します。成績評価の具体的な方法、レポート課題の内容、年度末試験の方針、小テストの評価の仕方などは最初の授業で詳しく説明します。
---------	---

教科書/テキスト	関連資料のコピーを配布します。原則として教科書は用いません。
----------	--------------------------------

参考書	講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。
-----	------------------------

履修コード	206201
科目名	社会と宗教
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本講義では、社会と宗教との様々な関わりについて学ぶ。前期では、宗教の社会的な機能や集団形態、宗教形態の時代的変遷、宗教と紛争・経済・文化等との関わりを学習し、後期では宗教と政治・教育との関わりを中心に学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>宗教の思想や活動は、時に社会に大きな影響を及ぼすことがある。さらに宗教は社会一般の制度と関わる公的側面を持つこともある。こういった点からすれば、宗教を信じていない人でも、宗教に関する確かな知識を持って自分の意見を紡ぎあげていくことは重要であろう。そのような点を学ぶことが本講義の目標となる。具体的には、宗教が社会にプラスとマイナス双方の影響を与える力を持っていることを具体的な事例から理解すること、また近現代社会における政治・教育と宗教との様々な関係を理解し、我々にとって自明な政教分離という考え方の形成過程とその意味について考察することが目標となる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教を外から見る 2. 宗教の様々な機能 3. 様々なタイプの宗教集団 4. 宗教は衰退するのか 世俗化論 5. 現代における宗教の変容 6. 宗教と紛争1 ナショナリズム 7. 宗教と紛争2 テロリズム 8. カルト問題1 9. カルト問題2 10. 戦後日本の宗教法 11. 宗教と福祉 12. 映像メディアと宗教 13. 宗教と経済1 会社と宗教 14. 宗教と経済2 イスラーム 15. 前期まとめ 16. 政教関係 概論 17. 政教分離の歴史1 西洋 18. 政教分離の歴史2 日本 19. 宗教と政治1 国家神道 20. 宗教と政治2 靖国神社と戦没者慰霊 21. 宗教と政治3 アメリカ合衆国 22. 宗教と政治4 フランス 23. 宗教と政治5 イギリスとドイツ 24. 宗教と政治6 タイ 25. 宗教と政治7 政教関係の比較 26. 宗教と教育1 フランスとアメリカ合衆国 27. 宗教と教育2 イギリスとドイツ 28. 宗教と教育3 日本の教育と宗教 29. 宗教と教育4 日本の倫理道徳教育 30. まとめ
----------	--

準備学習	宗教学や社会学の基礎知識は必須ではないが、そのような知識を持っていると比較的理解しやすい。
------	---

履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ YeStudyを利用した課題20%、 ・ 前期レポート（夏休み前に課題を提示・後期初回提出）30%、 ・ 後期の定期試験期間における筆記試験50%
---------	---

教科書／テキスト	なし
----------	----

参考書	<p>櫻井義秀・三木英 『よくわかる宗教社会学』 ミネルヴァ書房、2007年。</p> <p>中野実 『宗教と政治』 新評論、1998年。</p> <p>その他にも授業時に随時紹介する。ただし、いずれも授業時に使用するものではない。</p>
-----	--

その他	なし
-----	----

履修コード	205101
科目名	仏教と人間
担当者名	新井 一光
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インド仏教の歴史と基本思想を概観する。仏教の基本的教義に関する知識を得るとともに、仏典及び古典インド文献の読解を通じて、仏教が何を真に主張するのか考察する。
授業スケジュール	仏教以前のインド及びインド仏教の歴史と基本思想を概観する。1-4 イントロダクション：「仏教学」について、5-7 仏教以前のインド（ヴェーダ、ウパニシャッド）、8-11 釈尊の伝記、12-16 原始仏教の思想（縁起説、無我説等）、17-20 部派仏教、21-24 大乘仏教、25～ 大乘仏教の展開。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業は講義形式で進めるが、参加者に資料、テキストを読んでもらい質問を当てるので、積極的な取り組みが要求される。
成績評価の方法	年度末の試験及び数度のレポート、しばしば行う小テストによって総合的に評価する。
教科書／テキスト	最初の授業において指示する。
参考書	

履修コード	203001
科目名	仏教と人間
担当者名	粟谷 良道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本に伝承された仏教は、日本の文化と深く関わりながら、先祖供養や祈願祈祷などを行うことによって受け継がれてきました。お盆やお彼岸の先祖供養、お正月のご祈祷など、日本の仏教は人びとの暮らしの中に定着している宗教と言えます。そのような日本の仏教を理解するには、日本の文化である習俗や慣習などの民俗を学ぶと同時に、インドから伝わる仏教の理念としての教義を学ぶ必要があります。 (到達目標) まず、日本の仏教を理解するために、その基層となっている宗教文化について学びます。そして、日本の文化と交流しながら伝承されてきた日本の仏教について学びます。さらに、より深く仏教を理解するために、仏教の理念として伝承されてきた仏教の教義についても学びます。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> はじめに——授業の概要、建学の理念について—— 宗教について——なぜ宗教が必要なのか—— 宗教について——宗教の定義、宗教の分類—— 宗教について——宗教的基層としてのアニミズム—— 宗教について——シャーマニズム—— 宗教について——民俗宗教—— 日本の宗教——日本人の宗教感覚—— 日本の宗教——山岳信仰—— 日本の宗教——日本人の靈魂観—— 日本の仏教——祖霊信仰—— 日本の仏教——お盆とお彼岸—— 日本の仏教——葬祭仏教—— 神仏習合——神身離脱と護法善神—— 神仏習合——本地垂迹—— 神仏習合——御霊信仰—— <ol style="list-style-type: none"> 釈尊の生涯——出家と求道と悟り—— 釈尊の生涯——精舎の建立と遊行—— 釈尊の教え——縁起説と四諦説—— 釈尊の教え——三法印と無常偈—— 釈尊滅後の仏教——経典編纂と部派仏教—— 大乘仏教——成立と展開—— 禪宗の成立——達摩禪師の渡来と坐禅の受容—— 禪宗の展開——曹洞宗や臨済宗などへの展開—— 禪宗の教え——禪宗祖師たちの教え—— 道元禪師の生涯——出家修行—— 道元禪師の生涯——入宋求法—— 道元禪師の生涯——弘法救生—— 道元禪師の生涯——北越入山—— 道元禪師の教え——典座教訓—— 道元禪師の教え——坐禅弁道——
----------	--

準備学習	準備学習が必要な場合、授業の中で前もって知らせます。
履修上の留意点	授業中は静かにすること。私語は厳禁。真摯な態度で受講すること。
成績評価の方法	定期試験の成績で評価します。
教科書／テキスト	その都度、プリントを配布します。
参考書	授業の中で適宜紹介します。
その他	場合によって、小テストを行う。

履修コード	204001
科目名	仏教と人間
担当者名	飯塚 大展
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教について基本的な概念の理解に主眼を置く。
授業スケジュール	概説(1)、釈尊の生涯(2～5)、インドにおける仏教の展開(原始仏教、部派仏教、大乘仏教、6～10)、仏教の伝播(南伝仏教、北伝仏教、東アジア圏における仏教受容、11～15)、日本仏教史(古代仏教史、中世仏教史、近世仏教史、近代仏教史を順次講義、16～23、日本禅宗史24～30)。
準備学習	松尾剛次『仏教入門』(岩波ジュニア新書)を読了していることが望ましい。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席を前提とする。平常点及び小テスト(50点配分)と期末試験(50点)を以て評価する。
教科書/テキスト	教科書は用いない。適宜プリントを配布する。
参考書	参考書は随時紹介する。

履修コード	205001
科目名	仏教と人間
担当者名	池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 前期は宗教について概観した後、仏教を開いた釈尊の教えとその後のインド仏教史を学んでいく。後期は中国への仏教伝来から宋代禅までの歴史と展開、そして日本の道元禅やその後の展開について学習していきたい。 (到達目標) 現在の日本社会には「宗教」を毛嫌う傾向が見られ、自身を「無宗教」と規定する人が多数存在する。しかし安易な宗教批判や宗教否定は、無批判な宗教肯定同様、実はそれ自体が「宗教的」であることが多い。皆さんの学舎である本学は曹洞宗系の私学であり、「建学の理念」も仏教思想を背景としたものである。講義を通して建学の精神を理解するとともに、仏教を学ぶことによって「正しくものを見る」ことを身につけていただきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	1. 前期導入 2～3. 宗教と科学、日本人と宗教 4. 古代インド史①—ヴェーダー— 5. 古代インド史②—自由思想家— 6～7. 釈尊の生涯 8～9. 釈尊の思想 10. インド仏教史①—結集、根本・枝末分裂(上座部仏教)— 11. インド仏教史②—大乘仏教の成立と展開— 12. インド仏教思想史①—上座部仏教— 13～14. インド仏教思想史②—大乘仏教— 15. 理解度の確認 16. 後期導入 17. 中国仏教史①—伝道時代、研究時代— 18. 中国仏教史②—独立時代、実践時代— 19. 中国禅の歴史と展開 20. 中国禅思想史①—初期禅、唐代禅— 21. 中国禅思想史②—宋代禅— 22. 日本仏教史①—仏教と禅の伝来— 23. 日本仏教史②—古代仏教— 24. 日本禅宗史①—道元禅師の生涯— 25. 日本禅宗史②—道元禅師の思想— 26. 日本禅宗史③—曹洞宗の展開— 27. 日本禅宗史④—臨済宗の展開— 28. 禅と日本文化 29. 坐禅の科学的研究 30. まとめ
----------	--

準備学習	“宗教”に対する思い込みや偏見を捨て、“批判的な態度”で授業にのぞんで欲しい。 授業は人文科学系の教義仏教を中心に進めていくが、我々に身近な社会科学系の民俗仏教については各自で関心を持ち、その異同について思いを巡らせて欲しい。
履修上の留意点	専用のノートを用意すること。
成績評価の方法	定期試験70%、小テスト(不定期)30%。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	プリントを配布。また、講義中に随時紹介する予定である。
その他	私語・携帯電話・メール等厳禁、ひどい場合は退室を要請する。講義開始後30分以降は、特別の事情が無い限り入室禁止。

履修コード	205121
科目名	仏教と人間
担当者名	池上 光洋

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>(授業概要) 前期は宗教について概観した後、仏教を開いた釈尊の教えとその後のインド仏教史を学んでいく。後期は中国への仏教伝来から宋代禪までの歴史と展開、そして日本の道元禪やその後の展開について学習していきたい。</p> <p>(到達目標) 現在の日本社会には「宗教」を毛嫌にする傾向が見られ、自身を「無宗教」と規定する人が多数存在する。しかし安易な宗教批判や宗教否定は、無批判な宗教肯定同様、実はそれ自体が“宗教的”であることが多い。皆さんの学舎である本学は曹洞宗系の私学であり、「建学の理念」も仏教思想を背景としたものである。講義を通して建学の精神を理解するとともに、仏教を学ぶことによって「正しくものを見る」ことを身につけていただきたい。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期導入 2～3. 宗教と科学、日本人と宗教 4. 古代インド史①—ヴェーダ— 5. 古代インド史②—自由思想家— 6～7. 釈尊の生涯 8～9. 釈尊の思想 10. インド仏教史①—結集、根本・枝末分裂(上座部仏教)— 11. インド仏教史②—大乘仏教の成立と展開— 12. インド仏教思想史①—上座部仏教— 13～14. インド仏教思想史②—大乘仏教— 15. 理解度の確認 16. 後期導入 17. 中国仏教史①—伝道時代、研究時代— 18. 中国仏教史②—独立時代、実践時代— 19. 中国禪の歴史と展開 20. 中国禪思想史①—初期禪、唐代禪— 21. 中国禪思想史②—宋代禪— 22. 日本仏教史①—仏教と禪の伝来— 23. 日本仏教史②—古代仏教— 24. 日本禪宗史①—道元禪師の生涯— 25. 日本禪宗史②—道元禪師の思想— 26. 日本禪宗史③—曹洞宗の展開— 27. 日本禪宗史④—臨済宗の展開— 28. 禪と日本文化 29. 坐禪の科学的研究 30. まとめ
----------	---

準備学習	<p>“宗教”に対する思い込みや偏見を捨て、“批判的な態度”で授業にのぞんで欲しい。 授業は人文科学系の教義仏教を中心に進めていくが、我々に身近な社会科学系の民俗仏教については各自で関心を持ち、その異同について思いを巡らせて欲しい。</p>
履修上の留意点	専用ノートを用意すること。
成績評価の方法	定期試験70%、小テスト(不定期)30%。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	プリントを配布。また、講義中に随時紹介する予定である。
その他	私語・携帯電話・メール等厳禁、ひどい場合は退室を要請する。講義開始後30分以降は、特別の事情が無い限り入室禁止。

履修コード	202801
科目名	仏教と人間
担当者名	池上 良正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「仏教」には高度な救済思想から、生活に根づいた風俗・習慣まで、多様な幅がある。この講義では、そもそも仏教は人類史のどういう段階で、どのようにして生まれたのかという問題を概説する。さらに、それらが現代の日本に生きている私たちの生活と、どのように関わっているのかを、「死者供養」というトピックから考えてみたい。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は、「世界宗教」の発生・展開という人類史の大きな流れのなかで、仏教の成立過程とその意義を考察する。(1) 導入。(2~5) 世界宗教としての仏教の誕生。(6~10) 部派仏教と大乘仏教。(11~15) 大乘経典の成立と思想。 後期は、「死者供養」という実践に焦点を合わせ、東アジアの民衆文化のなかで、仏教がどのような影響を及ぼしたのかを考察する。さらに一神教文化圏との比較を扱う。(16~20) 死者供養の形成。(21~25) 日本における仏教の葬祭化。(26~28) 一神教文化における「死者供養」。(29~30) 死者供養と世界宗教。
----------	--

準備学習	とくに求めないが、前回の講義についてよく復習してから講義に臨むこと。
履修上の留意点	私語は厳禁。欠席した分のノート、プリントについては自己責任で対処すること。
成績評価の方法	毎回出席を取る。前期と後期の最後にそれぞれ筆記試験を行なう。 評価は、試験70%、平常点30%。
教科書/テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	

履修コード	204401
科目名	仏教と人間
担当者名	池田 練太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義は、駒澤大学の建学の理念に基づいておこなわれるものである。この講義を通して、人間がかかえるさまざまな問題について考えながら、宗教全般についての理解を深め、仏教や禅に関する基本的な思想や文化についての知識を身につける。 (到達目標)
---------------------	---

	複雑・多岐にわたる現代社会の諸問題に対して、仏教や禅はどのような意味を持ち、またいかなる役割を果たせるか、理性的に考える力を養うことを目指す。
--	---

授業スケジュール	第1回：宗教とは何か 第2~3回：世界の宗教 第4回：仏教の基本的な立場 第5~6回：仏教の起こり 第7~9回：ブッダの生涯 第10~13回：ブッダの思想 第14~16回：インドにおける仏教の展開 第17~20回：世界に広がった仏教（東南アジア、中国、チベット等） 第21~23回：日本仏教の歴史と特質 第24~25回：禅の歴史 第26~27回：禅の思想 第28~29回：道元禪師・瑩山禪師と曹洞宗 第30回：現代社会と仏教
----------	--

準備学習	日ごろから新聞・ラジオ・テレビ・インターネット等にみられる報道に注意をはらい、宗教・仏教・禅に関する情報や、世界で起きているさまざまな出来事に意識を向けて生活する。
履修上の留意点	自分の専門領域と無関係だと決めつけず、自らの日常生活や社会問題との関わりをつねに意識しながら受講する姿勢で臨んでほしい。
成績評価の方法	年度末におこなう定期試験（70%）および平常点（30%）によって評価する。
教科書/テキスト	教科書は特に用いない。必要に応じて資料等を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修コード	206001
科目名	仏教と人間 [再クラス]
担当者名	石井 公成

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏教には宗教としての側面と、西洋流の宗教という枠組みにおさまらない側面がある。その仏教がいかに生まれ、どのように変容していったかを、様々な時代・国の宗教や思想と比較しながら検討していく。その際、インド→中国→朝鮮→日本といった直線的な伝来の図式にとらわれず、諸国・諸地域間の相互興隆、相互影響に注意しながら見てゆく。仏教の基礎知識をわきまえ、その考え方を踏まえたくうえで自分なりに物事を判断できるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1段階：仏教を研究するための資料・研究書・辞典・ネット上のサイトなどの紹介。 第2段階：釈尊の生涯とその教え 第2段階：釈尊の生涯とその教え 第3段階：インドの諸思想 第4段階：仏教教理の進展と教団の分裂 第5段階：大乘仏教の成立 第6段階：中国仏教の特色と禅宗の成立 第7段階：朝鮮仏教の特色 第8段階：ベトナム仏教の特色 第9段階：日本の仏教受容 第10段階：日本における仏教の変容 第11段階：近代のアジア諸国と欧米における仏教 第12段階：仏教研究の課題 * 以上の内容を扱うが、諸国の宗教・思想や仏教に関連する文学なども取り上げて検討する。</p>
----------	--

準備学習	漢文や古文の資料を多く用いるため、教科書や入門書、あるいは辞典にふさされている簡単な文法の説明などを読み、慣れておくことが望ましい。
履修上の留意点	次々に当てていくため、積極的に参加する姿勢が要求される。
成績評価の方法	年間に10回以上、授業の途中で不定期におこなう小レポートによって評価する。質問への回答など、授業に進んで取り組む姿勢が見られれば考慮する。中間試験・期末試験はおこなわない。
教科書/テキスト	毎回、コピー資料を配布する。
参考書	最初の授業の際、リストを配布する。

履修コード	203801
科目名	仏教と人間
担当者名	石井 修道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>「仏教と人間」は、本学の宗教教育科目である。宗教、特に仏教は何を説き、その教えが一人一人とどうかかわるかを学びたい。 仏教の教えを基本に、道元禅師の教えとそれらがどのように関連をもつのか。また、道元禅師は、中国の禅者をどのように取り上げ、自己の主張にどのように継承されているかを具体的に明らかにしていきたい。 特に道元禅師の説かれる「坐禅」は、如何なる特色があるか、それがわれわれの生き方に何を教えているかを述べたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 宗教と自己との関係。(2) 釈尊の伝記と教え(七回)。(3) 中国禅者の個性と特色(六回)。(4) 日中交流と仏教(三回)。(5) 道元の伝記と思想(五回)。(6) 坐禅。(7) 曹洞宗(二回)。
準備学習	今までに仏教はあまり関心のなかった人も多いため、これを機会に関心をもち、いろんな機会が与えられると思われる。
履修上の留意点	「仏道をならうとは、自己をならうなり」(道元)をいかに主体的に考えるかを常に心がけて欲しい。
成績評価の方法	教科書の感想文のレポート(夏休み後に提出)20点と学期末試験80点満点で評価し、出席数も考慮する。
教科書/テキスト	鎌田茂雄『仏陀の観たもの』(講談社学術文庫)693円
参考書	

履修コード	205801
科目名	仏教と人間〔再クラス〕
担当者名	伊藤 良久
授業概要/ 到達目標（ねらい）	本学建学の理念である「仏教の教義と曹洞宗立宗の精神」について理解を深め、仏教や禅に関する基本的な知識を身に付けてもらうことを講義のねらいとする。特に、一仏両祖、つまり仏教を開かれた釈尊、日本曹洞宗の祖道元禪師、曹洞宗を広められた瑩山禪師について、その伝記と教え・思想を学ぶ。その上で、現代に生きる私たちにとって仏教がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たせるか考えていきたい。
授業スケジュール	第1～2回：宗教・仏教とは何か、第3～9回：釈尊の生涯と思想、第10～13回：釈尊滅後の展開（原始仏教、部派仏教、大乘仏教）、第14～15回：仏教の中国伝来、第16～17回：中国禅宗の成立と展開、第18～22回：道元禪師の生涯と思想、第23～27回：瑩山禪師の生涯と思想、第28～29回：曹洞宗の展開、第30回：現代社会と仏教。
準備学習	建学の理念をよく理解し、また仏教や禅関係の入門書を読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	自らの日常生活との関わりを意識しながら主体的に授業に参加してほしい。
成績評価の方法	年度末におこなう筆記試験と出席などの平常点によって評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修コード	203501
科目名	仏教と人間
担当者名	岩永 正晴
授業概要/ 到達目標（ねらい）	仏教および曹洞宗の教えに親しんで貰うことを、本講義の目的とします。仏教について冷静に考察するための材料を提供したい、と考えています。
授業スケジュール	本講義の目的を達成するため、本講義では以下のことを行いたいと思います。 まず、仏教の教主である釈尊と曹洞宗の両祖（道元禪師・瑩山禪師）のご生涯を紹介する。その後、曹洞宗の読誦経典である『修証義』を講読して、仏教の考え方や歴史を説明します。 第1回 授業の概要 第2回～第4回 釈尊の生涯 第5回～第10回 両祖（道元禪師・瑩山禪師）の生涯 第11回～第30回 『修証義』の講読（仏教及び曹洞宗の歴史と教え）
準備学習	高校生の頃に学んだ古文や漢文の復習をしておくことが望ましいかと思えます。また紹介する参考書を1冊でも2冊でも読んで貰いたいと思います。
履修上の留意点	必修科目であるので、安易に欠席することなく、積極的に参加して貰いたい。
成績評価の方法	学年末に実施する試験（定期試験・70点満点）と平常点（30点満点）によって成績評価を行う。
教科書／テキスト	配布資料と『修証義』の経本を配布して教科書とします。特に購入する必要はありません。
参考書	・松尾剛次『仏教入門』、岩波ジュニア新書322、820円 ISBN4-00-500322-2 ・平川彰『仏教入門』、春秋社、1800円 ISBN4-393-13525-3 ・角田泰隆『坐禅ひとすじー永平寺の礎をつくった禅僧たち』、角川文庫15037、ISBN978-4-04-407901-7

履修コード	204701
科目名	仏教と人間
担当者名	岡部 雅明
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 仏教は、教義としての仏教や、人びとが実際に信仰として行っている仏教などさまざまなレベルの仏教があります。また、信仰に基づいた仏教として行われている活動にも、時代や地域によるバリエーションが存在します。このような多様性に富む仏教について、宗教一般についての理論も含めて学びます。</p> <p>(到達目標) 仏教についての基本的知識を習得し、またその多様性を理解することです。さらに、宗教が文化などに及ぼす影響などを考察するための知識の習得です。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「仏教と人間」について、アンケート 2. 日本人の宗教意識 3. 日本仏教の現況 4. 仏教儀礼 5. 日本人の霊魂観 6. 宗教起源の諸説 7. 呪術—宗教論 8. 社会的学説と心理学的学説 9. 聖の観念 10. 大伝統と小伝統 11. シャーマニズム 12. 民俗宗教の諸相 13. 日本における仏教の諸相 14. 世界における仏教の諸相 15. 宗教多元主義 16. 仏教成立の背景 17. ゴータマ・シッダールタの生涯 18. ゴータマ・シッダールタの教説 19. 初期仏教 20. 部派仏教 21. 大乘仏教の成立 22. 大乘仏教の思想的特質 23. 大乘仏教の発展 24. 仏教の伝播 25. 日本の仏教受容～奈良仏教 26. 平安仏教 27. 鎌倉仏教 28. 近世の仏教 29. 近代の仏教 30. 写経の実践
準備学習	日本史および世界史に関する基礎的知識を修得しておいて下さい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	定期試験の成績80%、平常点20%場合を基準に、総合的に判断して評価します。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

履修コード	202701
科目名	仏教と人間
担当者名	小川 順敬

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日本人は仏教や寺院と深い関わりをもって生活しています。お彼岸やお盆といった年中行事、葬儀や年忌などの人生儀礼、また時には寺院で「祈願」を行なうなど、仏教は生活の中の宗教として定着してきたといっても良いでしょう。授業ではこうした仏教と私たちとの関わりについて考えていきたいと思ひます。</p> <p>(到達目標) 寺院や家庭、地域共同体で行なわれている行事の意味について私たちは十分に理解しているでしょうか。多くの場合、これらの行事は仏教本来の教えとは異なっています。教義で説く仏教と、私たちが普通に考えている仏教には大きな違いがあるのです。日本仏教は本来の仏教から大きく変容していると考えられているのです。この講義では、私たちがとりまく仏教の現状から初めて、その変容の意味を考えたいと思ひます。変容を考えるためには、本来の仏教の教えについて学ばなくてはなりません。仏教がどの様にして生まれ、発展してきたのか、この点について理解を深めたいと思ひます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目標・進め方・約束事について 2. 日本の民俗宗教と仏教 3. カミとホトケ 4. 仏教伝来と仏教受容 5. 日本人の生死観 6. 日本の人生儀礼 7. 日本の年中行事 8. 日本の霊魂観と仏教 9. お彼岸とお盆 10. 盂蘭盆会とお盆 11. 布施と功德 12. 菩薩の誕生 13. 菩薩の思想 14. 説話の仏教世界 15. 前期のまとめ 16. 釈迦の生涯 17. 釈迦の教え その1 18. 釈迦の教え その2 19. 仏教の伝播 スリランカ 20. 仏教の伝播 ミャンマー 21. 仏教の伝播 タイ 22. 仏教の伝播 中国 23. 仏教の伝播 日本の仏教 24. 神仏習合と本地垂迹説 25. 日本仏教のあゆみ その1 26. 日本仏教のあゆみ その2 27. 日本の仏教宗派 28. 仏像の世界 仏・菩薩 29. 仏像の世界 明王・天 30. 後期のまとめ
----------	---

準備学習	授業準備として次回授業で取り上げる内容について教科書の該当箇所、もしくは事前に関連資料のコピーに眼を通しておくこと。また、小テストの内容は必ず復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	原則として、年8回の「小テスト」(平常点)が2割、夏期レポート(前期試験に相当)が4割、年度末の筆記試験が4割として評価します。成績評価の具体的な方法、レポート課題の内容、年度末試験の方針、小テストの評価の仕方などは最初の授業で詳しく説明します。
---------	---

教科書/テキスト	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』(世界書院)2,100円、および関連資料のコピーを配布します。
----------	---

参考書	講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。
-----	------------------------

履修コード	205701
科目名	仏教と人間 [再クラス]
担当者名	奥野 光賢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学は仏教の教義、中でも曹洞宗の教えを建学の理念とする私立大学である。したがって、この講義が開講されている意義をまずしっかりと認識してもらいたい。講義は、仏教の基本的教義とその歴史の解説を中心とする。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は、下記に指定する教科書によって進める。ただし、教科書のすべてを取り上げるのではなく、内容にしたがって重点的に解説するので、その点あらかじめお断りしておきたい。なお、教科書に入る前に、信教の自由といった問題や宗教学上における仏教の位置などを概説する。 (前期) (1~2) 序論、信教の自由について (3~4) 宗教の分類 (5~6) さまざまな宗教 (7~9) 仏教の誕生—釈尊の伝記 (10~12) 釈尊の説いた道—四諦・八正道 (13~15) 縁起・三法印・四法印・いろは歌・三学 (後期) (16~17) 仏教の流れ—原始仏教・部派仏教・大乘仏教 (18~19) 小乗仏教と大乘仏教 (20~21) 大乘仏教の教え—六波羅蜜 (22~23) 四摂法・四無量心について (24~25) 曹洞宗の歴史と教え (26~28) 尊厳死・安楽死について (DVD鑑賞を含む) (29~30) まとめ
----------	---

準備学習	準備学習は特に必要としない。興味の向いた仏教関係に関する書籍を読んでもらえば十分である。
------	--

履修上の留意点	講義形式ではあるものの、どんどん質問して答えてもらうため、積極的に参加する意欲が必要である。
---------	--

成績評価の方法	学年末試験に出席状況を加味して評価する。出席状況が極端に悪い場合は成績評価できない場合もあり得る。
---------	---

教科書/テキスト	松本史朗『仏教への道』(東京書籍)を教科書とする。その他、プリントを適宜配布する。
----------	---

参考書	適宜指示する。
-----	---------

履修コード	203901
科目名	仏教と人間
担当者名	片山 一良

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間にとって宗教とは何かを考え、宗教としての仏教とは何かを考えたい。
---------------------	------------------------------------

授業スケジュール	前半は宗教一般について、 1. 価値観、2. 科学と宗教、3. 文化、4. 宗教学、5. 宗教、6. 聖と俗、 7. 呪術、8. 神話、9. 儀礼、10. 民族宗教と世界宗教、などについて講じる。 また、その各々について仏教の基本的な捉え方、見方を考える。 後半は仏教の基本的な考え方について、 1. 仏教の歴史と文化、2. 仏教の背景、3. 仏伝、4. 三宝、5. 四法印、6. 縁起、 7. 四諦、8. 業と輪廻、9. 八正道と中道、10. 慈悲などについて講じる。 また、大乘仏教、禅の教えと実践について触れる。 いずれも現代の我々に身近な問題の中で取り上げ、人間、自己について考えたい。
----------	---

準備学習	心を静かに調えること。
------	-------------

履修上の留意点	「人間学」として把握し、学ぶことが望まれる。
---------	------------------------

成績評価の方法	レポート(夏期)、および年度末テストによる。
---------	------------------------

教科書/テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
----------	--------------------------

参考書	片山一良『ブッダのことば パーリ仏典入門』(大法輪閣)など。
-----	--------------------------------

履修コード	203401
科目名	仏教と人間
担当者名	金沢 篤

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、学生諸君に本学の建学の理念である「行学一如」を身をもって体得してもらうことをそのねらいとする。2500年と言われる長き歴史を有する仏教の思想や歴史などを学ぶことは、いうまでもなく、その「学」の一環である。こうした仏教に対する勉学を通して、宗教としての仏教とは何か、現代社会においていかなる意義をもつかを考えながら、自分自身を見つめ直し、自己の存在する意義を見出すことは、仏教の実践の重要な課題であり、まさしく「行」の具現なのである。そして、学び得たものを生かし、仏教的立場から現実の社会を考える視点を持つことが、「行学一如」の理念の具体化ということなのである。
---------------------	--

授業スケジュール	この講義においては、下記のテーマを順次に説明していききたい。 宗教について (5回) ・世界の三大宗教 (3～4回) ・ブッダの生涯 (2～3回) ブッダの悟りと教え (2～3回) ・インド仏教の展開 (2～3回) 仏教東漸 (インドから中国へ) (1回) ・中国仏教の展開 (3～4回) 中国禅宗の成立と展開 (3～4回) ・日本への仏教伝来とその展開 (1～2回) 道元禅の成立と展開 (1～2回)
----------	--

準備学習	自分の生活の身近に仏教的要素を探り、その意味について自分なりに考えておきたい。通常の漢字や日本語の言い回しなど、日本人としてはずかしくない最低限の日本語力を補完しておきたい。寺院と神社の相違などについて思いをいたし、仏教がインドに起源をもつ外来の宗教であることを改めて想起しておきたい。教科書を早い時期に入手して、通読しておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	講義内容を必ずノートすること。出席点を評価に入れるので、欠席しないこと。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	夏休みの課題レポート (20点)、期末テスト (60点)、出席点 (20点) の三つを総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	プリント配布。
----------	---------

参考書	適宜に紹介する。
-----	----------

履修コード	341601
科目名	仏教と人間 [再クラス]
担当者名	木村 誠司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学の建学の理念は、仏教である。仏教の如何なる考えが、建学の理念に反映されているのかを、示し、合わせて、現代における仏教のあり方、近代史における仏教の諸相、インド以来の仏教史を概説する。仏教に対する誤解や通念を払拭することがねらいである。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の理念 1 2. 建学の理念 2 3. 現代の仏教 1 4. 現代の仏教 2 5. 現代の仏教 3 6. 近代の仏教 1 7. 近代の仏教 2 8. 近代の仏教 3 9. 釈迦の生涯 1 10. 釈迦の生涯 2 11. 釈迦の生涯 3 12. インド仏教の諸相 1 13. インド仏教の諸相 2 14. インド仏教の諸相 3 15. インド仏教の諸相 4 16. 中国仏教の諸相 1 17. 中国仏教の諸相 2 18. 中国仏教の諸相 3 19. 中国仏教の諸相 4 20. チベット仏教の諸相 1 21. チベット仏教の諸相 2 22. チベット仏教の諸相 3 23. チベット仏教の諸相 4 24. 日本仏教の諸相 1 25. 日本仏教の諸相 2 26. 日本仏教の諸相 3 27. 日本仏教の諸相 4 28. その他の仏教 1 29. その他の仏教 2 30. その他の仏教 3
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	特になし。
---------	-------

成績評価の方法	授業中、小テストやレポートを課すので、平常点100%で評価する。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	すべてコピーで配布する。
----------	--------------

参考書	適宜指示する。
-----	---------

履修コード	202501
科目名	仏教と人間
担当者名	熊本 英人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「仏教と人間」は、仏教や禅の教えについての理解を深め宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする全学部共通の必修科目である。特に、これから仏教を専門として研究する仏教学部禅学科1年次生にとっては、この講座は、仏教の基礎を学ぶだけでなく、仏教に対する自分の問題意識とその研究方法を習得するための講座である。 (ねらい) 宗教について学ぶことの意味を考え、仏教と禅に関する諸問題や、文化や社会への影響を見ていくことで、本格的に仏教と禅について研究していくうえでこの課題を発見してもらいたい。
---------------------	--

授業スケジュール	次の6つのテーマについて、順次講義する。 1～3. 宗教を学ぶとは 4～8. 民族宗教と世界宗教 9～15. 仏教の起源とその特質 16～22. 仏教の歴史とその特質 23～27. 禅仏教の歴史とその特質 28～30. 曹洞宗の歴史とその特質
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末の筆記試験(80%)と平常点(20%)。
教科書/テキスト	テキストおよび参考資料は、必要に応じてコピーで配布する。
参考書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	205601
科目名	仏教と人間
担当者名	熊本 英人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「仏教と人間」は、仏教や禅の教えについての理解を深め宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする全学部共通の必修科目である。日本人は、なぜ宗教に無関心なのか。実は、意識していないだけで、日常生活の中で宗教的要素に囲まれて生きている。仏教について、知識として憶えるのではなく、自分の身の回りの問題として考えるような材料を提供する。 (ねらい) 仏教を学ぶことによって、宗教に関心を持ち、自分にとって宗教とは何かをあらためて考えてもらいたい。
---------------------	--

授業スケジュール	仏教に限らず、宗教は、社会の変容と相互関係をもって展開してきた。インドにおける仏教の開祖ブッダの伝記や、仏教の歴史や人物などを取り上げながら、現代社会につながる話題として解説していく。 1～3 宗教を学ぶとは 4～12 ブッダの生涯と仏教の歴史 13～21 禅の歴史とその特質 22～30 日本仏教の歴史とその特質
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末の筆記試験(80%)と平常点(20%)。
教科書/テキスト	テキストおよび参考資料は、必要に応じてコピーで配布する。
参考書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	204301
科目名	仏教と人間
担当者名	佐藤 秀孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏教はインドのゴータマ・シッタッタ（釈迦牟尼仏）を開祖とする宗教であり、すでに2500年の歴史を有している。世間一般の仏教に関する理解は、おおむね葬式仏教というイメージが中心であろう。しかし、実際には仏教の思想は生きた人間そのものを見つめるきわめて現代的なものである。仏教が他の諸宗教ときわめて相違する点は、神を持ち出さず、あくまで人間（自己）の苦悩や生死の問題に正面から立ち向かっているところにある。その面で仏教はまさに人間学なのであって、「人（人生）とは如何にあるか」「人（人生）とは如何にあるべきか」を課題にしているわけである。</p>
授業スケジュール	<p>講義では人間学としての仏教の基本的なものの考え方（無常・縁起など）を諸方面から窺い、仏教の現代的意義を探ってみたい。また合わせて本学の建学の理念でもある禅のものの考え方についても、その実践性から禅の人間観・修行観・生活観などの諸方面から説明したい。</p> <p>具体的には、前期に宗教一般の中における仏教の特徴、仏教の開祖ゴータマ・ブッタの生涯に触れ、さらに四諦八正道や三法印など仏教の基本的なものの見方について論じる。</p> <p>後期には仏教の中から特に禅宗について触れ、達磨（ダルマ）に始まる中国禅宗の特徴、中国・日本における禅宗の歴史の変遷について述べ、さらに仏教・禅宗における人間観・修行観・自然観などについて論じる。</p>
準備学習	<p>高校時代に習った日本史や世界史、あるいは倫理に載っている仏教の知識を前もって復習しておくこと。</p>
履修上の留意点	
成績評価の方法	<p>年度末試験およびレポート提出などを中心とするが、さらに出席を重視するのでそのつもりで臨んでもらいたい。</p>
教科書／テキスト	<p>廣澤隆之『図解雑学・仏教』（ナツメ社）1,400円を使用したい。</p>
参考書	<p>奈良康明『仏教と人間』（東京書籍・東書選書）や松本史朗『仏教への道』（東京書籍・東書選書）及び中尾良信『図解雑学・禅』（ナツメ社）などが有益であろう。</p>

履修コード	203201
科目名	仏教と人間
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 生活に合った形で展開している仏教は「民俗仏教」と呼ばれるが、これは縁起や空を説く「教義仏教」とは大きく異なっている。この講座では、日本人の宗教観について考察した後に、仏教文化には教義仏教と民俗仏教との異なる2つのレベルがあることを学習し、さらに教義仏教の思想と行動について考えてみたい。 (到達目標) 受講生は、仏教が人間・社会にとってどのような意味と役割をもっているか、他の諸宗教との比較において説明することができる。そして、仏教文化に見られる教義仏教と民俗仏教との2つのレベルの内容について、それぞれ解説することができるとともに、両者の関係についても説明することができる。
---------------------	--

授業スケジュール	1 はじめに 2 価値中立的立場 3 人間の捉え方 4 家構造と人間の思考 5 風土と人間の思考 6 大震災と宗教 7 一神教の世界観 8 多神教の世界観 9 アニミズム 10 マナイズム 11 呪術・邪術・妖術 12 呪術の心理と論理 13 宗教的エリートとマス 14 教義仏教と民俗仏教 15 前期の総括 16 仏教興起時代のインド文化 17 釈尊の生涯 18 縁起説 19 四諦説 20 法印説 21 原始仏教と部派仏教 22 部派仏教と大乘仏教 23 大乘仏教と禪仏教 24 禪仏教と曹洞宗 25 日本の宗派仏教 26 教義仏教から見た日本仏教 27 民俗仏教から見た日本仏教 28 一仏両祖 29 三宝 30 総括
----------	---

準備学習	授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「教科書」「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。
履修上の留意点	出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。
成績評価の方法	定期試験の成績70%、平常点30%とする。なお、追試験は実施する。
教科書／テキスト	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』世界書院。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	204501
科目名	仏教と人間
担当者名	菅原 壽清

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間の精神世界の根源にあって人びとの生活を支える宗教・仏教文化の理解は、現代社会においても不可欠であると思われます。そこで、本講義では「人間と宗教」という視点から、人間と宗教・仏教について、その営みをとらえてゆきます。 授業は講義形式とし、前半は宗教をとらえてゆくための基礎的な講義を、後半では激動するアジアの今を宗教、仏陀の教え、その展開や伝播と変容、禪のころなどを中心に、DVDやプロジェクターを用いて、ビジュアルな授業を進めてゆきます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>〈宗教へのアプローチ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教と宗教学 (宗教をとらえる視点) 2. 宗教学の研究領域 (多様なアプローチ) <p>〈宗教の多様性〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. さまざまな宗教形態 (アジアの宗教、その多様な形態) 4. 宗教の分類方法 (現代の分類方法) <p>〈人びとの暮らしと仏教〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 仏陀の教え (仏陀の生涯と教え) 6. 仏教の伝播と変容 (中国・チベット仏教) 7. " (日本の仏教) 8. " (神仏習合と分離) 9. 禪のころ (道元禪師の教え) <p>(配付資料、講義中の映像などを全てYeStudyで公開します。また、国内や海外調査などで撮影した多数の写真を、ホームページで公開しています。インターネットなどができれば、なお可です。)</p>
----------	--

準備学習	YeStudyで講義に関する、配付資料、授業ノート、映像を全て公開します。YeStudyに積極的に登録して利用し、予習復習をして下さい。
------	--

履修上の留意点	必須科目なので、毎回出欠の確認を行います。
---------	-----------------------

成績評価の方法	試験 + α + β (詳細は、講義の時説明) α = 出席点 (ABCで付け、積極的な授業参加を評価します) β = レポート点 (課題や参考書に基づいて提出したレポート、授業中に見たDVDの感想など、積極的な授業参加を評価します)
---------	---

教科書/テキスト	特には指定しません。講義資料をプリントして配布します。 また、YeStudyでも、講義ノート、映像、参考図書などを掲載します。 講義において、そのつど参考書や文献を紹介します。 『宗教学ハンドブック』(世界書院)を持っていれば、なお可です。
----------	---

参考書	YeStudyでも、講義ノート、映像、参考図書などを掲載します。 講義において、そのつど参考書や文献を紹介します。
-----	--

その他	特になし。
-----	-------

履修コード	203301
科目名	仏教と人間
担当者名	須藤 寛人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、仏教をひとひととの関わりのなかでとらえます。つまりこの講義での仏教とは、ひとひととが実際に生きた仏教、ひとひとの暮らしのなかの仏教です。そこで、インド亜大陸で生まれた仏教がどのように大きくなり、私たちの住む日本に伝えられてきたのかをこの講義では学んでいただきたいと思います。ひとひとがなにを仏教に求め、また仏教はひとひとに何を与えてきたのでしょうか。それは時代と場所によっては、生きる力であったり、ころの安らかさであったり、時には生活を規制するものであったかもしれません。仏教の全体的な歴史を学びながら現在の私たちの暮らしを見直していくといった姿勢が、本講義を通して養われることを期待します。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 授業の評価と概要、(2) 仏教以前のインド、(3) 仏教誕生、(4) 仏弟子と仏教の広がり、(5、6) 中国の宗教と仏教、(7) 日本：仏教公伝とテラの発生、(8、9) 聖武天皇と神仏習合(10、11)、密教の成立と御霊信仰、(12) 末世と浄土・地獄、(13) 鎌倉以降、(14) 江戸時代の仏教と檀家制度、(15) 明治時代の仏教：開国と神仏分離、(16) 日本人は宗教的か？ 仏教的か？、(17、18、19) 葬儀とその問題点、(20) 日本文化における供養、(21) 日本人と先祖崇拝、(22、23、24) 宗教的職能者と仏教、(25～) まとめ。
----------	--

準備学習	とくに必要はありません。
------	--------------

履修上の留意点	この科目専用のノートを用意し、講義を筆記することを望みます。またレポートの提出をお願いしますが、ネット上の内容のコピーなどにならないように、自分自身で考えたレポートを作成してください。
---------	--

成績評価の方法	毎回出席を取ります。レポートの提出を依頼します。最後に期末試験を行います。それらを総合して成績評価を行います。目安として、試験70%、レポート20%、出席10%になります。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配布します。
----------	-------------

参考書	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』(世界書院)
-----	------------------------------

その他	私語は厳禁です。欠席した分のノート、プリントについては自己責任で対処するように。
-----	--

履修コード	205401
科目名	仏教と人間
担当者名	清野 宏道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【講義概要】 各宗教の考え方や特徴を概観しながら、仏教とはどういう宗教なのか、どういう経緯で成立したのか、その特徴は何か、中でも禅は何を教えるのか、それは一体どういう意義があるのか、なぜ仏教は存在し続けるのか、といった問題を通して仏教の大綱を把握します。</p> <p>【到達目標】 人によって「仏教」の捉え方は様々です。現代の日本には曹洞宗を始め様々な宗派が存在しますが、本来、仏教とは「人間が人間らしく、今ここにある人生を正しく生き抜くための教え」と言えます。すなわち、仏教とは「人間学」なのです。したがって、仏教は「前近代的なもの」ではなく、「怪しげなもの」「おどろおどろしいもの」などでも決してありません。仏教の実態をしっかりと理解することを第一の目標とします。 第二は、釈尊に始まる仏教の歴史を把握し、仏教に生きた人々の在り方を通して今までの自分を見つめ直すことを目標とします。 そして、自分はこれからの大学生活をどう生きていくべきか、本当に大切なものは何か、自分はこのままで良いのか、などと自らに問いかける感性を身につけ、大学生活や今後の人生を思慮深く生きていくための人格的な成熟を目指して頂きたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〔前期〕</p> <p>第1回 宗教の意義 第2、3回 各宗教の特徴 第4、5回 釈尊の生涯 第6回～第15回 仏の十大弟子</p> <p>〔後期〕</p> <p>第16回～第18回 仏教の成立と伝播 第19回～第21回 中国の仏教 第22回～第24回 仏教の日本伝来 第25回～第27回 曹洞宗の教え 第28回～第30回 現代社会における仏教の意義</p>
----------	--

準備学習	入学時に配られたパンフレットの「建学の理念」を読み、駒澤大学が曹洞宗の大学であることを各自銘記して下さい。また、可能であれば自分の家の宗教は何であるか、あるいは何宗に属するのかを確認しておいて下さい。
------	--

履修上の留意点	「仏教と人間」専用のノートを準備し、講義内容をしっかり書き取って下さい。また、講義ごとに自分の意見や感想などを記し、年間を通して自分の思考の足跡がわかるようにして下さい。講義には真剣に臨んで下さい。私語厳禁。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (40%) ・夏期休業中のレポート (20%) ・学期末試験 (40%) を総合して評価します。
教科書／テキスト	本講義では『仏教概論—わかりやすい仏教—』(曹洞宗宗務庁、1992年4月)を基本テキストとします。 講義時にプリントを配布する場合があります。

参考書	講義中に告知します。
-----	------------

履修コード	203101
科目名	仏教と人間
担当者名	竹内 弘道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>あなたは今、自分を取り巻く社会事象や世界の動きをどれだけ把握していますか？ 周囲のさまざまな問題に関心を寄せ、現代社会が抱える先端的なテーマに対しても自分なりの考えを持つようになることが大学生としてのあるべき姿と考えます。</p> <p>しかし、いざ自分の考えを表明しようにも、判断の指標となる自己の依って立つ「思想」がなければ、何の見解も導き出すことができません。</p> <p>残念ながら高校までの日本の教育制度は、若者が政治や社会に対して意見を持ち、積極的に関わっていくと芽を育てようとはしていないように思われます。とりわけ、病的なまでに宗教を排除した戦後の教育のなかで形成された知性に、大きく欠けているものは、宗教に関する諸知識と宗教観であると思われま。</p> <p>宗教が我々の文化に深くかつ広汎に関わってきたことは、歴史を振り返ればすぐに分かることです。それは世界の歴史も同様です。現代の日本もまた、宗教の百貨店といわれるほど、世界にも希な豊かな宗教文化を内包しながら、そのことを自覚している人は決して多くはありません。</p> <p>現代に固有と思われる、脳死・臓器移植・尊厳死などの問題も、自らの根底にあるべき宗教観が問われる場合が多く、自己の宗教的視点が定まっていなと、問題の本質が見えないばかりか、意見を述べることもむずかしくなります。</p> <p>歴史学とは、過去と現代の対話といわれています。単に歴史的事実や年号を覚えることが歴史学ではなく、過去の歴史的事実から現代に生きる我々が何を学ぶかということがテーマとなります。</p> <p>授業では、仏教と禅に関する基本的知識を学び、それらが深く社会に浸透し展開した歴史を学ぶなかで、これまで自らに欠落していた宗教に関する視点を補い、併せて現代社会のさまざまな問題についても考えていきたいと思ひます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1、釈尊の生涯 2、仏教の基本理念 3、大乘仏教と部派仏教 4、大乘仏教の思想と代表的な経典 5、仏教の伝播 6、中国仏教の特徴 7、仏教の日本伝来と飛鳥仏教 8、古代日本仏教の謎 9、聖徳太子と飛鳥仏教 10、大化改新と飛鳥仏教 11、奈良仏教 12、奈良(南都)仏教の矛盾 13、行基と民間仏教 14、平安仏教…最澄と空海 15、平安仏教の特徴と変質 16、鎌倉仏教 17、鎌倉仏教論の問題点 18、仏教の屈辱 19、禅の起源発生 20、禅宗の初祖、菩提達磨 21、達磨の虚像と実像 22、敦煌文献の発見と達磨の実像 23、達磨の思想 24、東山法門…集団化のはじまり 25、南宗と北宗…『六祖壇経』の世界 26、南宗の陰の立て役者…荷沢神会 27、中国禅の展開と五家七宗 28、宋代の禅 29、日本の禅…日本曹洞宗の祖、道元禪師 30、仏教と現代…仏教と生命倫理</p>
----------	---

準備学習	前回に配布したプリントに目を通し、授業内容を復習しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	試験は、講義内容から指定したテーマについて、レポートを提出させ理解度を評価する。
教科書／テキスト	板書・プリント配布
参考書	参考書はその都度授業で紹介する。

履修コード	205501
科目名	仏教と人間
担当者名	角田 泰隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏教の歴史や教えについて講義し、仏教についての正しい認識を身につけることを目標とする。この講義では、便宜的に「人間」「世界」「環境」「自己」「現在」「生死」「教育」などの言葉を順次取り上げ、これらと関係させながら仏教を概説したい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1～3 宗教とは何か 4～5 仏教の歴史 6～7 禅の歴史 8～9 日本の仏教 10～12 仏教の世界観 13～15 仏教の人生観 16～17 仏教と生死 18～19 仏教と環境 20～21 仏教と自己 22～22 仏教と現在 23～24 仏教と教育 25～26 禅の教え 27～30 道元禅と現代</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	教科書は用いないので、筆記用具を調べ、講義の内容をしっかりと記録すること。(定期試験には自筆ノートの持ち込みを許可する)
成績評価の方法	定期試験の成績60%、レポート(年1回出題)10%、平常点30%とする。
教科書／テキスト	教科書はない。必要に応じて資料を配布する。
参考書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	204011
科目名	仏教と人間
担当者名	程 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、学生諸君に本学の建学の理念である「行学一如」を身をもって体得してもらうことをそのねらいとする。2500年と言われる長き歴史を有する仏教の思想や歴史などを学ぶことは、いうまでもなく、その「学」の一環である。こうした仏教に対する勉学を通して、宗教としての仏教とは何か、現代社会においていかなる意義をもつかを考えながら、自分自身を見つめ直し、自己の存在する意義を見出すことは、仏教の実践の重要な課題であり、まさしく「行」の具現なのである。そして、学び得たものを生かし、仏教的立場から現実の社会を考える視点を持つことが、「行学一如」の理念の具体化ということなのである。
---------------------	--

授業スケジュール	この講義においては、下記のテーマを順次に説明していきたい。 宗教について (1~2回) ・ブッダの生涯 (2~3回) ・ブッダの悟りと教え (3~4回) ・インド仏教の展開 (2~3回) ・仏教東漸 (インドから中国へ) (1回) ・中国における仏教の受容 (5~6回) ・中国禅宗の成立と展開 (5~6回) ・日本への仏教伝来とその展開 (1~2回) ・道元禅の成立と展開 (2~3回)
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	講義内容を必ずノートすること。 配付資料、ノートに基づいて復習すること。 出席点を評価に入れるので、欠席しないこと。

成績評価の方法	期末試験 (60%)、授業中の小レポート (20%)、出席点 (20%) の三つを総合的に評価する。但し、場合によって点数配分の割合を変更することもあり得る。
---------	---

教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	適宜に紹介する。

履修コード	203601
科目名	仏教と人間
担当者名	徳野 崇行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義では、まず現代日本における宗教や仏教の状況、日本人の宗教観について概観する。次いで、仏教の歴史の変遷をインド・中国・日本に分け、伝播の経路にそって仏教の歴史に関する理解を深めていく。とくに講義では釈尊や中国仏教・日本仏教の祖師の生涯を紹介しつつ、当時の宗教的・社会的状況について見ていきたい。
---------------------	---

(到達目標)	本講義の到達目標は、仏教の歴史の変遷を、高僧の生涯や近世の檀家制度、明治時代の神仏分離などを取り上げることによって、現代の仏教を理解する基礎的な知識を習得することである。
--------	---

授業スケジュール	1. オリエンテーション (講義の進め方、スケジュール、評価方法など) 2~4. 現代社会と仏教・宗教 5~10. 釈尊の生涯・思想とインド仏教の展開 11~14. 中国への仏教伝来と仏教諸宗派の興隆 15~18. 日本への仏教伝来と古代仏教の発展 19~24. 鎌倉新仏教の祖師たちの生涯と思想 25~26. 檀家制度の成立と近世仏教 27~28. 明治維新と仏教 29~30. 現代日本の仏教
----------	--

準備学習	紹介された参考書を読むことが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点 (30%) と学期末試験 (70%) を総合して評価する。
教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	203701
科目名	仏教と人間
担当者名	永井 政之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>入学式ではじめて知った方もあろうが、駒澤大学は日本仏教の宗派の一つである曹洞宗が設立の母体になっている。したがって4年間の大学での生活の中では、さまざまな機会に「宗教的」なものに触れるであろう。</p> <p>ところで学生諸君は、「宗教」とか、「仏教」という言葉を聞いたとたん、「辛気くさいもの」「前近代的なもの」「怪しげなもの」などの、漠然とした感想を持たれるものと想像する。実際、宗教、特に「仏教」をとりまくさまざまな要件は、興味の対象とはなっても、そのイメージを好転させる方向にはないようである。</p> <p>現代人の多くが、宗教に関心を失った原因の過半は、既成の教団にその責任があるように私は考えている。したがって若者が宗教に無関心であったり、あるいは過度の期待を抱くことを批判することはできない。</p> <p>ただ今から2,500年前にシャカによって総称された「仏教」は、けっして「おどろおどろしい」ものではないし、前近代的なものでもない。きわめて理性的な教えといってよいであろう。そんなオーソドックスな「仏教」そして「禪」の立場を考えてみたい。</p> <p>なお、「宗教教育科目」という名称ではあるが、「個人の信仰」の領域にまで踏み込んで信仰を強制するものではない。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>そもそも「宗教」とは何なのか。人間にとってどのような意味があるのかを考えます。駒澤大学の「建学の理念」についても考えてみましょう(1~4)。そして、そもそもブッダによって説かれた「仏教」とはどんな教えなのか考えます(4~15)。その後、ダルマによって中国に伝えられたという禪とはどんな風に人間を捉えるのかを紹介しつつ(15~25)、道元の禪にまで論及したいと思います(26~30)。</p>
----------	--

準備学習	<p>入学式当日に、駒澤大学の「建学の理念」が書かれたパンフレットが配られます。最初の授業で言及紹介しますので必ず持参してください。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>まじめに授業をうけ、私語をつつしむこと。</p>
---------	-----------------------------

成績評価の方法	<p>初めの授業で課題図書を出すので、所定の期限にレポートを提出すること。期末には試験を行い、普段の授業態度などをふくめて、総合的に評価して成績とする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布したり、参考文献を指示する。課題図書は購入することが望ましい。</p>
----------	---

参考書	<p>とくにありません。授業中に適宜指示します。</p>
-----	------------------------------

履修コード	202601
科目名	仏教と人間
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教の起源と伝播を概観した上で、仏教と他宗教との比較を行い、さらには、日本における歴史上の主要な仏教者の思想や行動を通して、人間の精神生活に果たす仏教・宗教の意義を考える。 (到達目標) 2年次以降、仏教、宗教を学ぶ上での基礎的な知識を習得する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、宗教の分類(1) 2、宗教の分類(2) 3、無神論と有神論 4、宗教的人格 5、宗教的指導者のタイプ 6、世界宗教の諸相(1) 7、世界宗教の諸相(2) 8、宗教集団の構成条件 9、宗教集団の形態 10、仏教の起源と初期形態(1) 11、仏教の起源と初期形態(2) 12、釈尊の教え 13、大乘仏教運動の形成と展開(1) 14、大乘仏教運動の形成と展開(2) 15、大乘経典の特徴 16、ヒンドゥー教 17、仏教の伝播 18、西域の仏教 19、中国への仏教伝来 20、格義仏教 21、南北朝時代の仏教 22、隋唐時代の仏教 23、宋代の仏教 24、朝鮮仏教史(1) 25、朝鮮仏教史(2) 26、日本への仏教伝来(1) 27、日本への仏教伝来(2) 28、神祇信仰と仏教 29、国家仏教の曙 30、総括
----------	--

準備学習	前回の授業内容を復習して臨む。
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末試験の成績80%、レポート10%、平常点10%とする。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	授業時に適宜紹介する。

履修コード	205201
科目名	仏教と人間
担当者名	藤井 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>生きる上での苦しみの原因を探索し、それから解放される道を見出した釈尊とその流れをくむ高僧たちの教えについて大学生時代に本格的に触れておくことは、これからさまざまな出来事に会う可能性のある学生にとって有意義である。前期は仏教の開祖である釈尊（お釈迦様、仏陀、釈迦牟尼）の伝記とその教え、および日本の仏教と関係の深いお経について講義する。後期は本学の建学の理念となっている曹洞宗の教えについて理解を深めるために、日本の仏教について講義する。</p> <p>仏教はその始まりより人の生死の問題を正面から直視してきた。現代の医療現場では、つい五十年前とは違い、患者およびその家族が突然に人の死に直面するために多くの課題を抱えている。積極的な態度で授業に参加することによって将来に役立つ多くのものを得てほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <p>1 インTRODクシヨン 2～9 釈尊の伝記（八相成道） 2 誕生, 3 青年期, 4 出家と修行, 5 降魔と成道, 6 転法輪, 7 釈尊の弟子, 8 涅槃, 9 三蔵</p> <p>10～12 釈尊の教え 10 四諦・縁起, 11 無我 業と輪廻, 12 戒・定・慧 八正道</p> <p>13～15 大乘経典（法華経・維摩経・勝鬘経）</p> <p>(後期)</p> <p>16～18 道元禅師の生涯 19～20 曹洞宗の流れ 21～28 日本の仏教 21 聖徳太子と奈良時代の仏教, 22 伝教大師最澄と弘法大師空海 23 天台宗と真言宗, 24 法華経信仰と浄土信仰 25 法然上人と親鸞聖人, 26 日蓮聖人と一遍上人 27 日本の禅宗, 28 現代日本と仏教 29～30 宗教と医療をめぐる問題、後期のまとめ</p> <p>以上は目安です。進行状況によって適宜前後します。</p>
----------	---

準備学習	<p>今回の授業について、教科書・参考書はいうまでもなく、ネットを含めて積極的に調べて予習しておくことにより、授業の理解が数倍も深まる。また予習の段階で疑問となることがあり、授業でも理解できなければ質問してほしい。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>受講者の人数の関係上、授業は講義方式で進める。但し、自分の疑問点を整理して人前で発表する質問は、積極的に授業に参加する本人にとっても、他の受講者にとっても理解を深める上で有益であるので大いに歓迎する。</p> <p>なお、授業中の私語、携帯電話の受信、スマートフォンの使用等は他の受講者への多大な迷惑行為となるので厳禁とする。指示を守れない人は退出させるので、あらかじめ留意しておいて欲しい。</p> <p>Yestudyを用いて課題の提出・資料の配布等を行うのでYestudyを使えるようになっておくこと。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>レポートと学年末試験によって評価する。出席状況等も評価の対象とするがあくまで基本は学年末試験である。休暇中の課題として適宜、指定する映像資料を見たり、実際に寺院を訪れた上でレポートを提出してもらう。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>中村元、田辺和子『ブツダ物語』（岩波ジュニア新書）819円、ISBN:978-4005001712</p>
----------	--

参考書	<p>松尾剛次『仏教入門』（岩波ジュニア新書）861円</p>
-----	---------------------------------

その他	<p>「医療健康科学部」という性格に鑑み、時間的余裕があれば、「安楽死」「尊厳死」といった問題等についても考察してみたいと思う。</p>
-----	--

履修コード	205301
科目名	仏教と人間
担当者名	藤井 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>生きる上での苦しみの原因を探求し、それから解放される道を見出した釈尊とその流れをくむ高僧たちの教えについて大学生時代に本格的に触れておくことは、これからさまざまな出来事に会う可能性のある学生にとって有意義である。前期は仏教の開祖である釈尊（お釈迦様、仏陀、釈迦牟尼）の伝記とその教え、および日本の仏教と関係の深いお経について講義する。後期は本学の建学の理念となっている曹洞宗の教えについて理解するために、日本の仏教について講義する。</p> <p>仏教はいずれの時代も最先端のメディアと関わりをもってきた。また日本の文化を海外に発信する上でその基礎となった仏教を理解することは必要不可欠である。積極的な態度で授業に参加することによって将来に役立つ多くのものを得てほしい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <p>1 インTRODakション 2～9 釈尊の伝記(八相成道) 2 誕生, 3 青年期, 4 出家と修行, 5 降魔と成道, 6 転法輪, 7 釈尊の弟子, 8 涅槃, 9 三蔵 10～12 釈尊の教え 10 四諦・縁起, 11 無我 業と輪廻, 12 戒・定・慧 八正道 13～15 大乘経典 (法華経・維摩経・勝鬘経) (後期) 16～18 道元禅師の生涯 19～20 曹洞宗の流れ 21～28 日本の仏教 21 聖徳太子と奈良時代の仏教, 22 伝教大師最澄と弘法大師空海 23 天台宗と真言宗, 24 法華経信仰と浄土信仰 25 法然上人と親鸞聖人, 26 日蓮聖人と一遍上人 27 日本の禅宗, 28 現代日本と仏教 29～30 仏教とメディア、後期のまとめ 以上は目安です。進行状況によって適宜前後します。</p>
----------	--

準備学習	予習しておくことにより、授業の理解が数倍も深まる。また予習の段階で疑問となることがあり、授業でも理解できなければ質問してほしい。
------	--

履修上の留意点	<p>受講者の人数の関係上、授業は講義方式で進める。但し、自分の疑問点を整理して人前で発表する質問は、積極的に授業に参加する本人にとっても、他の受講者にとっても理解を深める上で有益であるので大いに歓迎する。</p> <p>なお、授業中の私語、携帯電話の受信、スマートフォンの使用等は他の受講者への多大な迷惑行為となるので厳禁とする。指示を守れない人は退出させるので、あらかじめ留意しておいて欲しい。パソコンの持ち込み使用は許可を必要とする。</p> <p>Yestudyを用いて課題の提出・資料の配布等を行うのでYestudyを使えるようになっておくこと。</p>
---------	--

成績評価の方法	レポートと学年末試験によって評価する。出席状況等も評価の対象とするがあくまで基本は学年末試験である。休暇中の課題として適宜、指定する映像資料を見たり、実際に寺院を訪れた上でレポートを提出してもらう。
---------	---

教科書/テキスト	中村元、田辺和子『ブツダ物語』（岩波ジュニア新書）819円、ISBN:978-4005001712
----------	---

参考書	松尾剛次『仏教入門』（岩波ジュニア新書）861円
-----	--------------------------

その他	仏教の伝統が長くはない欧米における仏教入門書は生活と仏教との関連性が薄くなっている現代の日本人にはかえって理解しやすいこともある。関心のあるものには英文の入門書も勧めるので質問してほしい。
-----	--

履修コード	204021
科目名	仏教と人間
担当者名	松田 陽志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>釈迦(釈迦牟尼世尊・釈尊)の生き方と教えを仏伝(釈尊の伝記)及び初期仏典の記述によって学ぶ。特にヒンドゥー文化圏の中での釈尊の教えの独自性を、仏教教団が仏伝の中で、どのように表わそうとしたのかを、具体的に理解する。また中国人が受け容れた禪という仏教思想の持つ基本的性格を知り、それが現在の自分の生き方や社会にどのような意味を持つものかを考える。</p> <p>(到達目標)</p> <p>現在もインドの大多数の人々が信仰するヒンドゥー教の考え方に対して提示された、初期仏教の立場を理解し、中国・日本に展開する大乘仏教との性格との違いについて考える。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：(ヒンドゥー教と仏教)インドの仏教を学ぶこと 第3回：ヒンドゥー教の性格—輪廻思想— 第4回：ヒンドゥー教の性格—因果の道理と出家— 第5回：カースト制度と仏教①—ヴァルナとジャーティ— 第6回：カースト制度と仏教②—ガンジーとアンベードカル— 第7回：大乘仏教の性格—護仏運動— 第8回：大乘仏教の性格—供養と救済— 第9回：初期仏教と大乘仏教—中国の死生観— 第10回：初期仏教と大乘仏教—日本の死生観— 第11回：(釈尊の生き方)釈尊の誕生①—誕生まで— 第12回：釈尊の誕生②—天上天下唯我独尊— 第13回：青年時代—出家の要因— 第14回：出家するまで—結婚とラーフラの誕生— 第15回：予備</p> <p>(後期)</p> <p>第16回：禪定体験 第17回：苦行と悪魔の誘惑 第18回：輪廻の主体について—五蘊非我說— 第19回：『般若心経』と五蘊皆空 第20回：成道 第21回：成道の内容①—さとりととは何か— 第22回：梵天勧請と初転法輪 第23回：成道の内容②—十二縁起と無明— 第24回：涅槃・入滅 第25回：(禪とは何か)ボダイダルマとは誰か 第26回：禪の立場—達磨の教え— 第27回：禪の理解—荷沢神会の北宗禪批判— 第28回：禪の伝灯—弘忍と慧能— 第29回：禪の修行—平常心是道— 第30回：予備</p>
----------	---

準備学習	<p>授業の前に、前回の内容を思い出ししておくこと。 また授業内容に限らず、宗教、特に仏教に関するニュース報道に注意しておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>毎回出席し、配布資料を整理保存すること。何が重要なことかを考えながら、講義を聞くこと。受講票に書かれている設問に対する答えを考えながら、授業を聞くこと。配布資料の余白などに、自分が重要だと思った事柄や興味・関心を持った内容を、自分の言葉・文章で簡潔にまとめておくこと。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>授業内容を簡潔にまとめた受講票による平常点(30%)と年度末試験(70%)によって評価する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>配布資料にしたがって講義する。</p>
----------	------------------------

参考書	<p>随時紹介する。</p>
-----	----------------

履修コード	341801
科目名	仏教と人間
担当者名	松本 史朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本学の建学の理念である「仏教の教義と曹洞宗立宗の精神」を学生諸君に理解してもらうことが、この講義のねらいである。従って、仏教とは何か、それは人生において如何なる意味をもつのかを、分かりやすく説明したい。仏教の基本的知識を習得することが、この講義の到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の内容は、ほぼ次の通りである。</p> <p>(第1回) 仏教思想とヒンドゥー教の違い (第2回) 仏教以前のインド思想 (第3回) 釈尊の生涯 (第4回) 原始仏教の思想 1 (縁起説の概要) (第5回) 原始仏教の思想 2 (縁起説のポイント) (第6回) 原始仏教の思想 3 (四諦・八正道) (第7回) 原始仏教の思想 4 (法の分類) (第8回) 原始仏教の思想 5 (禅定思想) (第9回) 原始仏教の思想 6 (解脱と涅槃) (第10回) 部派仏教の展開 (第11回) 大乘仏教の成立 (第12回) 『般若経』の空思想 (第13-15回) 『法華経』の一乗思想 (第16-17回) 『法華経』の久遠実成の仏 (第18-20回) 『法華経』の菩薩思想 (第21回) 『華嚴経』の唯心思想 (第22回) 『性起経』の思想 (第23回) 『如来蔵経』の如来蔵思想 (第24回) 『涅槃経』の仏性思想 (第25回) 仏性思想の展開 (第26回) 中国禅宗の思想 (第27回) 道元禅師と曹洞宗 (第28回) 浄土教の思想 (第29回) チベット仏教の思想 (第30回) まとめ/復習</p>
----------	---

準備学習	特に必要ないが、仏教に関する書物を岩波文庫で1冊は読んでもらいたい。
履修上の留意点	教科書や配布資料を授業で音読してもらうことが多い。
成績評価の方法	年度末の試験によって、成績を評価する。
教科書/テキスト	松本史朗『仏教への道』(東京書籍)1,400円 ISBN 4-487-72234-9
参考書	

履修コード	204801
科目名	仏教と人間
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>東洋世界で生きている我々にとって、仏教は身近な宗教のはずである。ところが案外と知らないことが多いのではないだろうか。いうまでもなく駒沢大学は、仏教精神により建てられた大学である。本学に在籍していることも何かの縁であり、これを機会に仏教を知り、深遠な仏教世界を理解してもらいたい。本講義では、釈尊の生涯、仏教の伝播などについて考察し、宗教の存在意義や宗教と人間との関わりについて考えを深めてゆきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>釈尊の生涯 (1~3)、釈尊の教え (4~8)、経典の内容 (9~12)、仏教的世界観 (13~14)、大乘仏教と小乗仏教 (15・16)、中国の仏教受容 (17)、中国仏教の展開 (18)、日本の仏教受容 (19)、日本仏教の展開 (20)、仏像と仏画で見る仏教 (21~30)</p>
----------	---

準備学習	図書館等で仏教関係の本を見ておくと良い。
履修上の留意点	仏教が日常の社会・生活に如何に関わっているのか考えながら講義に臨むこと。
成績評価の方法	定期試験、レポート、授業態度、出席率などを総合的に評価する。
教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	講義中に紹介する。

履修コード	205111
科目名	仏教と人間
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東洋世界で生きている我々にとって、仏教は身近な宗教のほうである。ところが案外と知らないことが多いのではないだろうか。いうまでもなく駒沢大学は、仏教精神により建てられた大学である。本学に在籍していることも何かの縁であり、これを機会に仏教を知り、深遠な仏教世界を理解してもらいたい。本講義では、釈尊の生涯、仏教の伝播などについて考察し、宗教の存在意義や宗教と人間との関わりについて考えを深めてゆきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	釈尊の生涯 (1~3)、釈尊の教え (4~8)、経典の内容 (9~12)、仏教的世界観 (13~14)、大乘仏教と小乗仏教 (15・16)、中国の仏教受容 (17)、中国仏教の展開 (18)、日本の仏教受容 (19)、日本仏教の展開 (20)、仏像と仏画で見る仏教 (21~30)
----------	--

準備学習	図書館等で仏教関係の本を見ておくと良い。
------	----------------------

履修上の留意点	仏教が日常の社会・生活に如何に関わっているのか考えながら講義に臨むこと。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	定期試験、レポート、授業態度、出席率などを総合的に評価する。
---------	--------------------------------

教科書／テキスト	適宜プリントを配布する。
----------	--------------

参考書	講義中に紹介する。
-----	-----------

履修コード	202901
科目名	仏教と人間
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義では仏教についての基礎知識を学習する。まずは仏教の文化的側面を幅広く学び、次いで仏教の歴史や思想について基礎知識を習得する。さらに仏教と現代社会との接点についての知見を広める。</p> <p>(到達目標) 本講義の目標は、仏教が日本やその他のアジアにおける歴史・社会・文化に大きな影響を与えてきた点を理解し、またそのような歴史・社会・文化に少なからぬ影響を受けている自分自身をより深く理解することにある。そのために、第1に我々の身の回りにある仏教文化や日本仏教についての基礎知識を習得すること、第2に諸外国の仏教について学び仏教の多様性や地域的特質を理解すること、第3に仏教と社会との様々な関わり方を学び、自分と社会との関わり方を考察する力をつけることを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概説：仏教 本講義に関するオリエンテーション。日常生活への仏教の影響。 2. お寺の見方1 寺院内の配置、各建物の意味 3. お寺の見方2 建築の特色 4. 寺院と地理 伝統社会の都市設計と寺院の関係 5. 仏像の見方 多様な種類の仏像を見分ける方法 6. ワークショップ1 仏像を見分ける 7. 仏像の見方 美術的な視点から見た仏像の特色 8. 世界遺産と仏教 アジア編 9. 世界遺産と仏教 日本編 10. ワークショップ2 世界遺産 11. 仏教習俗 お盆とお彼岸、七福神とだるま 12. 仏教と文学 現代文学と仏教の接点 13. 仏教と食文化 茶文化と精進料理 14. 駒大と仏教 駒澤大学の歴史と曹洞宗 15. 前期まとめ 16. 仏教のはじまり ブッダと古代インド 17. ブッダの思想 四諦八正道 18. 上座仏教 スリランカ・東南アジアの仏教 19. 大乘仏教1 大乘仏教の形成 20. 大乘仏教2 チベット・中国の仏教 21. 日本仏教1 歴史概要と主要な経典 22. 日本仏教2 平安の宗祖 23. 日本仏教3 鎌倉の宗祖 24. ワークショップ3 仏教の言葉・有名寺院 25. いのちと関わる仏教1 葬儀と檀家制度 26. いのちと関わる仏教2 戒名と戒律 27. いのちと関わる仏教3 看取りの仏教 28. 社会と関わる仏教1 外国 29. 社会と関わる仏教2 日本 30. まとめ・質疑応答
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し解説するので、必ず出席すること。またグループで課題に挑むワークショップを何度か行うので、他の学生と積極的に意見交換を行ってほしい。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（授業時のコメントシートの内容・授業への参加意欲等）20%、 ・夏休みの課題30%、 ・後期の定期試験期間における筆記試験50%、とする。
教科書／テキスト	なし
参考書	水野弘元・柴田道賢監修 『宗教学ハンドブック』（世界書院） その他については、授業時に随時紹介する。
その他	なし

履修コード	204201
科目名	仏教と人間
担当者名	山本 元隆
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	駒澤大学の建学理念である「仏教」について理解を深めてもらうことを講義のねらいとする。「仏教と人間」は本学独自の宗教教育科目であり、講義を通して仏教や禅に関する基本的な知識を身に付け、その生き方を主体的に学び取ってほしい。その上で現代に生きる私たちにとって仏教がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たせるか考えていきたい。
授業スケジュール	<p>ブッダの教えと日本をはじめ世界各地に伝わった仏教の歴史的・思想的・文化的な展開を概観し、それらが現代に生きる私たちにとって如何なる意味があるのか、ともに考えていきたい。</p> <p>(1) 世界の宗教と仏教 (2) ブッダとその教え (3) インド仏教の展開 (4) 様々な経典 (5) 中国仏教の展開 (6) 中国禪宗の成立と展開 (7) 日本仏教の展開 (8) 道元禅の成立と展開 (9) 現代社会と仏教</p>
準備学習	毎回の授業で次のテーマについて告知するので、基礎的な知識は各自で予習しておくこと。
履修上の留意点	自らの日常生活との関わりを意識しながら主体的に授業に参加してほしい。なお、欠席の多い者には評価を与えない。
成績評価の方法	出席点と簡単な課題の提出、学年末の定期試験によって評価を行う。
教科書／テキスト	特に使用しない。毎回プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修コード	205901
科目名	仏教と人間〔再クラス〕
担当者名	吉津 宜英
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目名は「仏教と人間」となっていますが、私は「宗教と社会」というぐらいに広く考えてゆきます。仏教など宗教に対して、みなさんはどんなイメージを抱き、どんな意見をお持ちでしょうか。すでに特定の宗教を信じている方もありましょう。これまで宗教に無関心な方や、宗教への批判者もありましょう。私は宗教に肯定的な人にも、否定的な方にも、宗教や仏教への正しい知識を獲得してもらいたいと思います。宗教は政治、経済、科学技術、教育、芸術などと並んで文化の一翼を担っています。太古から様々な宗教が存在します。一神や多神を信じる宗教があり、仏教のように神や神々を信仰するのではなく、仏の教えを中心にした宗教もあります。なぜ人間は宗教を求めたのでしょうか。この講義では宗教の多様性の認識から始めます。そして宗教が社会の中でどのような機能を果たしているかを考えます。また宗教をめぐるいろいろな問題点を取り上げます。宗教は人間を幸福にする目的を持っているのに、民族戦争などと絡んで宗教戦争が起こり、多くの不幸な人たちが出ています。宗教は個人的に何かを信じ、他の人に迷惑をかけなければ良いと思いますが、教団を形成すると他の宗教を批判したり、目的のためには手段を選ばない行動を取り、公共の福祉を害することもあります。講義の全体を通じて、仏教を含めた宗教の功罪両面を考えていくことをねらいとします。
授業スケジュール	第1回目は自己紹介も兼ねて、この講義の目的、進め方、注意事項などを説明します。前期は特に仏教以外の諸宗教の概説を行います。宗教類型論(2, 3, 4回)、ゾラスター教(5, 6回)、ユダヤ教(7, 8回)、キリスト教(9, 10, 11回)、イスラム教(12, 13回)、パラムン教(14, 15回)。後期は仏教から現代日本の社会の宗教状況にまで言及します。釈尊の伝記と教え(16, 17, 18回)、釈尊滅後の仏教の展開(19回)、大乗仏教(20, 21回)、中国仏教(22, 23)、朝鮮仏教(24回)、日本仏教(25, 26, 27, 28回)、現代の世界と日本の宗教の問題点(29, 30回)。講義の順序はこの通りですが、回数については短縮、延長のあることをご了解ください。
準備学習	新聞などで宗教関係の記事に関心を払うようにして下さい。
履修上の留意点	この科目専用のノートを用意し、私の講義を書き込みながら、疑問点なども提起し、しっかり質問して下さい。
成績評価の方法	出席点と期末テストを勘案して評価します。
教科書／テキスト	教科書は使用しません。必要な資料は適宜配布します。
参考書	授業において随時紹介します。

履修コード	204901
科目名	仏教と人間
担当者名	吉村 誠
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 駒澤大学の建学の理念である「仏教」について学習する。仏教が現代に生きる私たちにとっていかなる意味を持ち、いかなる役割を果たすのかということ、学問的見地から考察したい。 (到達目標) 仏教に関する基礎的教養を身につけ、自己を深く内省し、他者(世界)との関係を洞察する知性と感性を養い、それを学生生活や社会生活で生かすことができるようになること。
授業スケジュール	(前期) (1) 仏教とは何か (2~8) ブッダとその教え (9~14) 大乘仏教の展開 (15) まとめ (後期) (1) 東アジアへの仏教伝播 (2~7) 密教の宇宙観 (8~14) 禅の人間観 (15) まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	・ 授業は講義形式である。講義内容は各自ノートにまとめること。 ・ 講義内容は、仏教に対する理解が次第に深まるように構成してあるため、遅刻や欠席をしないようにすること。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	プリントを使用する。
参考書	

履修コード	341901
科目名	仏教と人間
担当者名	四津谷 孝道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 宗教とは、一般に「人間と聖なるもの或いは超越的なものとの関係」を意味する。この授業では、そうした宗教のひとつとしての仏教ではなく、哲学、文学、美術、音楽等の様々な文化現象を包括するものとしての仏教を扱っていく。この授業においては、仏教の基本的な形態を説明することから始め、仏教が如何に我々の世界に深く関わっているかを明らかにしていきたい。</p> <p>(到達目標) 受講生諸君には、今後の大学生活における様々な機会に仏教というものに接することとなるであろう。そのような機会のひとつであるこの授業において、「仏教と自分との接点を探る」という営みの端緒を見出してもらいたい。そして、その営みを通して、我々日本人の精神文化に大きな影響を与えてきた仏教に関する理解を深めてもらいたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 仏教が誕生するまで (古代インドの社会と宗教) 第3回 宗教とは、仏教とは 第4回 インドの宗教思想の基本概念 — 輪廻と解脱 第5回 仏陀の生涯 (1) : 概観 (人間仏陀と神格化された仏陀) 第6回 仏陀の生涯 (2) : 誕生 / 出家 — 四住期との関係で 第7回 仏陀の生涯 (3) : 成道 — 仏陀の悟りの内容 第8回 仏陀の生涯 (4) : 仏陀の最後の食事 第9回 仏陀の生涯 (5) : 仏陀の死 (涅槃) — 仏陀の葬儀を中心に 第10回 仏教史の概観 — インド仏教から日本仏教まで 第11回 経典について — 原始経典と大乘経典とは何か 第12回 原始仏教の経典 : スッタニパータ, ダンマパダ等 第13回 大乘仏教の経典 : 維摩経 第14回 大乘仏教の経典 : 法華経 第15回 第2回～第14回までの授業内容に関する小テスト 第16回 大乘仏教の経典 : 如来蔵経 第17回 大乘仏教の経典 : 涅槃経 第18回 日本仏教について — 葬式仏教とは 第19回 仏教と神道 (1) — 仏教の伝来 第20回 仏教と神道 (2) — 神仏習合 第21回 奈良仏教 (1) — 国家仏教の成立 第22回 奈良仏教 (2) — 表の仏教 (官僧) と裏の仏教 (聖) 第23回 平安仏教 (1) — 密教と浄土仏教 第24回 平安仏教 (2) — 最澄 第25回 平安仏教 (3) — 空海 第26回 鎌倉仏教 (1) — 親鸞 第27回 鎌倉仏教 (2) — 道元 第28回 鎌倉仏教 (3) — 日蓮 第29回 明治期以降の仏教 第30回 第16回～第29回までの授業内容に関する小テスト</p>
----------	---

準備学習	仏教の歴史と仏教の開祖であるブッダの伝記について基本的な知識を身につけておいてもらいたい。
------	---

履修上の留意点	授業内容は一続きのものなので、継続的に出席すること。
---------	----------------------------

成績評価の方法	定期試験の成績50%、小テストの成績20%、平常点30%
---------	------------------------------

教科書/テキスト	最初の授業において指示する。
----------	----------------

参考書	特になし
-----	------

その他	特になし
-----	------

履修コード	204601
科目名	仏教と人間
担当者名	渡部 正英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>宗教教育としての仏教をさぐる。日本人に馴染み深い仏教を、現代の人間生活と関連付けて、仏教の歴史、儀礼などを考察していく。さらに、人々の生活に宗教として仏教がどの様に関わってきたかを知る。</p> <p>(到達目標)</p> <p>宗教としての仏教を理解する。宗教学的な手法を持って仏教を分析して我々の今までの仏教理解との違いを認識し、さらに、仏教を開いた釈尊の伝記や各祖師の業績、仏教行事などを通して、日常生活の中に浸透している仏教を再認識して理解を深めていくことを求める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、宗教理解の文章作成 2、作成文章から仏教理解の必要性を示す 3、仏教を文化としてとらえる 4、仏教の宗学的な視点 5、仏教の哲学的に視点 6、仏教の歴史的な視点 7、仏教の宗教学的な視点 8、政治と仏教の関係 9、釈尊伝、誕生まで 10、釈尊伝、修行時代 11、釈尊伝、悟りと経典 12、釈尊伝、涅槃と死 13、釈尊以後の仏教1 14、釈尊以後の仏教2 15、理解度確認の小テスト <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、仏教と行事 1 2、仏教と行事 2 3、仏教と行事 3 4、仏教と行事 4 5、仏教と行事 5 6、仏教と行事 6 7、理解度の小テスト 8、仏教と祈り 1 9、仏教と祈り 2 10、仏教と祈り 3 11、仏教と祈り 4 12、仏教と祈り 5 13、仏教と祈り 6 14、仏教と祈り 7 15、理解度の小テスト
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	プリント等での確認を取りながら進めるがノートはしっかり記録する必要あり。また後期までに仏教関連の本を読んで感想文を提出する。
成績評価の方法	年三回の理解度の小テストの評価を70パーセント。感想文と平常点を30パーセント。をもって総合評価とする。
教科書/テキスト	
参考書	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

履修コード	204101
科目名	仏教と人間
担当者名	渡邊 幸江

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教は今から約二千六百年前にインドで興った宗教である。仏教の開祖、釈尊（ゴータマ・ブッダ）は、命ある者の幸福・安穩を、「教え」として説いている。そして、その教えは、アジアの広範な地域に伝わった。本講義は、仏の教えを学び、人が幸福に生きるとは何か？心の安らぎとはどのようなことなのかを自らに問い、さらに現代社会における仏教の意義を考える時間である。
授業スケジュール	前半期は、仏教開祖である釈尊の生涯と教説、次いで釈尊入滅後の仏教の歴史を概論する。後半期は、印度伝来の仏教が日本に伝播し、道元に至るまでを概論する。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	仏の教えは、自らへの問いと答えである。自らに引き寄せて、毎回の授業を受講すること。
成績評価の方法	出席、レポート、期末試験による評価。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	初回の授業で指示する。
その他	初回の授業で受講と成績評価についての説明をおこなうので必ず出席すること。また、レポートは期日を守り提出すること。

履修コード	206301
科目名	文化と宗教
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 西歐文化の劇的な到来を見た明治期を中心に、日本の近代化がどのように志向されたのかを、仏教、神道、キリスト教、新宗教などの諸宗教の動向を通して探る。 (授業概要) 文化と宗教の関連をどのように把握したらよいかを知る。それを踏まえて、我が国の近代以降、宗教が社会といかにかかわり、近・現代の精神文化の形成に影響を与えてきたかについての理解を深める。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、「文化」概念の捉え方(1) 2、「文化」概念の捉え方(2) 3、「文化」としての宗教 4、従来の文化史研究における宗教の扱い 5、「近代」概念の捉え方(1) 6、「近代」概念の捉え方(2) 7、明治維新と文明開化 8、神仏分離令と廃仏毀釈運動 9、国家神道政策の模索(1) 10、国家神道政策の模索(2) 11、教派神道の諸形態(1) 12、教派神道の諸形態(2) 13、教派神道に対する国家の姿勢 14、仏教近代化への道(1) 15、仏教近代化への道(2) 16、仏教とナショナリズム 17、還俗者の活動(1) 18、還俗者の活動(2) 19、キリスト教宣教の諸形態(1) 20、キリスト教宣教の諸形態(2) 21、新宗教の台頭(1) 22、新宗教の台頭(2) 23、宗教に対する法的規制の具体例(1) 24、宗教に対する法的規制の具体例(2) 25、社会変革と宗教 26、メディアと宗教 27、民衆と宗教 28、近代化と文化・宗教教育(1) 29、近代化と文化・宗教教育(2) 30、総括
準備学習	前回の授業内容を復習して臨むこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末試験の成績80%、レポート10%、平常点10%とする。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	授業の中で適宜紹介する。

2. 教 養 教 育 科 目

(1) 人文分野

履修コード	210401
科目名	科学史〔科学と技術〕
担当者名	高橋 秀裕

授業概要/ 到達目標（ねらい）	今日、我々は高度に発達した科学とその科学に基づいた技術の受益者になりうるだけでなく、その反対に被害者にもなる可能性がある。近代自然科学をどのように捉え、それに如何に対処するかという問題が近年しきりに議論されている所以でもある。本講義では、古代から現代に至る科学の歴史的展開を、「方法」や「思想」そして「宗教との関係」にも眼を向けつつ総合的に学び、科学がいかに広範な文化的背景をもって発展してゆく知的営為であるかを理解するとともに、科学と技術に関して今後思索する際の信頼できる知的道具の習得を目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	第1～4回：近代日本の科学技術の性格を歴史的に考察する。第5～15回：近代日本が導入を図った西欧近代科学の長い歴史をたどる中から、その成立の由来を探る。第16～20回：近代科学に裏付けられた技術の強力さの秘密とそれが抱える問題点について講義する。第21～25回：科学の三つの典型として、数学、自然科学、医学を議論の俎上にのせ、科学がいかなる構造と射程をもつ知的営為であるのかを考察する。第26～30回：高度な科学・技術が制度化された現代社会の抱えている諸問題について、具体的事例をとりあげながら、科学と技術の歴史的展望をも含めて講義する。
----------	---

準備学習	世界史の知識が多少要求されるので、事前に全体的な流れを復習しておくこと。また各回の授業で使用するプリントを事前に配付するので、目をとおしておくこと。はじめて見る用語などがあれば調べておくこと。
------	--

履修上の留意点	いわゆる自然科学に関する素養はとくに要求しないが、講義の中に出てくる諸概念を必要に応じて自ら調べ理解する積極的な態度は受講の最低要件である。また、毎回講義内にコメントカードを配布するので、講義内容に関する感想や不明な点などを書いてほしい。
---------	---

成績評価の方法	随時レポートによる平常点（40%）および定期試験（60%）の総合成績で評価を行う。
---------	---

教科書／テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	講義の際に適宜紹介する。
-----	--------------

その他	講義形式、随時プリント配布。YeStudyを活用する。
-----	-----------------------------

履修コード	210501
科目名	科学史〔近代科学の成立と展開〕
担当者名	高橋 秀裕

授業概要/ 到達目標（ねらい）	今日、我々は高度に発達した科学とその科学に基づいた技術の受益者になりうるだけでなく、その反対に被害者にもなる可能性がある。近代自然科学をどのように捉え、それに如何に対処するかという問題が近年しきりに議論されている所以でもある。本講義では、古代から現代に至る科学の歴史的展開を、「方法」や「思想」そして「宗教との関係」にも眼を向けつつ総合的に学び、科学がいかに広範な文化的背景をもって発展してゆく知的営為であるかを理解するとともに、科学と技術に関して今後思索する際の信頼できる知的道具の習得を目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	第1～4回：近代日本の科学技術の性格を歴史的に考察する。第5～15回：近代日本が導入を図った西欧近代科学の長い歴史をたどる中から、その成立の由来を探る。第16～20回：近代科学に裏付けられた技術の強力さの秘密とそれが抱える問題点について講義する。第21～25回：科学の三つの典型として、数学、自然科学、医学を議論の俎上にのせ、科学がいかなる構造と射程をもつ知的営為であるのかを考察する。第26～30回：高度な科学・技術が制度化された現代社会の抱えている諸問題について、具体的事例をとりあげながら、科学と技術の歴史的展望をも含めて講義する。
----------	---

準備学習	世界史の知識が多少要求されるので、事前に全体的な流れを復習しておくこと。また各回の授業で使用するプリントを事前に配付するので、目をとおしておくこと。はじめて見る用語などがあれば調べておくこと。
------	--

履修上の留意点	いわゆる自然科学に関する素養はとくに要求しないが、講義の中に出てくる諸概念を必要に応じて自ら調べ理解する積極的な態度は受講の最低要件である。また、毎回講義内にコメントカードを配布するので、講義内容に関する感想や不明な点などを書いてほしい。
---------	---

成績評価の方法	随時レポートによる平常点（40%）および定期試験（60%）の総合成績で評価を行う。
---------	---

教科書／テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	講義の際に適宜紹介する。
-----	--------------

その他	講義形式、随時プリント配布。YeStudyを活用する。
-----	-----------------------------

履修コード	169611
科目名	キャリアを考える I
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 本講座では2年生という大切な節目に、卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p> <p>・到達目標 講義前半は「自己理解」に始まり「働く意義」「社会環境変化と職業理解」を学びます。次に自分はその職業に向いているのか、さまざまな職業を比較研究しながら、適職候補を模索していきます。講義後半は社会から求められている能力、特に文部科学省提唱の「就業力」の中でも①対人基礎力と②対課題基礎力③就業観の基本を身につけていきます。 卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにはどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 「キャリアを考える視点」</p> <p>第2回 「自分のキャリアをデザインする」</p> <p>第3回 「自己理解の意義と方法」</p> <p>第4回 「社会で働くとは、卒業後の進路を考える」</p> <p>第5回 「社会が求める能力と発揮したい能力を考える」</p> <p>第6回 「さまざまな職種を知り、適職を考える」</p> <p>第7回 「対人コミュニケーションの基本」</p> <p>第8回 「一方通行と双方向コミュニケーション」</p> <p>第9回 「質問力により、アイデアを引き出す」</p> <p>第10回 「話す力をつける」</p> <p>第11回 「アサーションによる自己表現」</p> <p>第12回 「文章による自己表現法」</p> <p>第13回 「プレゼンテーションスキルを磨く」</p> <p>第14回 「ファシリテーションによる問題解決」</p> <p>第15回 「キャリアデザインと行動計画作成」</p>
----------	---

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。 この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
---------	--

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	--

教科書/テキスト	「キャリアを考えるI, キャリア形成のススメ」岡崎洋著(株)岡崎人事コンサルタント¥1100+税 授業では教科書のワークシートを使いますので必ず購入してください。
----------	---

参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6
-----	---

関連リンク	http://www.okazakijinji.jp/
-------	---

履修コード	169621
科目名	キャリアを考える I
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 本講座では2年生という大切な節目に、卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにはどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p> <p>・到達目標 講義前半は「自己理解」に始まり「働く意義」「社会環境変化と職業理解」を学びます。次に自分は何の職業に向いているのか、さまざまな職業を比較研究しながら、適職候補を模索していきます。講義後半は社会から求められている能力、特に文部科学省提唱の「就業力」の中でも①対人基礎力と②対課題基礎力③就業観の基本を身につけていきます。卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにはどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 「キャリアを考える視点」</p> <p>第2回 「自分のキャリアをデザインする」</p> <p>第3回 「自己理解の意義と方法」</p> <p>第4回 「社会で働くとは、卒業後の進路を考える」</p> <p>第5回 「社会が求める能力と発揮したい能力を考える」</p> <p>第6回 「さまざまな職種を知り、適職を考える」</p> <p>第7回 「対人コミュニケーションの基本」</p> <p>第8回 「一方通行と双方向コミュニケーション」</p> <p>第9回 「質問力により、アイデアを引き出す」</p> <p>第10回 「話す力をつける」</p> <p>第11回 「アサーションによる自己表現」</p> <p>第12回 「文章による自己表現法」</p> <p>第13回 「プレゼンテーションスキルを磨く」</p> <p>第14回 「ファシリテーションによる問題解決」</p> <p>第15回 「キャリアデザインと行動計画作成」</p>
----------	---

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
---------	--

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	--

教科書/テキスト	「キャリアを考える I, キャリア形成のススメ」岡崎洋著 (株)岡崎人事コンサルタント ¥1100+税 授業では教科書のワークシートを使いますので必ず購入してください。
----------	--

参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6
-----	---

関連リンク	http://www.okazaki.jinji.jp/
-------	---

履修コード	169631
科目名	キャリアを考える I
担当者名	岡崎 洋
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 本講座では2年生という大切な節目に、卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p> <p>・到達目標 講義前半は「自己理解」に始まり「働く意義」「社会環境変化と職業理解」を学びます。次に自分はどの職業に向いているのか、さまざまな職業を比較研究しながら、適職候補を模索していきます。講義後半は社会から求められている能力、特に文部科学省提唱の「就業力」の中でも①対人基礎力と②対課題基礎力③就業観の基本を身につけていきます。卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 「キャリアを考える視点」</p> <p>第2回 「自分のキャリアをデザインする」</p> <p>第3回 「自己理解の意義と方法」</p> <p>第4回 「社会で働くとは、卒業後の進路を考える」</p> <p>第5回 「社会が求める能力と発揮したい能力を考える」</p> <p>第6回 「さまざまな職種を知り、適職を考える」</p> <p>第7回 「対人コミュニケーションの基本」</p> <p>第8回 「一方通行と双方向コミュニケーション」</p> <p>第9回 「質問力により、アイデアを引き出す」</p> <p>第10回 「話す力をつける」</p> <p>第11回 「アサーションによる自己表現」</p> <p>第12回 「文章による自己表現法」</p> <p>第13回 「プレゼンテーションスキルを磨く」</p> <p>第14回 「ファシリテーションによる問題解決」</p> <p>第15回 「キャリアデザインと行動計画作成」</p>
準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。 この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
教科書/テキスト	「キャリアを考えるI, キャリア形成のススメ」岡崎洋著(株)岡崎人事コンサルタント¥1100+税 授業では教科書のワークシートを使いますので必ず購入してください。
参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6
関連リンク	http://www.okazakijinji.jp/

履修コード	169661
科目名	キャリアを考えるⅠⅠ
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 前期に立てた卒業後の進路を見直して、自己のキャリア形成を進展させる科目です。さまざまな業種や職種を紹介するだけでなく、自分に合った仕事は何かを模索していきます。適職に就くための、就業力、自己表現力、面接対応力を磨いていきます。</p> <p>・到達目標 多様な進路情報の中から自分に合った職業を選択するために仕事の種類と内容を紹介し、各職種について正しく理解します。そのうえで適職に就くための考え方や情報収集の具体的方法を学びます。グループワークを通じて、将来の方向性を考え、キャリアビジョン(目標)を実現するために行動化していきます。同時に自己表現力を高めるための文章表現、プレゼンテーション力を磨きます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 豊かな人生・キャリアの方向性について考えよう</p> <p>第2回 業界・企業情報の集め方と分析法</p> <p>第3回 業界・企業研究①金融関係</p> <p>第4回 業界・企業研究②商社・流通・小売業界</p> <p>第5回 業界・企業研究③IT・マスコミ・出版関係</p> <p>第6回 業界・企業研究④ホスピタリティ・ツーリズム(冠婚葬祭・ホテル・旅行・病院・福祉)</p> <p>第7回 業界・企業研究⑤メーカー(食住・医薬・家電・自動車)</p> <p>第8回 業界・企業研究⑥ファッション、ビューティ(アパレル・化粧品・インテリア雑貨)</p> <p>第9回 業界・企業研究⑦運輸・物流・インフラ・不動産</p> <p>第10回 職種研究 営業・販売・サービス・コンサルティング、公務員</p> <p>第11回 求められる能力と適性を調べる</p> <p>第12回 履歴書、エントリーシートでの自己表現法</p> <p>第13回 インターンシップで効果を上げるには</p> <p>第14回 面接対応力の基本</p> <p>第15回 総合演習</p>
----------	--

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	<p>日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。</p> <p>この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。</p>
---------	---

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	--

教科書/テキスト	<p>「キャリアを考えるⅡ学びがキャリアを開く」 (株)岡崎人事コンサルタント ¥1100+税 授業</p> <p>「面接試験に成功する鉄則10」 岡崎 洋著 ¥1100+税 以上2冊を必ず購入してください。</p>
----------	--

参考書	<p>岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6</p> <p>岡崎洋他共著「ベテラン人事マンが書いた面接力をつける本」東洋経済新報社 ¥1500+税 ISBN4-492-22239-1</p>
-----	---

関連リンク	http://www.okazakijinji.jp/
-------	---

履修コード	169671
科目名	キャリアを考えるⅠⅠ
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 前期に立てた卒業後の進路を見直して、自己のキャリア形成を進展させる科目です。さまざまな業種や職種を紹介するだけでなく、自分に合った仕事は何かを模索していきます。適職に就くための、就業力、自己表現力、面接対応力を磨いていきます。</p> <p>・到達目標 多様な進路情報の中から自分に合った職業を選択するために仕事の種類と内容を紹介し、各職種について正しく理解します。そのうえで適職に就くための考え方や情報収集の具体的方法を学びます。グループワークを通じて、将来の方向性を考え、キャリアビジョン(目標)を実現するために行動化していきます。同時に自己表現力を高めるための文章表現、プレゼンテーション力を磨きます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 豊かな人生・キャリアの方向性について考えよう</p> <p>第2回 業界・企業情報の集め方と分析法</p> <p>第3回 業界・企業研究①金融関係</p> <p>第4回 業界・企業研究②商社・流通・小売業界</p> <p>第5回 業界・企業研究③IT・マスコミ・出版関係</p> <p>第6回 業界・企業研究④ホスピタリティ・ツーリズム(冠婚葬祭・ホテル・旅行・病院・福祉)</p> <p>第7回 業界・企業研究⑤メーカー(食住・医薬・家電・自動車)</p> <p>第8回 業界・企業研究⑥ファッション、ビューティ(アパレル・化粧品・インテリア雑貨)</p> <p>第9回 業界・企業研究⑦運輸・物流・インフラ・不動産</p> <p>第10回 職種研究 営業・販売・サービス・コンサルティング、公務員</p> <p>第11回 求められる能力と適性を調べる</p> <p>第12回 履歴書、エントリーシートでの自己表現法</p> <p>第13回 インターンシップで効果を上げるには</p> <p>第14回 面接対応力の基本</p> <p>第15回 総合演習</p>
----------	--

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
---------	--

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出をを求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	---

教科書/テキスト	「キャリアを考えるⅡ学びがキャリアを開く」 (株)岡崎人事コンサルタント ¥1100+税 授業 「面接試験に成功する鉄則10」 岡崎 洋著 ¥1100+税 以上2冊を必ず購入してください。
----------	---

参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6 岡崎洋他共著「ベテラン人事マンが書いた面接力をつける本」東洋経済新報社 ¥1500+税 ISBN4-492-22239-1
-----	--

関連リンク	http://www.okazakijinji.jp/
-------	---

履修コード	169681
科目名	キャリアを考えるⅠⅠ
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 前期に立てた卒業後の進路を見直して、自己のキャリア形成を進展させる科目です。さまざまな業種や職種を紹介するだけでなく、自分に合った仕事は何かを模索していきます。適職に就くための、就業力、自己表現力、面接対応力を磨いていきます。</p> <p>・到達目標 多様な進路情報の中から自分に合った職業を選択するために仕事の種類と内容を紹介し、各職種について正しく理解します。そのうえで適職に就くための考え方や情報収集の具体的方法を学びます。グループワークを通じて、将来の方向性を考え、キャリアビジョン(目標)を実現するために行動化していきます。同時に自己表現力を高めるための文章表現、プレゼンテーション力を磨きます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 豊かな人生・キャリアの方向性について考えよう</p> <p>第2回 業界・企業情報の集め方と分析法</p> <p>第3回 業界・企業研究①金融関係</p> <p>第4回 業界・企業研究②商社・流通・小売業界</p> <p>第5回 業界・企業研究③IT・マスコミ・出版関係</p> <p>第6回 業界・企業研究④ホスピタリティ・ツーリズム(冠婚葬祭・ホテル・旅行・病院・福祉)</p> <p>第7回 業界・企業研究⑤メーカー(食住・医薬・家電・自動車)</p> <p>第8回 業界・企業研究⑥ファッション、ビューティ(アパレル・化粧品・インテリア雑貨)</p> <p>第9回 業界・企業研究⑦運輸・物流・インフラ・不動産</p> <p>第10回 職種研究 営業・販売・サービス・コンサルティング、公務員</p> <p>第11回 求められる能力と適性を調べる</p> <p>第12回 履歴書、エントリーシートでの自己表現法</p> <p>第13回 インターンシップで効果を上げるには</p> <p>第14回 面接対応力の基本</p> <p>第15回 総合演習</p>
----------	--

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
---------	--

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	--

教科書/テキスト	「キャリアを考えるⅡ学びがキャリアを開く」 (株)岡崎人事コンサルタント ¥1100+税 授業 「面接試験に成功する鉄則10」 岡崎 洋著 ¥1100+税 以上2冊を必ず購入してください。
----------	---

参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6 岡崎洋他共著「ベテラン人事マンが書いた面接力をつける本」東洋経済新報社 ¥1500+税 ISBN4-492-22239-1
-----	--

関連リンク	http://www.okazakiijinji.jp/
-------	---

履修コード	208601
科目名	芸術学〔音楽〕
担当者名	浦本 裕子
授業概要/ 到達目標（ねらい）	音楽は私たちの回りに溢れている。さまざまなメディアから音楽が流れ、カラオケも今や世界共通語にまでなった。社会のグローバル化が進み、音楽も世界のものに聴かれるようになり、ジャンルもボーダーレスになってきた。日本では、演歌など一部のものを除けば、流れている音楽のほとんどがヨーロッパとアフリカの音楽に基づいたものである。音楽理論はヨーロッパで生まれたクラシック音楽に由来し、ポップスにはアフリカ的な要素も多く入り込んでいる。そもそもどのように音楽が生まれてきたのだろうか、そしてどのように享受されてきたのだろうか。 元来、音楽は折りや子守歌など生活の中で「必要なもの」として生まれてきた。そして世界各地の環境や生活形態が異なる中で、楽器や発声法、形式などそれぞれ独自の音楽文化を長い時間をかけて形成してきたのである。 この授業では、そのような多様な諸民族の音楽やヨーロッパのクラシック音楽を学ぶことにより、多様な文化の一つとして音楽を理解することを目指したい。
授業スケジュール	前期：諸民族の音楽・1-3概論 4-8ヨーロッパ 9-15アジア 後期：西洋音楽史・1-2楽器 3-4中世・ルネサンス 5-7バロック 8-10古典派 11-13ロマン派 14-15近代
準備学習	機会があれば、生演奏やテレビ番組などでさまざまな音楽を聞いて欲しい。図書館にも資料があるので活用して下さい。
履修上の留意点	・音資料や映像資料を鑑賞するので、できるだけ出席するように。 ・授業中に簡単なレポートを書いてもらうことがあるかも知れません。
成績評価の方法	前期：試験またはレポート 後期：試験
教科書／テキスト	なし
参考書	柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社） 藤井知昭 他 編『民族音楽概論』（東京書籍） 久保田慶一 他 『はじめての音楽史』（音楽之友社） 岡田暁生 『西洋音楽史』

履修コード	208401
科目名	芸術学〔日本美術〕
担当者名	北野 良枝
授業概要/ 到達目標（ねらい）	(授業概要) 室町時代から江戸時代に至る日本絵画の流れを、中国およびヨーロッパとの関係に留意しつつ概観する。絵画の歴史を理解するにあたって、作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。 (到達目標) 日頃接する機会の少ない日本の近世以前の絵画に対する理解を深めることを目標とする。
授業スケジュール	前期 室町から桃山時代の絵画 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識 (3) ～ (7) 禅林の水墨画 (8) 阿弥派 (9) 関東水墨画 (10) 土佐派 (11) ～ (12) 狩野正信・元信 (13) ～ (15) 狩野永徳と桃山画壇 後期 江戸時代の絵画 (16) 江戸時代の狩野派 (17) ～ (20) 琳派 (21) ～ (22) 浮世絵 (23) 南蘋派 (24) 文人画 (25) ～ (26) 秋田蘭画と司馬江漢 (27) 伊藤若冲と曾我蕭白 (28) 円山四条派 (29) ～ (30) 江戸から明治へ
準備学習	授業で使用する資料をYeStudyに掲載するので、各自ダウンロードして持参すること。
履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。
成績評価の方法	学年末に試験を実施し、その得点によって評価する。
教科書／テキスト	
参考書	
その他	YeStudyを活用する。

履修コード	208501
科目名	芸術学〔西洋美術〕
担当者名	矢野 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>ひとつの美術作品が制作されるにあたっては、芸術家の個性や技術のみならず、その時代と地域の宗教・文化・政治状況などさまざまな要因も関係している。この講義では、15世紀から18世紀末19世紀初頭まで、つまりイタリア・ルネサンス期からフランス革命期頃までの西洋絵画を主な対象とする。前期は、時代の流れに沿って、毎回主要な作品を1点取り上げ、さまざまな角度から見ていく。後期は、西洋絵画のジャンルや主題別に講義を進める。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業では、特に伝統的な西洋絵画に数多く描かれてきた神話・宗教の主題を理解できるようになることを目指す。代表的な作品を分析し、表現様式や受容のされ方などに意識を向けることによって、私たちとは異なる文化から生まれてきた西洋美術をより深く理解することを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 初期イタリア・ルネサンス 1 3. 初期イタリア・ルネサンス 2 4. 北方ルネサンス 5. 盛期イタリア・ルネサンス 1 6. 盛期イタリア・ルネサンス 2 7. ドイツ・ルネサンス 8. マニエリスム 1 9. マニエリスム 2 10. バロック 11. 17世紀オランダ絵画 1 12. 17世紀オランダ絵画 2 13. 17世紀スペイン絵画 14. 17世紀フランス絵画 15. ロココ 16. 新古典主義 17. 神話画 オリュンポスの神々 18. 神話画 ウェヌス 19. 神話画 アポロンとディアナ 20. 神話画 変身物語 21. 宗教画 旧約聖書 22. 宗教画 キリスト 23. 宗教画 聖母マリア 24. 宗教画 諸聖人 25. 歴史画 26. 肖像画 27. 風俗画 28. 静物画 29. 風景画 30. まとめ
----------	--

準備学習	前回の授業内容をよく復習して、次の授業に出席するようにすること。
履修上の留意点	作品の画像をスクリーンに映してそれを見ながら講義を進めるので、授業にはなるべく遅刻欠席をせず続けて出席すること。
成績評価の方法	夏休み後に提出するレポート20%、学年末の定期試験60%、平常点20%とする。
教科書／テキスト	教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書	高階秀爾(監修) カラー版『西洋美術史』美術出版社 ジェームズ・ホール『西洋美術解説事典』河出書房新社 その他、授業中に適宜紹介する。
その他	授業内容と関連するものに限らず、開催されるさまざまな美術展覧会を随時紹介するので、積極的に見に行くようにすること。

履修コード	360801
科目名	実務表現
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ「メディアを読み解き、言語化する」 メディアを読み解き分析する力と、その分析を言語化する力は、大学生活においても、社会に出てからも必要とされるものです。この授業では、新聞などの活字メディアをおもな分析対象とします。メディアを分析しながら、文章表現演習を積み重ね、実践的な日本語表現力を身につけることを目指します。 到達目標は、多角的な視点からメディアを分析し、自らの意見を深め、言語化できるようになることです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>新聞やニュースなどを題材に、メディアを分析する力と日本語表現力を磨きます。</p> <p>(1) オリエンテーション (2) 「メディアを読む」とは、どのような行為か? その1 (3) 「メディアを読む」とは、どのような行為か? その2 (4) 「メディアを読む」とは、どのような行為か? その3 (5) 新聞の実践的分析 その1 (新聞紙面の構成ほか) (6) 新聞の実践的分析 その2 (7) 新聞の実践的分析 その3 (8) 新聞の実践的分析 その4 (9) 新聞の実践的分析 その5 (10) 新聞記事の比較 その1 (全国紙と地方紙ほか) (11) 新聞記事の比較 その2 (12) 新聞記事の比較 その3 (13) 新聞記事の比較 その4 (14) 新聞記事の比較 その5 (15) 活字メディアと映像メディアの比較 その1 (ニュース番組ほか) (16) 活字メディアと映像メディアの比較 その2 (17) 活字メディアと映像メディアの比較 その3 (18) 活字メディアと映像メディアの比較 その4 (19) 活字メディアと映像メディアの比較 その5 (20) 「視点の転換」について学ぶ その1 (物語化の効果ほか) (21) 「視点の転換」について学ぶ その2 (22) 「視点の転換」について学ぶ その3 (23) 「視点の転換」について学ぶ その4 (24) 「視点の転換」について学ぶ その5 (25) 多メディア時代の可能性と問題点 その1 (写真の功罪ほか) (26) 多メディア時代の可能性と問題点 その2 (27) 多メディア時代の可能性と問題点 その3 (28) 多メディア時代の可能性と問題点 その4 (29) 多メディア時代の可能性と問題点 その5 (30) まとめ なお、最新のニュースを取り入れながら、講義をすすめます。その都度、進度や授業内容も調整していきます。</p>
----------	---

準備学習	<p>課題作成のためのメモ作りや資料の選択などに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします</p>
------	--

履修上の留意点	<p>前期末課題及び学年末課題のほか、授業内課題をおこないます。授業内課題の分量は、通年で16000字程度(400字づつめ原稿用紙換算、40枚程度、手書き)になります。継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。また、担当者の一方的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>授業中に課題をおこないます。A:授業への参加度・授業内課題(50%)、B:前期末のレポート(25%)、C:学年末のレポート(25%)をあわせて、総合的に評価をします。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>指定なし。適宜プリントを配布します。</p>
----------	---------------------------

参考書	<p>適宜授業中に指示します。</p>
-----	---------------------

履修コード	360901
科目名	実務表現
担当者名	萩原 義雄

授業概要/
到達目標 (ねらい)

広く日本語の特徴についてを学ぶことで、学習者自身が修得してきた国語全般に渉る教養を再度この講義を通して確認していくことにより、自分が気づいていたこと、気づかずにいたことを含めて、自身の教養をより高めていくことを目標に進めていきます。

★駒澤大学 e-Education : YeStudy にログインし、「全学共通科目」のなかの「教養教育」に入ってから「実務表現 (萩原)」にアクセスします。ここに休暇中における課題提出ができるようになっていますので御利用願います。

授業スケジュール	<p>01の講義内容 鳥の眼 蟲の眼の世界—熊田千佳慕「わたしは虫である」に学ぶ—</p> <p>02の講義内容 サウンド・スケープ&エスケープ表現 —都会のなかの世田谷駒沢公園周辺をゆるゆる散策—</p> <p>03の講義内容 匂いの地図—香くわしき匂いの力とは—</p> <p>04の講義内容 あなたが印象に残った(感動した)明かり(現象)とは</p> <p>05の講義内容 「あじわい」というおもてなし—味覚の世界は、作り手と戴き手との心違い—</p> <p>06の講義内容 手触り肌触り歯触り足触り</p> <p>07の講義内容 「しぐさ」というたちいふるまい</p> <p>08の講義内容 身に纏う衣裳という「もの」</p> <p>09の講義内容 まるでつくる絵本 —その1「基礎編」絵本の世界—</p> <p>10の講義内容 まるでつくる絵本 —その2「導入編」絵本の世界— 公開資料『Oで創る絵本』2009版、2010版についてを見ておこう!!</p> <p>11の講義内容 異文化そして価値観 —その3「対応編」—</p> <p>12の講義内容 まるでつくる絵本 —その4「実践編」—</p> <p>13の講義内容 前期のまとめ —夏休みの出来事録— 文章のすすめ—「明晰」に始まって「含蓄」に終わる—</p> <p>14の講義内容 漫画・アニメのこぼれ表現</p> <p>15の講義内容 花は花に訊け—引用とアンソロジー—</p> <p>16の講義内容 旅人は地図それとも辞書を携える—吾無一物の世界—</p> <p>17の講義内容 本年度製作「まるで創る絵本」作品集一覧</p> <p>18の講義内容 映画は総合芸術である —その1喜劇王チャーリー・チャップリン編—</p> <p>19の講義内容 映画は総合芸術である —その2喜劇王チャーリー・チャップリン編—</p> <p>20の講義内容 「奇跡のりんご」に学ぶ—ファイル—</p> <p>21の講義内容 『人はなぜ生きるのか』に学ぶ</p> <p>22の講義内容 象徴語表現を活用する—エクセルでオノマトペア—覧づくり—</p> <p>23の講義内容 日本語の音表現を学ぶ—芭蕉が聴いた音の世界—</p> <p>24の講義内容 漫画に学ぶ絵本づくり</p> <p>25の講義内容 書物に絵をいかに描くのか—表現の秘密—</p> <p>26の講義内容 日本の伝統芸能にねざす—歌舞音曲の世界—</p> <p>27の講義内容 本を出版するための準備—「本のタイトルを命名する方法」—</p> <p>28の講義内容 本を出版するための準備—手書き文字は、どうすれば巧く書けるようになるのか?—</p> <p>29の講義内容 本を出版するための準備—「レイアウトの基本」の継続と応用理論・本の表紙をデザイン・</p> <p>30の講義内容 パワーポイントの使用法— 提出作品の公開セレモニー—</p>
----------	--

準備学習

★駒澤大学 e-Education : YeStudy にログインし、「全学共通科目」のなかの「教養教育」に入ってから「実務表現 (萩原)」にアクセスします。ここに休暇中における課題提出ができるようになっていますので御利用願います。

履修上の留意点

※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう!また、IDチェックを忘れたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。

※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可能とします。

成績評価の方法

週毎に上記項目を常にふまえた上で、提出作文を書いてもらいます。個人が年間提出する上記作文は添削を受けながら再度提出を求めていきます。その仕上がりが度合いを許しに評価を五段階にして提示します。

提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。

ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。

また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させていきますのでご承知願います。

教科書/テキスト URL <http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi> を使用する。

参考書 随時お知らせ致します。

その他 "YeStudy" による講義実習活動を実施! 情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

関連リンク	http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
履修コード	361001
科目名	実務表現
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、各自がこれまでに習得したWord、Excel、Power Pointの基礎的なスキルが実践で役に立つかどうかを課題作成の中で確認しつつ、更にスキルアップを図ることにより、実社会において要求されるICT:情報コミュニケーション力(収集した情報を整理し他者に分かりやすく伝える能力)を養うことを目的とした実践型科目である。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>I オリエンテーション</p> <p>1回 PC操作基礎力判定</p> <p>2回 Introduction</p> <p>II WORD</p> <p>3-9回Word活用術</p> <p>・文書の編集・表の作成と編集・グラフィックスの利用・書式設定・長文作成機能</p> <p>10-11回WORD理解度確認</p> <p>III EXCEL</p> <p>12-18回Excel活用術</p> <p>・表の作成・表の編集・子息演算と関数・グラフ・印刷機能・関数利用入力サポート・データのビジュアル化</p> <p>19-20回EXCEL理解度確認</p> <p>IV POWER POINT</p> <p>21-25回Power Point活用術</p> <p>・プレゼンテーションの作成と編集・図解の作成・オブジェクトの挿入・特殊効果の設定・資料の作成と印刷</p> <p>26-27回POWER POINT理解度確認</p> <p>V まとめ</p> <p>28-30回KT2000測定と総合理解度確認</p>
----------	---

準備学習	タッチタイピング【キーボードを見ないで入力】(目標1500字/10分)練習をしておくこと。
------	---

履修上の留意点	<p>この授業を受講する条件として、以下の項目を満たすことが要求される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Word・Excel・PowerPointを使用したことがある 2. タッチタイピング(手元を見ないで入力)完全習得の意欲がある(最終的に習得できなかったときは単位習得に必要な点数に達しない場合がある) 3. 第1回目の授業に必ず参加する <p>第1回目の授業参加者が定員(64名)を超えた場合は、KT2000テスト測定結果の上位者から受講許可者を決定し、YeStudyエントリー資格として「登録キー」を与える。 ついては、第1回目の授業を欠席すると、受講の許可を得られない可能性が高く、Web履修登録していても訂正期間に「取消」することになるので、注意が必要である。</p>
---------	---

成績評価の方法	出席点(20%)、KT2000点(30%)、提出された課題点(20%)および理解度確認平均点(30%)の合計
---------	--

教科書/テキスト	担当者が用意する。教材はYeStudy上にアップロードされているので、必要に応じてそれをダウンロードし、使用する。
----------	---

参考書	
-----	--

その他	<p>当科目はYeStudyを利用して、授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロード及び課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので、頻繁にYeStudyを見ること。受講者が就職活動などで授業を欠席する場合は、自分でその欠席分を補う必要があるため、特に課題提出について自己責任の下に管理していただきたい。</p> <p>なお、欠席する場合は、事前に担当者へメールにて連絡しておくこと。 メール宛先: yuasa@komazawa-u.ac.jp</p>
-----	--

履修コード	211201
科目名	宗教学〔比較宗教文化〕
担当者名	池上 良正

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>宗教学という学問は、そもそもの出発点から「諸宗教を比較する」という性格をもっていた。そこでは「ひとつの宗教しか知らない者は、いかなる宗教も知らない」（マックス・ミュラー）という信念が前提になっていた。こうした「宗教」の比較を試みる場合、教典などに記され、それぞれの宗教が理想として掲げる「教え」や「思想」の比較だけでは不十分であり、具体的な社会に生きる人々のなかで、それらがどのように実践されているかという、「宗教文化」の比較が重要になる。「国際化」「グローバル化」が進むとされる今日の世界において、異なる社会に育った人々の生活の基盤を形づくってきた「宗教文化」の相互理解は、ますます重要な課題になっている。</p> <p>本講義では、宗教学の基本的な視点を紹介しながら、いくつかの具体的な成果を学ぶことにする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は、西欧近代に生まれた宗教学の成果を批判的に検証しながら、私たちの身近な日常生活のなかに生き続けている「宗教」を理解する視点を提示してみたい。そこでは、明治時代以降の日本人が当然のように使ってきた「宗教」という言葉が、キリスト教をベースにした西欧近代という特殊な歴史のなかで作られたものであるという反省も必要になる。(1~3) 導入。(4~8) 近代における「宗教」の発見。(9~12) 聖なる時間と空間。身体化された宗教。神話の力。(13~15) グローバル化のなかの「宗教」。</p> <p>後期は、多くの日本人には馴染みの薄いものの、世界の宗教文化を理解するうえでは欠くことのできない「一神教」という特異な宗教が成立した過程を考察し、その特性に迫ってみたい。もちろん、一神教は他の宗教よりもすぐれているのか劣っているのかといった価値判断ではなく、歴史的な文脈に即した理解をめざす。(16~20) 一神教としてのユダヤ教の誕生。(21~25) キリスト教の誕生と展開。(26~30) イスラームの誕生と展開。</p>
----------	---

準備学習	とくに求めないが、前回の講義についてよく復習してから講義に臨むこと。
履修上の留意点	<p>私語は厳禁。欠席した分のノート、プリントについては自己責任で対処すること。</p> <p>「宗教」を理解するには、偏見にとらわれない幅広く柔軟な姿勢が必要になる。また、「理想」にあこがれつつも、具体的な歴史や社会に目を向けた現実的な視点も大切である。積極的に「学ぶ」意欲を失うことなく、一年間の授業に臨んでほしい。</p>

成績評価の方法	出席を取る。年度末に筆記試験を行なう。評価は、試験70%、平常点30%。
---------	--------------------------------------

教科書／テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	『岩波講座・宗教』全10巻（岩波書店）。『宗教学事典』（丸善）。『宗教学文献辞典』（弘文堂）。その他、授業のなかで適宜紹介する。
-----	--

履修コード	211401
科目名	宗教学〔世界観と儀礼〕
担当者名	小川 順敬
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)人間の「宗教行動」を理解することはなかなか困難な作業です。目に見えぬものに語りかけたり、その声に耳をそばだてたり、時としてその声を代弁したりすることを一体どのよう理解すれば良いと言うのでしょうか。祈りやお告げといった「宗教行動」は、信仰を持たぬものにとっては全く理解不可能な事なのでしょうか。宗教学は、そういった行動を信仰者の立場からではなく、「人間の行動」として、その背後の考え方を探ることによって理解しようと努めてきました。この講義では、宗教学の立場から儀礼(宗教行動)とその世界観について考えていこうと思います。</p> <p>(到達目標)最初に、宗教学の基本的な考え方や方法論、いくつかの基本概念などを具体事例にそって概説、紹介します。この際、儀礼に関する議論や理論を、宗教学や宗教人類学、あるいはもう少し広く社会科学や人文学の中から紹介する予定です。ついで、様々な儀礼の諸相を具体例をあげて紹介し、その事例の検討を通して、思想や世界観、神話との関係について考えてゆくことにしたいと考えています。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目標・進め方・約束事について 2. 宗教と宗教学についてー見えぬものとの関係 3. アニミズムとシャーマニズム 4. 奄美のシャーマニズム 5. シャーマニズムと幻覚 6. 幻覚体験の文化的利用をめぐって 7. 靈魂観とシャーマニズム 8. 宗教的職能者の類型と社会 9. 呪術と人間の合理性について 10. 呪術の類型 11. 妖術と災因論 12. 現代の呪術的思考 13. 呪術論 14. 呪術と宗教について 15. 前期のまとめ 16. 儀礼とは何か 宗教の定義 17. 儀礼と世界観 18. 宗教行動を考える 19. 日常行動と儀礼的行動 20. 宗教行動と模倣 21. 演技と儀礼 22. 儀礼の諸相 23. 通過儀礼 定義と理論 24. 通過儀礼 人生儀礼 25. さまざまな通過儀礼 26. リミナリティとコミュニタス 27. タブーとは何か 28. 神話と儀礼 神話とはなにか 29. 神話と儀礼 事例から考える 30. 後期のまとめ
準備学習	授業準備として、次回授業で取り上げる内容について配布した関連資料に眼を通しておくこと。また、授業で行う小テストの内容は必ず復習しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	原則として、年8回の「小テスト」(平常点)が2割、夏期レポート(前期試験に相当)が4割、年度末の筆記試験が4割として評価します。成績評価の具体的な方法、レポート課題の内容、年度末試験の方針、小テストの評価の仕方などは最初の授業で詳しく説明します。
教科書/テキスト	関連資料のコピーを配布します。原則として教科書は用いません。
参考書	講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。

履修コード	211511
科目名	宗教学〔生活と宗教〕
担当者名	菅原 壽清

授業概要/ 到達目標（ねらい）	人間の精神世界の根源にあって、人びとの生活を支える宗教文化の理解は、現代社会においても不可欠な問題であると思われます。そこで、本講義では宗教人類学の視点から、「生活と宗教」というテーマで、日本やアジアの人びとの宗教的営みについてとらえてみたいと思います。授業は講義形式とし、はじめに宗教学・宗教人類学について、その基礎的な概説を行います。次に、「日本のなかのアジア」「アジアのなかの日本」という視点から、日本と東南アジア、および中国の西南地域の人々の暮らしなどを事例として、「生活と宗教」について展開します。特に、アジアの山地社会における人々の宗教的営み、日本の山岳信仰などに注目して、仏教と民俗宗教との関係や、その展開過程について、それぞれの地域の具体的な事例を取り上げながら、展開します。
授業スケジュール	1. 宗教学・宗教人類学とは 2. 日本とアジア、その多様な姿 3. アジアの人々の生活と宗教 4. 日本の人々の生活と宗教 (1と2は前期授業、3と4は隔年で後期授業、と内容を変えています。今年度は「日本の人々の生活と宗教」として、日本の山岳宗教を取り上げ、次年度は「アジアの人々の生活と宗教」として、中国雲南の山地社会を取り上げます。勿論、呪術と宗教、シャーマニズムなど宗教学の理論も押さえながら、私たちの身近にある暮らしの中の宗教を捉えてみたいと思っています。)
準備学習	YeStudyで、授業中の配付資料、講義ノート、パワーポイントで作成した映像、動画など、全てを公開しますので、予習や復習に利用して下さい。
履修上の留意点	講義では、国内や海外調査で写した写真やビデオなどを、プロジェクターを用いて映しながら授業を行います。また、学内のホームページ、YeStudyには、授業中の配付資料、講義ノート、パワーポイントで作成した映像、動画など、全てを公開しますので、予習や復習に利用して下さい。 さらに、授業に関連した写真を私のホームページでも公開しています。インターネットなどができれば、なお可です。さらに、DVDを用いて、授業に関連した映像も写します。広く、アジアの人々の暮らしや日本の山岳信仰に関心のある方は是非どうぞ。
成績評価の方法	試験 $\alpha + \beta$ （詳細は、講義の時説明） α = 座席点（ABCで付け、積極的な授業参加を評価します） β = レポート点（課題や参考書に基づいて提出したレポートなど、積極的な授業参加を評価します）
教科書／テキスト	特には、指定しません。講義資料をプリントして配布します。
参考書	講義資料をプリントして配布します。また、YeStudyでも公開します。 講義において、そのつど参考書や文献を紹介します。 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
その他	授業の方法—講義、ビデオ・DVD、プロジェクターを用いてスライドや動画を写しながら、ビジュアルな授業を展開します。国内や海外調査Field Workに関心のある方（社会・文化人類学、宗教人類学）は是非どうぞ。

履修コード	211301
科目名	宗教学【聖と俗】
担当者名	田中 かの子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ありのままの世界には「聖」も「俗」もなく、あるがままに続けられてゆくその営みがみられるばかりである。そこにあえて「聖と俗」といった対立概念をみるのは、変化し続ける多様な現象の動きを把握しきれない人間の焦燥感が、二分法という遠心分離機を欲するから、ともいえる。人類の精神史において展開してきた各宗教の分立を観るにつけても、深く知れば知るほど、「～教」と「～教」を隔てる壁の存在に疑問を抱かずにはいられなくなる。一見、相違するようにはみえる諸宗教の教義・儀礼・生活共同体の掟にも、歴史的な相関性があり、言語や民族の絆は、信仰の違いを超えて、多様な文化圏を形成している。さらに「いのち」の尊厳を守るための真摯な祈りはどれも、学問的に定義された「宗教」概念では捉えきれない、普遍的で深遠な思想を内に秘めている。ゆえに本講では、従来の宗教学が呪縛されてきた既存の宗教分類（例：「一神教と多神教」「世界宗教と民族宗教」）から出発せずに、最も根源的で身近な「いのち」をめぐる人間の畏れ・感謝・願いをテーマにしながら、「宗教」を考える。
--------------------	--

授業スケジュール	前期（1～15）は、ほかならぬ自らの「いのち」に気づき、その表現・解釈・ゆくえ・価値観などについて考えることに重点を置き、後期（16～30）は、ゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、シーク教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、仏教、儒教、道教、神道の歴史・思想・文化における「いのち」について、教科書を縦横に駆使しながら探究する。
----------	---

準備学習	教科書を通読し、関心のある語句や段落などを赤や青（あるいは眼の負担にならないグリーン）などの蛍光ペンや色鉛筆でチェックしておくこと、受講にも、課題や試験の準備にも、さらには、卒業後の読書にも役立ちます。疑問や思索の軌跡を余白に書き込むのも、教養を深めるうえ、お勧めの作業です。
------	--

履修上の留意点	既存の知識で示せる情報の範囲をはるかに凌駕した、真実の豊かさに眼を開きましょう。
---------	--

成績評価の方法	独創性と応用力を発揮できる、論述式の課題（締め切り：12月最後の授業日）と学年末試験。
---------	---

教科書／テキスト	田中かの子著『比較宗教学―「いのち」の探究―』新装改訂版、北樹出版、新学季（4月以降）に、学内の書店で販売予定の、最新版（試験内容にも関連）を使用する。
----------	--

参考書	物事を多方面から捉えた柔軟な視点の著作（文学としても味読できるもの）を適宜、ご紹介しします。
-----	--

その他	講義担当者の現地調査によるスライドや録音テープを活用します。
-----	--------------------------------

履修コード	342401
科目名	宗教学【比較宗教文化】
担当者名	田中 かの子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	人間には実に様々な生き方・見方・考え方・信じ方があり、「いのち」あるうちに為しうることに、限らない可能性があるということ、諸宗教の比較は教えてくれる。わたくしたち自身も、そのなかの、かけがえのない一通りの人生を歩んでいる。「～教」や「～教徒」などという、他の人々と区別しうる特徴をもっているかのように錯覚してしまうが、言うまでもなく、信仰者としての彼らが目指すのは、より善い「人間」としてこの一生を全うすることにほかならない。各宗教が人間にどのような有り方を望んでいるのかを、その伝統的な生活文化をとおして俯瞰し、いま、この世界のどこかで生きている、いまだ出会うことのない人々への共感を呼び覚ましてみたい。それが、誤解や偏見のない「人間」理解に繋がれば幸いである。
--------------------	--

授業スケジュール	講義担当者の生活体験をともなう地域（インド・ヨーロッパ）を中心に、机上では知りえない、かならずしも教義一辺倒ではない信仰生活の多様性について解説する。前期（1～15）は諸宗教に共通する人間文化の特徴、後期（16～30）は各宗教の個性と他宗教との関係を念頭に置きながら、その時々の世界情勢を踏まえたトピックを臨機応変に選んでいく。
----------	--

準備学習	教科書を通読し、関心のある箇所をチェックしておくこと、受講するのが、より楽しくなります。
------	--

履修上の留意点	板書は、即興の覚え書きや、テーマの骨子を素描したものにすぎません。むしろ、講義の言葉や自分の考えに耳を傾けて、積極的にノートしましょう。仏教と他宗教との関連性に注目。様々なページを開いて比較し、視野を広げる機会が多いので、教科書は必携です。授業中に参照するページのなかで、注目したい語句や行には、目的に応じて色分けした下線や印などを付けておくと、課題や試験の準備に有効ですし、卒業後の読書にあたって、自分なりの読み方を深めやすくなります。
---------	---

成績評価の方法	受講の成果、創意工夫、日本語の表現力などを評価する課題（締め切り：12月最後の授業日）、学年末試験、平常点。
---------	--

教科書／テキスト	田中かの子著『比較宗教学―「いのち」の探究―』新装改訂版、北樹出版、新学季（4月以降）に、学内の書店で販売予定の、最新版（試験内容にも関連）を使用する。
----------	--

参考書	「いのち」の尊さや、異文化間の交流を扱ったもの（書物、映画など）なら何でも。
-----	--

履修コード	211521
科目名	宗教学〔民俗宗教の諸相〕
担当者名	宮田 義矢

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>授業概要：信じない人は信じる人の気持ち、信じる人は信じない人や別の宗教を信じる人の気持ちがわからないといいます。しかし、現在もなお、様々な宗教が多くの人々や社会と関わりあっていることを知れば、「わからない」で済ませて見ようとしていなかった、のっぴきならない人間・他者の姿が見えてきます。</p> <p>そのための「目」を養うため、前期では世界の大宗教、宗教学の様々なアプローチ、宗教の関わる事件などを取り上げ、また後期は、中国と日本の民俗宗教をメインに紹介していきます。</p> <p>到達目標：本講義は、「宗教」というものが、どのようなものであったか、また現在どのようなものとしてあるかを理解し記述しようとする試み、すなわち宗教学について紹介するものです。宗教を理解するための様々な切り口に触れ、宗教学的な考え方について理解を深めていくことが本講義のねらいです。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>みなさんの興味にあわせて若干変更する場合があります。</p> <p>[01] はじめに。</p> <p>[02～05] 宗教学の考え方について、「メディアと宗教」、「宗教心理学」などを題材に説明します。</p> <p>[05～10] キリスト教やイスラーム教に共通する「聖典」、「契約の概念」などをテーマに世界の宗教を概観します。</p> <p>[11～15] 「原理主義」や「スピリチュアリティ」を手がかりに、現代社会の諸問題と宗教の関わりを考えていきます。</p> <p>[16～19] 「民俗宗教」という考え方について、中国の宗教を事例に論じます。</p> <p>[20～24] 日本や中国の「民俗宗教」に関わるトピックをあげ、考察を加えていきます。</p> <p>[25～29] 「民俗宗教の実践」をテーマに、「養生法(氣功)」や「シャーマニズム(扶乩)」などを題材にして考えていきます。</p> <p>[30] おわりに。</p>
----------	---

準備学習	特に求めません。
------	----------

履修上の留意点	リアクションペーパーを適宜提出してもらいます。
---------	-------------------------

成績評価の方法	小レポート（30点）を一回、期末レポート（50点）を一回課します。これにリアクションペーパー・平常点（20点）を合わせ、総合的に評価します。レポートの内容および執筆の要領については講義中に指示します。
---------	--

教科書／テキスト	特に使用しません。資料を適宜配布します。
----------	----------------------

参考書	<p>近年の宗教学入門書として、次の2冊をあげておきます。</p> <p>島蘭進[ほか]編『宗教学キーワード』有斐閣、2006年</p> <p>岡田典夫[ほか]著『はじめて学ぶ宗教：自分で考えたい人のため』有斐閣、2011年</p> <p>そのほか、適宜授業時に紹介します。</p>
-----	---

その他	詳細については、初回講義時に説明します。受講を考えている方は必ず出席してください。
-----	---

履修コード	211501
科目名	宗教学〔日本人の宗教〕
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義は、日本人の宗教について幅広く紹介し、また宗教学による見方も紹介する。前期は、神道・仏教・修験道・民俗宗教を中心に取り上げ、後期は、近代以降における日本への宗教の移入と日本からの移出、思想的変容などを中心に論じる。</p> <p>(到達目標) 宗教というものを語り理解するには様々な方法がある。宗教学はその1つである。また宗教学の中にも宗教に対しての異なる見方がある。本講義では、日本人の宗教を紹介する事とともに、宗教学における多様な見方、特に宗教人類学や宗教社会学、宗教思想研究といった見方を適宜取り上げて紹介する。日本の宗教の歴史的概要の基礎知識を学ぶことと、それらの事例を宗教学の視点から考察できるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 概説・宗教学概論と日本人の宗教 3. 神道1 神道の教え 4. 神道2 神道の歴史 5. 神道3 神道の現在 6. 日本仏教史1 宗派と經典 7. 日本仏教史2 歴史的変容 8. 修験道 9. 伝統的な民俗宗教 誕生から結婚 10. 現代の結婚 11. 伝統的な民俗宗教 葬儀と先祖供養 12. 現代の葬儀 13. 現代の民俗宗教 14. 占い 15. まとめ 16. 復習と後期概説 17. 寺院建築 18. 神社建築 19. 日本のキリスト教1 20. 日本のキリスト教2 21. キリスト教思想 内村鑑三 22. 仏教思想1 清沢満之 23. 仏教思想2 田中智学 24. 新宗教 25. 新宗教の思想・出口なお 26. 日本のイスラーム 27. 海外の日本宗教1 アメリカ 28. 海外の日本宗教2 アジア 29. 日本人の現代宗教・若者アンケート概要 30. まとめ
準備学習	宗教学の入門書（以下の参考書欄を参照）などを読んでおくと、本講義がより分かりやすくなる。
履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期レポート40%（夏休み前に課題を提示・後期初回に提出）、 ・後期の定期試験期間における筆記試験60%
教科書／テキスト	なし
参考書	<p>宗教学の入門書（いずれも授業時に使用するものではない）。</p> <p>石井研士『プレステップ宗教学』弘文堂、1890円、2010年。</p> <p>井上順孝『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる宗教学』日本実業出版社、1575円、2011年。</p> <p>末木文美士『日本宗教史』岩波書店、780円、2006年。</p>
その他	なし

履修コード	211901
科目名	人文地理学〔空間と行動〕
担当者名	伊藤 修一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) われわれの日常生活の拠点は都市にある。われわれはその環境に影響を受けて行動する一方で、その行動が都市に特徴をつけていくこともある。この授業では、とくに都市に注目して、地理学的な見方で都市をとらえて、説明していく方法を具体例を挙げながら説明する。</p> <p>(到達目標) この講義では、地理学の基本的な道具である地図の特性や空間的表現を活かして、都市に関する古典的な立地法則とその実際、都市の空間的構造や余暇活動圏の特徴と形成過程を理解して、空間や距離と、諸産業・経済とが相互にどのような影響を与えてあっているかを具体的に説明できることを到達目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 地図とは？</p> <p>第3回 地図の表現方法</p> <p>第4回 都市とは？</p> <p>第5回 都市の分布と立地—都市の数と規模の関係</p> <p>第6回 都市の分布と立地—商業の立地論 (1)</p> <p>第7回 都市の分布と立地—商業の立地論 (2)</p> <p>第8回 都市の分布と立地—商業の立地論の実際</p> <p>第9回 都市の分布と立地—工業の立地論 (1)</p> <p>第10回 都市の分布と立地—工業の立地論 (2)</p> <p>第11回 都市の分布と立地—工業の立地論の実際</p> <p>第12回 都市の分布と立地—農業の立地論</p> <p>第13回 都市の分布と立地—農業の立地論の応用</p> <p>第14回 都市や地域の結びつき—結びつきの型</p> <p>第15回 都市や地域の結びつき—伝播・拡散</p> <p>第16回 都市や地域の結びつき—結びつきの強さ</p> <p>第17回 人口変動と分布・人口移動—人口変動と分布の特徴とその変化</p> <p>第18回 人口変動と分布・人口移動—人口変動と人口分布の関係</p> <p>第19回 人口変動と分布・人口移動—人口移動と都市の形成</p> <p>第20回 都市の居住構造の形成過程—社会経済的特徴からみた場合 (1)</p> <p>第21回 都市の居住構造の形成過程—社会経済的特徴からみた場合 (2)</p> <p>第22回 都市の居住構造の形成過程—家族の特徴からみた場合 (1)</p> <p>第23回 都市の居住構造の形成過程—家族の特徴からみた場合 (2)</p> <p>第24回 都市の居住構造の形成過程—民族の特徴からみた場合 (1)</p> <p>第25回 都市の居住構造の形成過程—民族の特徴からみた場合 (2)</p> <p>第26回 都市と余暇活動—余暇活動の特徴と変化</p> <p>第27回 都市と余暇活動—大都市住民の余暇活動の特徴とその要因</p> <p>第28回 都市空間における認知と行動—認知空間の広がりの特徴</p> <p>第29回 都市空間における認知と行動—認知空間の広がり</p> <p>第30回 全体のまとめと確認</p>
----------	---

準備学習	授業では簡単な数式を用いることがある。具体的には、一次方程式や対数といった高校の数学Iや数学IIの内容に相当する。不安がある者は、それらの数式の特徴や意味することについてよく復習をしておくこと。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	講義期間中に実施される試験得点(80%)と平常点(20%)から評価する。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	高校などで利用した地図帳を準備することが望ましい。
----------	---------------------------

参考書	<p>さしあたり、以下の本を紹介する。</p> <p>坂本英夫・浜谷正人編著『最近の地理学』大明堂、2625円、ISBN 978-4-4704-0038-6</p> <p>富田和暁・藤井 正編『新版 図説 大都市圏』古今書院、3150円、ISBN 978-4-7722-4140-3</p>
-----	---

その他	講義ではプリントを随時配布する。資料のバックナンバーの閲覧や急な連絡などはYeStudyを通じて行うので、履修者は開講後早めに登録を済ませること。
-----	---

履修コード	211801
科目名	人文地理学〔空間と行動〕
担当者名	伊藤 慎悟

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、地理学およびそれに関連する社会的問題における基礎的知識の習得を目的とし、地域的差異の発生と、その要因について議論する。今年度は、学問としての地理学の解説、そして各種分布図、資料の読み取りを行い、なぜそこに立地するのか、なぜ地域差が生じたのかを考えていく。
---------------------	--

授業スケジュール	今年度の授業は以下の内容で行う予定である。 予定は変更になる場合がある。 次回授業内容は授業時に予告する。
----------	---

1. 本講義の概要と受講に関する諸注意
2. 地理学の歴史と研究目的
3. 地理学の研究領域
4. 地理学における表現方法
5. 気候条件と居住形態
6. 立地の理論 (1)
7. 立地の理論 (2)
8. 都市の発達と構造 (1)
9. 都市の発達と構造 (2)
10. 都市の発達と構造 (3)
11. 地形と土地利用
12. 村落形態
13. 過疎問題
14. 過疎対策
15. 前期講義内容の総括
16. 前期講義内容の確認
17. 現代文化と地理学 (1)
18. 現代文化と地理学 (2)
19. 都市における移動の発生
20. 日本の通勤移動 (1)
21. 日本の通勤移動 (2)
22. 都市交通の発達と問題 (1)
23. 都市交通の発達と問題 (2)
24. 人口問題 (1)
25. 人口問題 (2)
26. 少子高齢化問題 (1)
27. 少子高齢化問題 (2)
28. 住宅団地の立地
29. 後期講義内容の総括
30. 後期講義内容の確認

準備学習	とくに予習する必要はないが、普段から新聞やニュースに目を通すようにし、昨今の社会問題に関心を持つようになっておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	地理学の専門知識は必ずしも必要としない。ただし、地理という分野に多少の興味を持っておくことが履修するうえで不可欠である。普段より授業で取り上げた事例、地域について自分なりに調べておくことが求められる。また、板書形式の授業なので、ノートを必ず持参すること。ほぼ毎回、A4サイズの資料を配付するので、それを綴じられるバインダー等があると便利である。授業は講義形式であり、受講者に発言、討論は求めない。したがって、私語は厳禁である。遅刻常習の者は成績にかかわらず単位認定しない。
---------	--

成績評価の方法	2010年度の成績配分 (目安) S・A・・・24% B・・・31% C・・・26% 単位認定せず・・・19%
---------	--

前期授業内容が範囲となる中間試験と、年度末の期末試験 (追試なし)、そしてほぼ毎回出される課題の内容や授業態度によって評価する。また、遅刻も評価対象とする。

教科書/テキスト	とくに使用しない。高校などで使用した地図帳があると便利である。
----------	---------------------------------

参考書	とくになし。
-----	--------

履修コード	211701
科目名	人文地理学〔風土と文化〕
担当者名	櫻井 明久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	主に地理学科以外の一般の学生向けに、作業を通じて、風土と文化に関する人文地理学の見方や考え方を学ぶ。作業は、地形図の着色・読図、地図帳の利活用、ルポルタージュ作品の活用など。授業中の作業と取り組み・訓練が重要である。取り扱う地域については、日本とヨーロッパ(ドイツ農村、パリ大都市圏周辺農村)など桜井が直接経験・調査した地域の事例を取り上げる。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>まず前期に、個人と地域との関係レベルの人文地理学をまず考えたい。2.5万分の1の旧版地形図などを利用して基本的な地図の見方を練習し、着色作業しながら地形と土地利用の関係を学び、集落から都市レベルの地理を考える。夏休みには、前期で学んだ作業方法を活用し、各自の身近な地域について着色作業し、レポートを作成する。この夏休みのレポートの配点が高い。後期は、北西ヨーロッパを扱い、より大きなスケールで、農業と食を手がかりに国、超国家スケールまでの人文地理学を考える。また、後期の後半には、何人かに夏休みのレポートを簡単に発表してもらおう予定である。</p> <p>1. オリエンテーション、地図の基礎知識、2. 人を通じてその土地を知る、3. 地図で伝える、4. 地形図(1) 地図記号を使って追跡、5. 地形図(2) 等高線でみる地形、6. 地形図(3) 地形図読図練習、7. 着色作業(1) 自然堤防と後背湿地の土地利用、8. 着色作業(2) 台地と低地の土地利用、9. 着色作業(3) 丘陵と山地の土地利用、10. 伝統的生業を読む、11. 伝統的集落景観を読む、12. 外国の地形図と地図記号、13. 外国旅行と野外観察、14. 外国の都市地図と街歩き計画、15. 地図帳利用(1) 基本、16. 地図帳利用(2) 時差と旅行計画、17. ヨーロッパの農業文化(1) 肉、18. ヨーロッパの農業文化(2) 小麦、19. ヨーロッパの農業文化(3) 乳製品、20. 混合農業、21. 混合農業の発展史、22. 北西ヨーロッパの景観史、23. 三圃制の村・内畑外畑の村、24. ジャガイモ生産と円村、25. ソバとクレープとポカージュ景観、26. ワイン栽培北限地域、27. ヨーロッパの田舎町、28. ヨーロッパにおける地方都市と都市圏、29. パリ大都市圏、30. ヨーロッパの構造</p>
----------	---

準備学習	準備よりも、ワークを練習をしたり、遅れた作業の回復に努め、期限までに作業結果を提出できるようにすることが求められるので注意すること。
------	--

履修上の留意点	ほぼ毎授業、その時間内で作成した作品や地図、ミニレポートを提出する。次時にはそれらを反省したり、皆さんの疑問や質問を取り上げて、考察を深めたい。こうした作業活動型の授業を行うので、作業が滞る欠席・遅刻は厳しくチェックする。積極的な授業参加を望みたい。なお、着色作業のために、6色程度の色鉛筆を使ったり、中・高校時代に利用した地図帳を利用するので、指示する時間に持参すること。また、配付した資料も忘れずに持参する必要がある、こうした準備がないと授業に参加できないので十分に注意すること。
---------	--

成績評価の方法	毎時のミニレポートないしは作品提出：50点(出席し、授業内で作業を行うことが重要である)、夏休みレポート：30点、試験(前・後期)：計20点といったバランスで評価したい。
---------	---

教科書/テキスト	なし。
----------	-----

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	211601
科目名	人文地理学〔風土と文化〕
担当者名	山口 太郎
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 本講義では、都市、とりわけ東京を通じて地理的想像力を磨くこと、そして都市を批判的にみつめる力を養うことを目的とする。教室で学習した知識と、地理的想像力や批判精神といった感覚を、日常生活の場（所）や空間で活かすことができれば理想的である。</p> <p>（到達目標） 「都市空間」を数量的データを活用して分析し、理解し、表現する「数量的スキル」、「都市空間」の問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を確実に解決できる「問題解決力」、「都市空間」の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる「論理的思考力」という汎用的技能3点と、東京論の基本的な知識の体得を到達目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>次の項目を予定している。</p> <p>(1)～(3)東京の自然史（都市と緑、坂の町・東京、水の都・東京）、(4)～(8)東京の歴史地理（明治以降の通史、同潤会アパートの歴史、都市の観察法）、(9)～(10)東京の社会・経済地理（社会地図、産業集積）、(11)～(15)都市の文化・社会地理（シカゴ学派、大阪の事例、都市の表象、情報と都市空間）、(16)～(17)都市計画、(18)～(21)東京の文化地理（渋谷、秋葉原、代官山、下北沢、大久保、新宿など）、(22)～(26)東京郊外の文化・社会地理（世田谷区内各所、田園調布、「多摩田園都市」、多摩ニュータウンなど）、(27)～(30)都市の社会地理（都市空間と権力、時間地理学、都市空間とジェンダー、都市空間と故郷）</p>
準備学習	主に東京23区を舞台として講義を進めるので、23区名や鉄道路線、駅名が分かる地図が手元にあると理解の助けとなるはずである。普段から積極的に東京の街歩きをしてほしい。
履修上の留意点	YeStudyを活用した小テストや、不定期に教場での小レポートを課すことがある。
成績評価の方法	夏のレポート40%、後期試験40%、平常点20%
教科書／テキスト	特に定めない。プリントを配布する。
参考書	授業の中で紹介していく。
その他	<p>講義形式を基本とするが、皆さんに質問を投げかけることもあるので、主体的に参加してほしい。</p> <p>講義は、東京を舞台として人文地理学的思考のトレーニングを行うことに力点を置くため、人文地理学を体系的に学習したい学生には、あまり向いていない。</p>

履修コード	208901
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	河谷 淳

授業概要/ 到達目標(ねらい)	この授業では、西洋思想の二大源流であるギリシア哲学(古代哲学)とキリスト教哲学(中世哲学)とを主要なテーマとして取り上げる。これらの二大源流は不連続性と連続性の両面を併せ持ちながら、複雑に分岐・合流を繰り返して近現代の思想へと流れ込んでいる。この意味では現代の私たちが古代・中世哲学について考えることは現代哲学の一形態であると言ってもよいであろう。授業では、できるだけ身近で具体的な事例をあげながら、基本的な哲学用語について理解を深めてもらえるよう配慮したい。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 2. ソクラテス以前の哲学(1) 3. ソクラテス以前の哲学(2) 4. ソクラテス以前の哲学(3) 5. ソクラテス以前の哲学(4) 6. ソクラテス以前の哲学(5) 7. ソクラテスの哲学(1) 8. ソクラテスの哲学(2) 9. プラトンの哲学(1) 10. プラトンの哲学(2) 11. プラトンの哲学(3) 12. アリストテレスの哲学(1) 13. アリストテレスの哲学(2) 14. ヘレニズムの哲学 15. 前期授業内容の理解度の確認 16. アウグスティヌスの時間論 17. 神の存在証明(1) 18. 神の存在証明(2) 19. 普遍論争(1) 20. 普遍論争(2) 21. デカルトの哲学(1) 22. デカルトの哲学(2) 23. 大陸合理論の展開 24. ロックの哲学(1) 25. ロックの哲学(2) 26. イギリス経験論の展開 27. カントの哲学(1) 28. カントの哲学(2) 29. 30. まとめと理解度の確認
----------	---

準備学習	教科書の対応箇所に目を通しておくことが望ましい。
------	--------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	中間試験(前期最終授業日に実施)と期末試験(それぞれ40点満点)ならびに夏休みレポートと平常点との総合点で評価する。
---------	--

教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社3200円
----------	--------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	209501
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	久保 陽一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代文明と人間の関係について反省し、われわれが現実に対していかに対処すべきかを考える。現代の哲学では、一方で近代の科学技術では把握しきれない世界の真相を捉えようとする傾向や、他方で逆に科学的見方を尊重しつつも、「意識」による世界の根拠づけから「言語分析」へ転換しようとする傾向、また実践を重んじ社会のあり方を批判しようとする傾向がある。授業では、まず近代哲学が提起した諸問題を踏まえた後で、それらの問題が19世紀後半以降においていかに批判的に展開されたかを見る。それによって、現代における人間のあるべき姿について考えることを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 近代における自然観の問題 (1) 2 近代における自然観の問題 (2) 3 近代における認識の問題 (1) 4 近代における認識の問題 (2) 5 近代における実践哲学の問題 (1) 6 近代における実践哲学の問題 (2) 7 近代における実践哲学の問題 (3) 8 近代における歴史観の問題 9 マルクス (1) 10 マルクス (2)、フランクフルト学派 11 新カント派 12 ウェーバー 13 ショーペンハウアー 14 ニーチェ 15 理解度の確認 16 ベルクソン 17 デールタイ 18 キルケゴール 19 ハイデッガー (1) 20 ハイデッガー (2) 21 ガダマー 22 ムーア 23 フレーゲ、ラッセル (1) 24 ラッセル (2) 25 論理実証主義、ポパー 26 クワイン 27 プラグマティズム 28 言語行為論 29 物語の哲学 30 理解度の確認
----------	---

準備学習	授業内容をよく復習すること。不明な点は授業の際に質問すること。次回に扱う個所について、あらかじめ、教科書に目を通しておくこと。
履修上の留意点	私語、途中退席をつつしむこと。ノートをよく取ること。分からないところは遠慮なく尋ねること。
成績評価の方法	成績は、前・後期試験(8割) およびレポート(2割)によって評価する。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』、公論社、3200円、ISBN 4-7714-2002-5
参考書	久保陽一『ドイツ観念論への招待』(放送大学教育振興会) 久保陽一『生と認識』(知泉書館) 渡辺二郎『現代の哲学』(放送大学教育振興会)
その他	哲学は、既に確定した知識があって、それを暗記すれば良いものではない。一人一人が主体的に自分の問題に取り組む姿勢が大事である。カントが言ったように、哲学の内容は—例えば、法律の条文とか物理学の法則を教えられるように、—教えることができず、各自が主体的に「哲学する」ことの大切さを教えることができるのみである。とはいえ、素人がまったくゼロから自己流で始めることは困難であり、得策ではない。やはり、既に存在する過去の優れた哲学者の知識を「学ぶこと」は大切なことである。むしろ「学ぶこと」を通して初めて自主的に「哲学する」ことが少しずつ形成されるだろう。この点を肝に銘じて、くりかえし学習しつつ、思索や作文を試みてもらいたい。

履修コード	209301
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	黒崎 剛

授業概要/ 到達目標（ねらい）	近代社会（近代とは現代も含む）のなかで人間のあり方と、社会構造（近代市民社会＝資本主義社会）について、近現代哲学を総括した上で、テーマ別に人間論と社会論について入門的な講義を行う。個々の哲学者の学説史ではないので、哲学史の知識を求める人には向かない。
--------------------	---

授業スケジュール	以下のテーマを取り上げる予定 1. はじめに：われわれはどんな社会に生きているか 2. 「知識」は何のためにあるのか 3. 近代的自我：「自分である」とはどういうことか 4. 近代的自由の類型：自己決定と自律 5. 人間と自然：人はなぜ自然に生きることができないのか 6. 近代資本主義社会の構造：われわれはなぜモノとカネに支配されるか 7. 歴史哲学
----------	---

準備学習	プリントを事前に配布されたときは、読んでくること。
------	---------------------------

履修上の留意点	近代哲学の主要テーマ別にかなり抽象的な形で取り上げるので、単位獲得のためだと割切っている人は退屈するはず。自分で考える姿勢を持つことを要求したい。
---------	---

成績評価の方法	学年末試験を中心とし、受講態度および出席を加えて総合評価する。
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	教科書の代わりにプリントを配布。
----------	------------------

参考書	教場で紹介する。
-----	----------

履修コード	209201
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	小島 優子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	近代における「人間中心主義」をテーマとする。現代における環境問題を考えるとき、われわれはすぐに人間中心主義の思想のもとに自然破壊が行われてきたことに思い至る。近代における科学技術の発展はわれわれの生活をたいへん便利なものとしてきた。しかし、人間中心主義がわれわれにもたらしたものはいったい何であろうか。このことを考察するために、まず自然と人間との関係は古代ギリシア以来、どのように考えられてきたか、そして近代人の特色とは何であるについて押さえる。
--------------------	---

授業概要/ 到達目標（ねらい）	近代において人間中心主義が標榜されるようになったのは、中世のように神が人々にとって中心的な問題ではなくなったことに由来する。そもそもなぜ古来人間は神を信じてきたのか、さらに近代人にとって神とはどのような存在であるのかについて考えたい。近代においてはむしろ人間とは何であるかということが、歴史的状況、社会的状況のなかで問われるようになった。そして人間はいかに生きるべきか、人間とは何かということが問題とされる。講義を通して、人間とは何か、また人間が生きることの意味について学生諸君に考えてもらいたい。
--------------------	---

授業スケジュール	1 哲学とは何か 2 近代以前の哲学 ① 古代ギリシア哲学の世界観-人間と自然・人間と国家との関係- ② 中世哲学とキリスト教神学 3 近代哲学の特徴 ① キリスト教神学からの解放-近代人にとって神とは何か- ② 自然科学の哲学への影響 ③ 人間中心主義の世界観
----------	--

準備学習	教科書を読んで予習しておくこと。
------	------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	1回の定期試験（中間試験）と、1回の学期末試験と平常点（出席状況）で評価する。
---------	---

教科書／テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社
----------	---------------------------

参考書	小島優子著『最新哲学がよ〜くわかる本』秀和システム 小島優子著『ヘーゲル 精神の深さ』知泉書館
-----	--

履修コード	208801
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	佐藤 暁
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	哲学という営みが世界史上初めて行われた古代ギリシャ及びその強い影響下にあった中世ヨーロッパで活躍した哲学者たちの議論に、なるべく具体的かつ丁寧に触れることによって、哲学的な問題とはどのようなものであり、哲学的に何かを論じるとは一般にどのようなことであるか、の理解を得ることを目的とします。また、一見現代の我々のものと異なって見えることもあるそれらの問題設定を知ることによって、我々が何かを考える際に自明と見なしている枠組みの相対性と普遍性を、結果的に吟味することにもなります。
授業スケジュール	(1) 概論：哲学とはどのような学問か (2~9) ソクラテス以前の哲学 (10~15) ソクラテス・プラトン (16) ~ (20) アリストテレス (18~23) ヘレニズム期の哲学・教父思想とアラビア哲学 (23, 24) カロリング・ルネサンスと前期スコラ学 (25) ~ (28) 盛期スコラ学 (29, 30) 後期スコラ学
準備学習	その回の授業で扱う予定の哲学者について、教科書の該当箇所に目を通しておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学期末にレポートを提出してもらいます。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社3200円 ISBN978-4-7714-2002-1
参考書	

履修コード	209101
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	佐藤 暁
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	科学が世界の基礎的な真相を記述している、という現代においても支配的な信念が初めて一般に共有されるようになった近代という時代の哲学は、それゆえ、現代の我々が普段何をしていることになるのか、あるいはどのような世界に住んでいるのか、といった哲学的な問いを考えるうえで必要となる道具立てのうち、最も基本的なものを作り上げた哲学と言えます。この授業では、近代の哲学者たちの議論に具体的に触れることによって、我々自身が哲学的に考えるうえで必要な思考方法にどのようなものがあるかを実際に知り、できればそれらある程度使いこなせるようになることを目標とします。
授業スケジュール	以下の哲学者を中心に、各項目ごとの解説を行います。(1) 概論：人間と人間観、世界と世界観 (2) ~ (18) イギリス経験論 (ホッブズ・ベーコン・ロック・ヒューム) (19~25) 大陸合理論 (デカルト、スピノザ) (26~30) カントとドイツ観念論 (カント・ヘーゲル)
準備学習	その回の授業で扱う予定の哲学者について、教科書の該当箇所に目を通しておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学期末にレポートを提出してもらいます。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社 3200円 ISBN978-4-7714-2002-1
参考書	

履修コード	343201
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	佐藤 暁
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	科学が世界の基礎的な真相を記述している、という現代においても支配的な信念が初めて一般に共有されるようになった近代という時代の哲学は、それゆえ、現代の我々が普段何をしていることになるのか、あるいはどのような世界に住んでいるのか、といった哲学的な問いを考えるうえで必要となる道具立てのうち、最も基本的なものを作り上げた哲学と言えます。この授業では、近代の哲学者たちの議論に具体的に触れることによって、我々自身が哲学的に考えるうえで必要な思考方法にどのようなものがあるかを実際に知り、できればそれらある程度使いこなせるようになることを目標とします。
授業スケジュール	以下の哲学者を中心に、各項目ごとの解説を行います。(1) 概論：人間と人間観、世界と世界観 (2) ~ (18) イギリス経験論 (ホッブズ・ベーコン・ロック・ヒューム) (19~25) 大陸合理論 (デカルト、スピノザ) (26~30) カントとドイツ観念論 (カント・ヘーゲル)
準備学習	その回の授業で扱う予定の哲学者について、教科書の該当箇所に目を通しておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学期末にレポートを提出してもらいます。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社 3200円 ISBN978-4-7714-2002-1
参考書	

履修コード	343301
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	鈴木 聡
授業概要/ 到達目標(ねらい)	本講義のねらいは、現代哲学の重要問題を扱った素材を叩き台として、1つの問題について徹底的に考え抜くという態度を受講者に身につけさせることである。
授業スケジュール	(1) プロローグ・(2) 問いの構造・(3・4) 懐疑論・(5・6) 意識・(7) 誤謬推理・(8・9) 他人の心・(10) ロボットと人間・(11) 意味・(12) 生命倫理・(13) 性・(14・15) 道徳と宗教・(16・17) 道徳に関する2つの見方・(18) 芸術の定義・(19) 知識・(20) 帰納法・(21・22) 時間・(23・24) 自由意志と決定論・(25・26) 功利主義・(27・28) 人格の同一性・(29・30) パラドクス
準備学習	必ず予習をして講義に出席すること。
履修上の留意点	欠席・遅刻は一切認めない。 講義中に居眠り等の注意を受けた者は速やかに退室すること。
成績評価の方法	成績は、出席状況・講義中の発表によって評価する。
教科書/テキスト	開講時に指定する。
参考書	

履修コード	208701
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	滝口 清栄
授業概要/ 到達目標(ねらい)	西洋思想は古代ギリシアで哲学的思索が始まってからすでに二千数百年の歴史をもっている。とかく現代では、目新しさを求める風潮が強くなる。そしてさまざまな流行が私たちを囲んでおり、思想の世界もこの風潮を免れていない。しかし、この二千数百年の歴史は、けっして遺物の山なのではない。そうではなく、この歴史のなかでさまざまなテーマが多くの思想家たちによって提出されて、さまざまな応答がなされてきた。それらは、今日のさまざまな思想的論点の底流を形作っていると言っても、言い過ぎではないだろう。
授業スケジュール	西洋思想の源流として、古代ギリシア・ローマの諸思想、そして中世の思想を取り上げる。講義にあたっては、それぞれの思想の検討だけでなく、その思想の背景にある歴史的な事情や当時の文化のあり方にも目配りをおこなう。講義スケジュールは次のようにする。 前期 1 万物のはじめをもとめて(ソクラテス以前の哲学者たちの思索を検討する) ① 古代ギリシアの歴史 ② タレス ③ アナクシマンデロス、アナクシメネス ④ デュオニューソス信仰 ⑤ ピタゴラス ⑥ ヘラクレイトス、パルメニデス ⑦ デモクリトス 2 ポリスの思想家たち(ソクラテス、プラトン、アリストテレスなど) ⑧ ポリスの生活 ⑨ ソクラテス ⑩ プラトン アイデア論 ⑪ プラトン 国家論 ⑫ アリストテレス 世界観 ⑬ アリストテレス 道徳論 ⑭ アリストテレス ポリス論 後期 1 ヘレニズム時代のコスモポリートたち(エピクロス、初期ストア派の思想家たち) ① ヘレニズムの文化と時代 ② 原子論の哲学 エピクロス ③ 自然にしたがって生きる エピクロス ④ ストア派の世界観 ⑤ 自然にしたがって生きる ストア派 ⑥ 判断中止 懐疑論の哲学 ⑦ 新プラトン主義 プロティノス 2 中世の思想(アウグスティヌス、トマス・アクィナスなど) ⑧ 中世の社会と文化 ⑨ 内心の不安 アウグスティヌス ⑩ 神とは アウグスティヌス ⑪ アリストテレス哲学の受容 トマス・アクィナス ⑫ 存在の類比 トマス・アクィナス ⑬ 普遍論争 3 近代の幕開け、ルネサンス ⑭ ルネサンスの歴史的背景 ⑮ ルネサンスの精神
準備学習	授業内容の理解のうえで、あらかじめ明らかな入門書を通して、ある程度イメージをもっておいでほしい。ここでは、小島優子『最新 哲学がよ〜わかる本』(秀和システム、2006年)をあげておく。 テキストの難解な原典抜粋を解説するとき、理解しやすくなるであろう。
履修上の留意点	講義は平明を心がける。ノートをよくとってほしい。ときどき質問用紙を配るので、不明な点について質問を出してほしい。
成績評価の方法	中間テスト(前期の最終授業時)と学年末試験により成績を評価する。試験を80% 出席を20%とする。追試験は実施する。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』、公論社、3200円
参考書	

履修コード	209401
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	滝沢 正之
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>《授業概要》 現代哲学における重要な哲学者たちのうちから何人かをとりあげ、本人が書いたテキストの一部を（翻訳ではあるが）実際に読みつつ、その志向の道行きを紹介していく。歴史を振り返れば、人間はよりよい世界を求めて努力してきたと言えるだろう。しかし、我々が生きる現代社会においても、いまだなおさまざまな問題が残っているし、さらにまた、現代ならではの新しい問題さえ生じてきてしまっている。哲学者たちの思考をたどることで、それらの問題を根本にまで立ち戻って考え直すことを試みたい。</p> <p>《到達目標》 現代哲学上の有力な立場について、基本的な知識を得ること。さらに、その立場に基づいて、さまざまな問題について思考する力を身につけること。</p>
授業スケジュール	<p>下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典引用部分を丁寧に読み、解説していく。基本的にドイツ系の哲学が中心となる。スケジュールの予定は以下のとおりである。</p> <p>第一回 イン트로ダクション：現代哲学の流れ 第二回～第五回 現代哲学の出発点（1）：ヘーゲル 第六回～第九回 現代哲学の出発点（2）：ショーペンハウアー 第十回～第十三回 現代哲学の諸展開（1）：マルクス 第十四回～第十七回 現代哲学の諸展開（2）：フランクフルト学派 第十八回～第二十一回 現代哲学の諸展開（3）：ニーチェ 第二十二回～第二十五回 現代哲学の諸展開（4）：キルケゴール 第二十六回～第三十回 総括</p> <p>時間が余れば、受講者からの希望に応じた哲学者を扱うこともしたいと考えている。</p>
準備学習	教科書の該当箇所にももって目を通しておくことが望ましい。
履修上の留意点	教科書を必ず入手しておくこと。
成績評価の方法	中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する。中間試験はレポートとする予定。期末試験は筆記試験とする。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。
教科書／テキスト	久保陽一、河谷淳編著『原典による哲学の歴史』、公論社、2002年、3,200円。また、授業中に適宜プリントを配布する予定。
参考書	講義中に適宜指示する。

履修コード	343101
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	滝沢 正之

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>《授業概要》 西洋哲学史を古代から中世にかけてを中心に紹介する。時間があれば、続けて近世から現代へと時代順に進んでいく。ただし、書店で手に入る哲学史の入門書のように、哲学者たちの思想をダイジェスト版で紹介することはしない。哲学者本人が書いたテキストそのもの（翻訳ではあるが）を実際に読んでいくことにしたい。もちろんすべてを精読するわけにはいかないの、諸著作の一部を抜き出して検討することになる。本物の哲学者の本物の哲学書から、哲学的な思考とはどのようなものかを実感することを目標とする。それと同時に、はるか昔の頭のよい？人たちがどんな変なことを考えていたのかを楽しんでいきたい。</p> <p>《到達目標》 古代中世西洋哲学史について、基本的な知識を得ること。また、それをつうじて哲学的な思考に親しむこと。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典の引用部分を丁寧に読み、解説していく。適宜プリントで補足を行う。進行は教科書の目次にしたがう。
----------	---

- 第一回 インTRODクシヨン：西洋哲学史を概観する
- 第二回～第四回 ソクラテス以前の哲学（1）
- 第五回～第七回 ソクラテス以前の哲学（2）
- 第八回～第十回 ソクラテス、プラトン、アリストテレス
- 第十一回～第十三回 ヘレニズム期の哲学
- 第十四回～第十六回 教父思想とアラビア哲学
- 第十七回～第十九回 カロリング・ルネサンスと前期スコラ学
- 第二十回～第二十二回 盛期スコラ学
- 第二十三回～第二十五回 後期スコラ学
- 第二十六回～第二十七回 近代への曙光
- 第二十八回～第三十回 全体の総括

準備学習	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	教科書を必ず入手しておくこと。
成績評価の方法	中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する。中間試験はレポートとする予定。期末試験は筆記試験とする。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。
教科書／テキスト	久保陽一、河谷淳編著『原典による哲学の歴史』、公論社、2002年、3,200円。また、授業中に適宜プリントを配布する予定。
参考書	講義中に適宜指示する。

履修コード	209001
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	古田 知章

授業概要/ 到達目標（ねらい）	現代において我々は、様々な場面で西洋的なものに直面し、また、我々自身、知らず知らずのうちには西洋的な人間観・世界観に基づいて判断あるいは行動していることも多い。この我々の日常にも深く係わる西洋的なものは、古代ギリシア以来の伝統のもと多岐にわたる曲折を経て、近代ヨーロッパにおいて現れた人間観・世界観に強く影響を受けている。したがって、西洋的なものの理解のためにも、また、現代に生きる我々の自己理解のためにも、近代ヨーロッパの人間観・世界観がどのような伝統と時代意識のもとに形成され、いかなる形で現代社会へと流れ込んでいるのかを学ぶことは有意義であると考えられる。
--------------------	---

授業スケジュール	教科書を利用し、以下の内容を取り上げる。 【前期】 近代の人間観・世界観の源流 第1回：ガイダンス 第2～4回：哲学における基礎的な問題の整理 -人間と世界について問うこと- 第5～7回：古代ギリシアの思想（1） -哲学的探究の始まり- 第8～10回：古代ギリシアの思想（2） -哲学の基盤の成立- 第11～13回：キリスト教思想と中世の哲学 -思索の新たな展開- 第14～15回：中世から近世への連続と変動 -様々なルネサンス- 【後期】 近世・近代の人間観・世界観 第16回：前期のまとめ 第17～19回：ルネサンスから近世の思想-人間観・世界観の変革- 第20～22回：科学の発展と世界観の変化との関係 -法則的世界と人間- 第23～26回：《コギト（思惟する私）》としての人間存在 -思考の働きの能動性- 第27～30回：現代の存在論 -見えるものを支える見えない枠組み-
----------	---

準備学習	前回の授業ノートの復習と、教科書の当日に扱う内容に対応する部分を読んでおく。
履修上の留意点	
成績評価の方法	二回の定期試験（中間試験、年度末試験、各4割）と平常点（出席状況、夏期レポート、合計で2割）で評価する。
教科書／テキスト	『原典による哲学の歴史』（公論社）
参考書	講義の際にその都度紹介する。

履修コード	358901
科目名	日本語文化基礎
担当者名	萩原 義雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「東アジア漢文文化圏」の東端海上に位置する日本国は、独特な言語文化を生み出してきました。その素養を知る手がかりをこの講義を通じて理を深めていただき、海外の国際文化交流のうへで基礎となる素養を多くの方が育み、この日本文化の手触り・肌触りを実感できる講座となればと考えています。日本の書記文字文化は西欧の音楽文化に通じています。逆に西欧の文字文化は、日本の邦楽文化(仏教聲明・平曲・謡曲)と連動しているといった図式がよく取り沙汰される所以をこの時間で具現できればと思います。
授業スケジュール	01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続について担当責任者説明—しつらい— 02の講義内容 年中行事・お月見—日本語文化を学ぶ一般基礎資料の蒐集方法とその取り扱い— 03の講義内容 寺子屋に学ぶ—日本語文化を学ぶ字書・辞書・参考専門書の利用とその実際— 04の講義内容 「東アジア漢文文化圏」における現在の学術研究レベルと成果 その研究領域の一般活用と手続き (中国・韓国・北朝鮮・モンゴル・ベトナム・タイ・インドネシアなど) 05の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その1(中国と日本) 06の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その2(朝鮮半島と日本) 07の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その3(モンゴルと日本) 08の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その4(ベトナムと日本) 09の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その5(タイと日本) 10の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その6(インドネシアと日本) 11の講義内容 「西欧言語文化圏」と日本語文化(ドイツ・フランス・スイス・イタリアを中心) 12の講義内容 言語文化「西欧言語文化圏」その1(ギリシャ&トルコと日本) 13の講義内容 言語文化「西欧言語文化圏」その2(イタリアと日本) 14の講義内容 言語文化「西欧言語文化圏」その3(イスラエルと日本) 15の講義内容 日本庭園の文化—世界最古の庭園学書『作庭記』— 16の講義内容 期末課題リポートの提出
準備学習	日本語文化のキーワード…「しつらい」「年中行事」「往來物」「寺子屋」「世界地図」「風土」といったことばの重みを学んでおこう。
履修上の留意点	※情報機器利用の為、許容の人数制限を実施します。出席も、教場IT管理に依拠しています。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう!また、IDチェックを忘れたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。特に、4週連続して理由なき欠席された受講者については、履修名簿から自動的に抹消します。 ※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可とします。
成績評価の方法	期末にリポート課題を用意します。これを紙出し&データ記録(ネットへの添付資料)にして、最終締め切り日迄に提出します。 提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。 ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。 また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させていただきますのでご承知願います。
教科書/テキスト	随時、講義の前後にて報知します。
参考書	随時、講義の前後にて報知します。
その他	“YeStudy”による講義実習活動を実施! 情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。 (http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/)
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi

履修コード	358911
科目名	日本語文化基礎
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、近い将来、社会人になって企業などに就職して働くことを目指す大学生のために、仕事の場で必要とされるコミュニケーション能力と基本的な文書作成における日本語表現を、PCを道具としてわかりやすく学び、「ITC=情報コミュニケーション力」「文書作成力」「表現力」を身につけることを目的としている。
---------------------	--

授業スケジュール	I コミュニケーション 1 自己紹介 2 依頼・質問 3 敬語・電話応対 4 説明・説得 II 社内文書 5 ビジネス文書の形式・報告書 6 連絡書・確認書 7 議事録 8 企画書 9 稟議書・始末書 III 社外文書 10 案内状 11 回答書 12 依頼状 13 詫言状 14 督促状・抗議状 15 理解度確認
----------	--

準備学習	PC操作の基本はタッチタイピング(手元を見ないで打つこと)である。これはPCに最初に触れたときに適切な指導を受けていないと習得できない。本講義ではこれを完全マスターすることを全員に課し、成果に応じて加点するので、できるだけ早くからPC入力練習ソフトで練習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	PC利活用力向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので、常にYeStudyを見る習慣をつけてほしい。
---------	--

成績評価の方法	出席点(20%)、課題点(30%)、KT2000点(30%)、および理解度確認点(20%)の合計
---------	--

教科書/テキスト	『大学生のための社会人入門トレーニング』コミュニケーション編 三省堂 1,900円+税 ISBN978-4-385-36543-5C1081
----------	--

参考書	
-----	--

その他	タッチタイピング(手元を見ないで入力する方法)をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。この授業では、時折実施するタッチタイピングレベル測定結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする/しないは、大きな点差となって顕れる。
-----	---

履修コード	170901
科目名	日本語文化研究I
担当者名	萩原 義雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	音韻・文字・文法・語彙・敬語・文体・言語生活といった分野を常に掘えた形態で、古代から現代までの“ことばの歴史”を現代人の鳥瞰・虫瞰の眼で、しかと見据えていくことを目的としています。そのなかで、現存する紙面である日本語資料の実態についての保管現況の把握が第一義となります。これをどう時代区分し、ことばの特徴づけがなされてきているのかを精確に知りましょう。将来、日本語文化研究として、どのような重要性を有しているのか、どのように発展研究していくのかを受講者お一人おひとりに確実に認識していただきます。
---------------------	--

授業スケジュール	01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続き担当責任者説明 日本文化の未来と古代をつなぐ
	02の講義内容 五十音圖のはなしと音訓について 文字資料(漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字)から日本語学資料へ
	03の講義内容 「いろはうた」と「あめつちのうた」そして「たみにのうた」
	04の講義内容 『伊勢物語』第九段 「東下り」を読む
	05の講義内容 『野馬臺詩』をめぐる説話譚 —『古備大臣入唐絵巻』— PDF版
	06の講義内容 「落書」 PDF版
	07の講義内容 「手紙」失われた文字 PDF版
	08の講義内容 文字の修得と習学 PDF版 かなについて 貴族階級とことば教育 佛教界とことば教育
	09の講義内容 文字の運びと流れ PDF版 カタカナ文献資料について — 『古今和歌集』(旧伏見宮家藏)一〇〇六年寫 — 漢字・カタカナの混淆文を読む その1 PDF版
	10の講義内容 漢字・カタカナの混淆文を読む その1 PDF版
	11の講義内容 漢字・カタカナの混淆文を読む その2 PDF版 — 鈴鹿本『今昔物語集』から古辞書利用へ —
	12の講義内容 連綿連続にみる日本語の抑揚階調表現 PDF版 — 徳川本・五島本『源氏物語繪巻』のかな書き「ひ」文字 — 夏季課題提出(後期講義に向けてその方向性と準備を説明)
	13の講義内容 『作庭記』について PDF版
	14の講義内容 梅沢本『古本説話集』にみる置字踊り字「／＼」 PDF版
	15の講義内容 延慶本『平家物語』について PDF版
	16の講義内容 鴨長明自筆『方丈記』について PDF版
	17の講義内容 細川三斎忠興筆『徒然草』について PDF版
	18の講義内容 『蒙古襲来絵詞』について PDF版
	19の講義内容 『太平記』について PDF版
	20の講義内容 中世藝術論〔謡曲・能・狂言〕の言語文化についてPDF版
	21の講義内容 天草版(キリンタン)資料 PDF版
	22の講義内容 往来物『庭訓往来』について PDF版
	23の講義内容 松尾芭蕉『奥の細道』PDF版
	24の講義内容 『仮名手本忠臣蔵』 PDF版
	25の講義内容 十返舎一九編『東海道中膝栗毛』 PDF版
	26の講義内容 樋口一葉『たけくらべ』—雑誌「文學界」と「文藝倶楽部」所載直筆原稿— 冬季課題の提出

準備学習	手書きの文章に目を向けておこう。活字文字の文章とは異なった自筆原稿の有効性をあなた自身で確かめておきたい。「感じる漢字」があなたの言語文化の歴史意識を引き出していく。
------	---

履修上の留意点	※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう！また、IDチェックを忘れたりした場合は、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。特に、4週連続して理由なき欠席された受講者については、履修名簿から自動的抹消します。 ※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可とします。
---------	---

成績評価の方法	前期と後期それぞれにレポート課題を用意します。これを紙出し&FD(ネットへの添付資料)にして、最終締め切り日に提出します。 提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。 ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。 また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させて行きますのでご承知願います。
---------	---

教科書/テキスト	インターネット公開型テキスト「国語史」 [URL http://www.komazawa.-u.ac.jp/~hagi/]
----------	--

参考書	今野真二『日本語の歴史』文献から読み解く【鳥瞰虫瞰】(笠間書院)3,800円(税別) ISBN4-305-70307-6
-----	--

その他	“YeStudy”による講義実習活動を実施！ 情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。 情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。
-----	--

関連リンク	http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
履修コード	215721
科目名	日本語文化研究I
担当者名	湯浅 陽子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Wordは文書を作成するためのアプリケーションソフトであることは周知のとおりである。高校までの情報教育の中で、ある程度のことは経験してきていると思う。「使えますか」と問われれば「ええ…まあ」と誰でもが答えるだろう。しかしながら、Wordを「フルに活用していますか」という問いかけには自信を持って「はい」とは答えられないと思う。今の時代、「ええ…まあ」では済まされないほど、Wordの存在は大きく、上手に使いこなせるかどうかで個人の仕事の進み方や活動全体の生産性が大きく変わってくるほどである。 この授業のねらいは、Wordをある程度使うことができている人を対象に、ビジネス文書やビジュアルな文書、更には論文形式の文書など、さまざまな文書を作成するための機能をマスターすることにより、情報コミュニケーション力(書く力)を更に高めることにある。
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション(授業の進め方、KT2000) 第2～3回 文書の作成と管理 第4～5回 一般的なビジネス文書の作成 第6～7回 記録や報告のためのシンプルな文書の作成 第8～9回 複数の宛先に送付する文書の作成 第10～11回 表で項目や数値を整理した文書の作成 第12～13回 イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成 第14～15回 前期理解度の確認、KT2000 第16～17回 図表やグラフで情報を伝える文書の作成 第18～19回 既存のデータを利用した文書の作成 第20～21回 読みやすいレイアウトの長文の作成 第22～23回 効率のよい長文の作成 第24～25回 長文の編集と加工 第26～27回 共同作業と文書の保護 第28～29回 後期理解度の確認、KT2000 第30回 まとめ
準備学習	たくさん文書作成をし、課題を完成させての提出物が多いので、高いレベルのタッチタイピング(キーボードを見ないで入力する)技能が求められる。第1回目の授業で実施するレベル測定テスト(KT2000)対策として、総合情報センター自習室の一部のPCにインストールされている「Typequick Professional」などでタッチタイピングの猛練習をしておくことよ。
履修上の留意点	受講可能な人数に限りがあるため、希望する全員を受け入れることができない場合がある。その場合には第1回目の授業時に行うKT2000テストのスコアが1000文字以上の中から高い順に、受講許可者が選出され、KOMAnet Gmailに「履修登録可能」メールが届けられる。受講許可を得た者にはその証として第2回目の授業時にYeStudy「登録キー」が与えられる。教務部の履修登録はこの正式ルートを経た人のみ許可されるものとする。
成績評価の方法	授業参加点(10%)、KT2000点(30%)、提出された課題点(30%)、前後期理解度確認平均点(30%)の合計
教科書/テキスト	『情報活用 ワープロ Word-2007 対応』 日経BPソフトプレス 1,200円+税 ISBN978-4-89100-786-7
参考書	
その他	PC利活用力の向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、全てYeStudy上で重要なやり取りを行うので常時見ること。 欠席する場合は、事前に担当者へメール連絡すること : yuasa@komazawa-u.ac.jp

履修コード	360601
科目名	日本語文化研究II
担当者名	萩原 義雄

授業概要/到達目標 (ねらい)
 日本語文化研究における国語資料としての位置づけを皆さんと一緒に精確に探っていく眼を養うことをめざします。本年第4次「グローバル・ジャパン・プログラム」に順って、現代日本漫画の巨匠と云われる手塚治虫全作品集を基本に諸注釈を試みます。「どのような観点からの注釈が必要なのか？」をテーマにこの講義及びフォーラムを進めていきます。

— 現代篇その4 — の概要
 3年前、手塚治虫生誕 80 周年に伴う多くの企画運営の催しが実施されました。これに伴い、手塚の全集を含めての制作アニメーションや漫画作品が世に広く公開されました。このなかで、江戸博物館で催された「手塚治虫作品展示会」、2011年の上野国立博物館「ブツダ展」での自筆原稿などは目を見張るものがありました。
 今回は、全集には未収録であった初期手塚治虫作品について考察をしていくことを第一に試みます。手塚治虫作品に興味有る方々は、私と一緒に取り組んでみようではありませんか。世界が注目する、上記の手塚治虫という日本が生んだ日本語文化の巨匠とその作品を焦点に据えながら、何がその魅力を支えているのか？人々が何をこの先に期待しているのか？「言語注釈学」という観点からこれらを見ていきたいと思います。

授業スケジュール	01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続について担当責任者説明 古典作品資料に於ける「古注釈」研究の領域と現代漫画の接度【PDF版】
	02の講義内容 『冒険狂時代』手塚治虫その人と作品集【PDF版】 手塚治虫の作品—『透明人間』—【PDF版】
	03の講義内容 手塚治虫の作品—『ビビちゃん』—【PDF版】
	04の講義内容 手塚治虫の作品—『ブツダ』—その1 導入部【PDF版】
	05の講義内容 手塚治虫の作品—『ブツダ』—その2 展開部【PDF版】
	06の講義内容 手塚治虫の作品—『銀河少年』—【PDF版】
	07の講義内容 手塚治虫の作品—『ワンダーくん』—【PDF版】
	08の講義内容 手塚治虫の作品—『ケン1探偵長』—【PDF版】 『ケン1探偵長』のこぼれ語彙分析—エクセル語彙表作成—
	09の講義内容 手塚治虫の作品—『風之進がんばる』—
	10の講義内容 手塚治虫の作品—『怪傑シラノ』—【PDF版】
	11の講義内容 手塚治虫の作品—『サボテン君』—【PDF版】
	12の講義内容 手塚治虫の作品—『サボテン！銃をとれ』別冊—【PDF版】
	13の講義内容 手塚治虫の作品—『旋風Z・ハリケーンZ』—【PDF版】
	14の講義内容 手塚治虫の作品—『ナスビ女王』—【PDF版】
	15の講義内容 手塚治虫の作品—『鉄腕アトム』電光人間の巻—【PDF版】
	16の講義内容 手塚治虫の作品—『鉄腕アトム』アトム赤道を行くの巻—【PDF版】
	17の講義内容 手塚治虫の作品—『少年』版「アトム」について—
	18の講義内容 手塚治虫の作品—その9『ネオ・ファウスト』—【PDF版】
	19の講義内容 手塚治虫作品集—その10『地球を呑む』1・2—【SWF版】
	20の講義内容 手塚治虫の作品—『リボンの騎士』—【PDF版】
	21の講義内容 手塚治虫作品集—『魔法屋敷』—【PDF版】
	22の講義内容 手塚治虫作品集—『罪と罰』—【PDF版】
	23の講義内容 手塚治虫作品集—『陽だまりの樹』—【PDF版】
	24の講義内容 手塚治虫作品集—『ブラック・ジャック』—【PDF版】
	25の講義内容 手塚治虫作品集—『MW』—【PDF版】
	26の講義内容 手塚治虫作品集—『火の鳥』—【PDF版】
	27の講義内容 手塚治虫作品集—『極めつき—〇〇〇ページ』—【PDF版】
	28の講義内容 手塚治虫作品集—『ザ・クレーター』—【PDF版】
	29の講義内容 手塚治虫作品集—『メトロポリス』—【PDF版】
	30の講義内容 資料公開とその注釈語の分析結果報告

準備学習
 「講義の事前事後の取り組み」→「駒澤大学 e-Education : YeStudy」をご利用願います。ここに、関連する事柄を学習する場を用意しました。取り組み取り組まないと貴方自身が決めることです。決めたらにはとことんやり抜く強い意志を持ちましょう。覚えるのではなく身につけていくことこそ言語文化修得の王道です。この掲載資料に関する質疑応答は確実に行っていきます。是非ご参加ください。そして、参加される方は必ず受信送信の確実なご自分の携帯メールを登録しておきましょう。夏休み・春休み学校の登録アドレスだけでは見落とししたり、早急な取り組みがしにくいことが現実としてあります。

履修上の留意点
 ※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう！また、IDチェックを忘れたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。
 ※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可とします。

成績評価の方法
 月毎に注釈書掲載のこぼれ語から説明語彙を選択し、上記項目を常にふまえた上で、報告書を提出し発表してもらいます。個人が年間分析する上記報告書における私からの質問を受けて、各自それぞれ提出してもらいます。解答の数を最低20としてこの一問一答ずつの提出物を高く評価していきます。
 提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。
 ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。
 また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させて行きますのでご承知願います。

ます。

教科書／テキスト	URL http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi を使用する。
参考書	手塚治虫全作品集
その他	“YeStudy”による講義実習活動を実施！ 情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。 情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。
関連リンク	http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	360701
科目名	日本語文化研究II
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Excelは、主に表計算を行うためのアプリケーションソフトである。Wordと比べExcelはあまり使う場面无く、使い方を知らないまま社会に出ることが多い。しかしながら、ビジネス文書の中にはExcelの特性を生かして作成されているものが意外に多いことに気づくだろう。学生のうちにもっとExcelを使い慣れておくことが肝要である。 この授業のねらいは、Excel初心者を対象に、Excelを使うことによって何ができるのかを系統立てて学び、情報コミュニケーション力を更に高めることにある。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (授業の進め方、KT2000) 第2～3回 表作成の基本操作 第4～5回 表を見やすく使いやすくする編集操作 第6～7回 数式・関数を活用した集計表の作成 第8～9回 表示形式や関数を活用した表の作成 第10～11回 定型の表を作成する操作 第12～13回 グラフの基本 第14～15回 前期理解度の確認、KT2000 第16～17回 目的に応じたグラフの作成と編集 第18～19回 データベース機能の利用 第20～21回 データの抽出 第22～23回 条件を指定した集計・分析 第24～25回 ワークシート間の集計 第26～30回 集計作業の自動化 第28～29回 後期理解度の確認、KT2000 第30回 まとめ
----------	---

準備学習	たくさんの文書作成をし、課題を完成させての提出物が多いので、高いレベルのタッチタイピング(キーボードを見ないで入力する)技能が求められる。第1回目の授業で実施するレベル測定テスト(KT2000)対策として、総合情報センター自習室の一部のPCにインストールされている「Typequick Professional」などでタッチタイピングの猛練習をしておくとい。
------	---

履修上の留意点	教務部のネット履修登録は第1回目の授業後に許可された人のみ可能である。したがって、予め登録してあっても許可が得られなければ、所定の期間内に「取消」が必要となる。
---------	--

成績評価の方法	授業参加点(10%)、KT2000点(30%)、提出された課題点(30%)および前後期の理解度確認平均点(30%)の合計
---------	--

教科書／テキスト	『情報利活用 表計算 Excel-2007対応』 日経BPソフトプレス 1,200円＋税 ISBN978-4-89100-781-2
----------	--

参考書

その他	PC利活用力の向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので常にYeStudyを見ること。 授業を欠席する場合は、事前に担当者へメール連絡すること： yuasa@komazawa-u.ac.jp
-----	--

履修コード	358401
科目名	日本文化基礎
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宮澤賢治の童話を精読する。賢治作品はこれまで、そこに溢れるイメージの絢爛さが、言葉だけの世界におけるデザインの卓抜さということに囲い込まれ、消費されるという不幸にしばしばみまわられてきた経緯があり、それゆえに賢治を遊民と錯視する見解も生まれてきた。しかし、その詩においても童話においても、注意深くそれらを読むならば、賢治の比類なき想像力の飛翔によって夢見られたイメージや虚構は、その飛翔に相当した深い喪失感と内省を生み出していることに気づくはずである。そこに表現者としての賢治の修羅があるのであり、ムードに流された生半可な鑑賞などはねつけてくるのである。
---------------------	---

授業スケジュール	上記の賢治作品の実相を、生前発表作品である『シグナルとシグナレス』、『水河鼠の毛皮』およびその生前に唯一出版された童話集『注文の多い料理店』所収の作品などにみていく予定。 (1~3) 宮澤賢治の軌跡 (4~6) 『シグナルとシグナレス』の分析と読解 (7~9) 『水河鼠の毛皮』の分析と読解 (10~12) 『どんぐりと山猫』の分析と読解 (13~15) 『水仙月の四日』の分析と読解
----------	---

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席のこと。
------	--

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きいなる迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	宮澤賢治『宮澤賢治全集第8巻』(ちくま文庫)1,000円 その他、適宜プリントも配布する。
----------	--

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	358101
科目名	日本文化基礎
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本文化を伝統的な日本人の美的精神・美意識というものから考察する。即ち、日本人はかつてどのようなことに感動し、またその感動をどのように表現してきたかを考える。各時代の古典文学の作品に表された美的感動表現を概観して、その歴史的展開を考察する。 (到達目標) 美的感動表現やその理念は、時代や社会の環境に応じて隆替の相を示しているが、決して過去のものとしてもはや消滅したものではない。日本文化の諸相に対する関心を深める機会となれば幸いである。
---------------------	---

授業スケジュール	1、ガイダンス・日本文学のジャンル発生 2~4、古代前期の文学とその美意識 5~8、古代後期の文学とその美意識 9~11、中世の文学とその美意識 12~15、近世の文学とその美意識。
----------	---

準備学習	半期の授業の限られた時間の中で古典文学に見る美的精神について網羅的に概観することは難しいので、美意識成立の背景となるそれぞれの時代の歴史を事前に確認していただければ幸いである。
------	--

履修上の留意点	日本文学における美的精神を理解する上では、それぞれの時代背景の理解が大切であり、また古典文学史の理解が必要です。高校で使用した文学史のテキストなどを目にしてほしい。
---------	--

成績評価の方法	最終日に提出してもらってレポート評価 (80%) に平常点 (20%) を加えて評価する。
---------	---

教科書/テキスト	必要に応じて適宜プリントを配布する。
----------	--------------------

参考書	授業内で紹介する。
-----	-----------

履修コード	358001
科目名	日本文化基礎
担当者名	鈴木 裕子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) テーマ：日本の神話・伝説を読む 明治維新以降に為された所謂「神話教育」によって、日本の神話が歪んだ「民族意識」の形成に利用されたことを理解した上で、「物語」として読む楽しさを味わえるようにしたい。講義では古文(原文)を読むが、現代語訳を用意する。 (到達目標) この講義の到達目標は、日本の神話・伝説についての基礎知識を持つこと。神話・伝説を「物語」として読む楽しさを味わいつつ、批判的精神をもって読み解くこと。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~2) ガイダンス、神話・伝説とは何か (3~8) 『古事記』の神話……神々の誕生、出雲神話、天つ神の御子たち (9~12) 『古事記』神話の世界構造 (13~14) 『風土記』の伝説 (15) 総括
----------	--

準備学習	予め配布するプリントに目を通しておくといよ。
------	------------------------

履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、毎回コメントの提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
---------	--

成績評価の方法	期末に課するレポート(日時・論題等は授業時に提示)60%、平常点(出席状況と毎回のコメントの内容)40%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する(平常点を0点とすることもある)。
---------	--

教科書/テキスト	プリント教材。
----------	---------

参考書	授業中に必要に応じて指示する。
-----	-----------------

履修コード	357901
科目名	日本文化基礎
担当者名	蘭部 幹生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	真の国際人とは自国の文化をしっかりと認識している人物である。これからの国際社会を生き抜いていくためには、自国についての認識と意見を持ち、それを表現できる必要がある。本講座は、そうした文化の認識に関する導入的講座である。したがって、単に知識を得るのではなく、文化的事象をどのように自分の中で体系化して認識し、そこから何を考えるかを問題にしたい。日本文化の諸相を理解して、自分なりの考えを持てたり、自分の言葉で説明できたりすることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	1ガイダンス。 2婚姻史。 3婉曲表現の文化。 4自己認識の文化。 5食文化。 6服飾文化。 7住まいの文化。 8宗教文化。 9スポーツ文化。 10原宿文化。 11ゲーム文化。 12自然との共生の文化。 13教場テスト。 14伝承文芸。 15まとめ。
----------	---

準備学習	文化的事象は日常生活の中にあふれている。それらを意識して見つめなおすことによって、文化に対する理解は著しく向上する。書物等によるのではなく、毎時間の意見文に反映できそうな事象を自分の目で探そうとする姿勢をもち続けることを期待する。
------	---

履修上の留意点	毎時間の最後に、その日の講義内容に関する意見文の提出を求めするので、必ず原稿用紙を持参すること。
---------	--

成績評価の方法	出席点30点、意見文30点、教場テスト40点の割合で評価する(試験は、ノート・参考書等の持込可)。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達(該当者・テーマ・提出期限等)を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
---------	--

教科書/テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
----------	------------------

参考書	必要に応じてそのつど紹介する。
-----	-----------------

履修コード	358201
科目名	日本文化基礎
担当者名	藺部 幹生
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>真の国際人とは自国の文化をしっかりと認識している人物である。これからの国際社会を生き抜いていくためには、自国についての認識と意見を持ち、それを表現できる必要がある。本講座は、そうした文化の認識に関する導入的講座である。したがって、単に知識を得るのではなく、文化的事象をどのように自分の中で体系化して認識し、そこから何を考えるかを問題にしたい。日本文化の諸相を理解して、自分なりの考えを持てたり、自分の言葉で説明できたりすることを目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>1ガイダンス。 2婚姻史。 3婉曲表現の文化。 4自己認識の文化。 5食文化。 6服飾文化。 7住まいの文化。 8宗教文化。 9スポーツ文化。 10原宿文化。 11ゲーム文化。 12自然との共生の文化。 13教場テスト。 14伝承文芸。 15まとめ。</p>
準備学習	<p>文化的事象は日常生活の中にあふれている。それらを意識して見つめなおすことによって、文化に対する理解は著しく向上する。書物等によるのではなく、毎時間の意見文に反映できそうな事象を自分の目で探そうとする姿勢を持ち続けることを期待する。</p>
履修上の留意点	<p>毎時間の最後に、その日の講義内容に関する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。</p>
成績評価の方法	<p>出席点30点、意見文30点、教場テスト40点の割合で評価する（試験は、ノート・参考書等の持込可）。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達（該当者・テーマ・提出期限等）を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。</p>
教科書／テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考書	<p>必要があればそのつど紹介する。</p>

履修コード	358501
科目名	日本文化基礎
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 講義タイトルは「流行歌の近代史～J-POPへの道程」。明治維新から現代までの流行歌を通して、①世相風俗とメディア史を中心とした日本近現代史、②伝統音楽・西洋音楽・ジャズの3要素の交錯と融合という観点から見た近現代音楽史、③西洋音楽に日本語をのせる歌詞の問題、の3つを並行して考える。</p> <p>(到達目標) 歌は本来、それぞれの言語に固有な音感とリズムに基づいて生まれる。しかし明治の唱歌教育以降、日本人は、西洋の音楽に西洋の言語とは異質の響きを持つ日本語をあてはめて歌ってきた。伝統音楽・西洋音楽・ジャズのそれぞれについて、楽理をきちんと把握した上で、日本人にとつての歌が、どのような経緯で現在のようになつたのか分析できるようになることを目標とする。またよく知られた英語の歌に、日本語の歌詞をつける課題を出し、最後に定期試験で提出していただく。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本の楽理 3. 日本の伝統音楽 4. 西洋音楽の受容 5. 唱歌と童謡 6. 流行歌の誕生 7. ジャズの登場 8. 日本語で歌うということ 9. 戦後の流行歌 10. ビートルズとその時代 11. 歌謡曲の行方 12. フォークソングからニューミュージックへ 13. ROCKする歌詞に向かって 14. J-POPへの道程 15. まとめ
----------	---

準備学習	音楽に関しては、中学校の音楽の授業で学ぶ程度の基礎知識と楽譜の理解力が必要となる。また日本の近代史についても、高校で履修する程度の知識はあるものとして話を進めるので、自信がない場合は、高校の教科書等で復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	授業時間の約半分は、数名ずつのグループを編成し、各自の音楽体験に基づく感じ方の違いなどを比較する意見交換をした上で、自らの考えを深める「ワークショップ形式」で進める。教場で講義を聴いているだけの授業ではない。自分の考えを述べ、他の意見と比較し、グループでの作業に積極的に参加する姿勢がなければ履修は難しい。また2/3以上の出席がなければ単位を取得できない。遅刻の場合は出席と認めない。
---------	--

成績評価の方法	定期試験期間中に筆記試験を行う。定期試験の点数を60%、授業での提出物による評価を40%として採点する。
---------	--

教科書／テキスト	指定しない。授業でプリントを配布し、配布したプリントは定期試験に持ち込み可とする。
----------	---

参考書	佐藤良明『J-pop進化論』平凡社新書(税別690円) ISBN 978-4582850086。ただし古書でなければ入手が難しいので、必要な部分はプリントして配布する。
-----	--

履修コード	358301
科目名	日本文化基礎
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義は、口頭発表のためのプレゼンテーション資料の作成を通じてPC表現力を養い、受講生各自がテーマで扱う日本文化に関する基礎的な情報を共有し、共に今後活かすことを目的としている。</p> <p>具体的には、授業は次のような展開になる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 視覚情報 (ビジュアル) プレゼンテーションの習得を図るため、PowerPointの効果的なプレゼン資料の作成技法を学ぶ。 2) プレゼンのテーマを「私の日本文化」とし、Webや図書館等を利用して情報収集を行う。 3) 学んだPowerPointの技法を取り入れ、日本文化に関するプレゼン資料としてまとめたものを使用して口頭発表をする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1~2) タッチタイピングの重要性 (TQ・KT2000について) 3~4) プレゼンテーションの企画・設計、「日本文化」に関する情報探索/収集開始 5~6) プレゼンテーション資料作成のためのノウハウ実習 センスアップするレイアウトデザイン/視覚に訴えるチャート化 訴求力を上げるカラー化/数値をアピールする表・グラフ活用 イメージを伝えるイラスト・写真活用 7~8) プレゼンテーション準備・実施に関する注意事項 発表で魅せるアニメーション/自信を高める万全な準備 メッセージが伝わる発表スキル/信頼を得る質疑応答 9~10) プレゼン資料「日本の文化について」完成 11~13) プレゼン発表会 14~15) 理解度確認、まとめ
----------	--

準備学習	タッチタイピング【キーボードを見ないで入力】(目標1500字/10分) 練習をしておくこと。
------	--

履修上の留意点	<p>当科目は、もし自分が外国に行ってホームステイ先で「日本文化」について説明するとしたら何を紹介するか…というシチュエーションを意識して展開する授業である。受講希望者は、早い時期からNHKの語学番組「トラッドジャパン」や「にっぽんの芸能」「COOL JAPAN 発掘! かつこいいニッポン」、テレビ大阪の「和風総本家」などTVで取り上げている「日本文化」に関する番組や書籍などを通して、モチベーションを高めておいてほしい。</p>
---------	--

成績評価の方法	出席点 (10%)、KT2000点 (30%)、課題点 (30%)、発表点 (30%) の合計
---------	---

教科書/テキスト	『情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint-2007対応』日経BPソフトプレス 1,200円+税 ISBN978-4-89100-787-4
----------	--

参考書	
-----	--

その他	<p>PC利活用力の向上を図るため、YeStudyを利用して授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので常にYeStudyを見ること。</p> <p>また、タッチタイピング(手元を見ないで入力する方法)をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。この授業では、タッチタイピングレベル測定結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする/しないは、大きな点差となって顕れる。</p>
-----	---

履修コード	358601
科目名	日本文化基礎
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義は、口頭発表のためのプレゼンテーション資料の作成を通じてPC表現力を養い、受講生各自がテーマで扱う日本文化に関する基礎的な情報を共有し、共に今後活かすことを目的としている。</p> <p>具体的には、授業は次のような展開になる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 視覚情報 (ビジュアル) プレゼンテーションの習得を図るため、PowerPointの効果的なプレゼン資料の作成技法を学ぶ。 2) プレゼンのテーマを「私の日本文化」としWebや図書館等を利用して情報収集を行う。 3) 学んだPowerPointの技法を取り入れ、日本文化に関するプレゼン資料としてまとめたものを使用して口頭発表をする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1~2) タッチタイピングの重要性 (TQ・KT2000について) 3~4) プレゼンテーションの企画・設計、「日本文化」に関する情報探索/収集開始 5~6) プレゼンテーション資料作成のためのノウハウ実習 センスアップするレイアウトデザイン/視覚に訴えるチャート化 訴求力を上げるカラー化/数値をアピールする表・グラフ活用 イメージを伝えるイラスト・写真活用 7~8) プレゼンテーション準備・実施に関する注意事項 発表で魅せるアニメーション/自信を高める万全な準備 メッセージが伝わる発表スキル/信頼を得る質疑応答 9~10) プレゼン資料「私の日本の文化」完成 11~13) プレゼン発表会 14~15) 到達度確認、まとめ
----------	---

準備学習	タッチタイピング【キーボードを見ないで入力】(目標1200字/10分) 練習をしておくこと。
履修上の留意点	<p>当科目は、もし自分が外国に行ってホームステイ先で「日本文化」について説明するとしたら何を紹介するか…というシチュエーションを意識して展開する授業である。受講希望者は、早い時期からNHKの語学番組「トラッドジャパン」や「にっぽんの芸能」「COOL JAPAN 発掘! かつこいいにっぽん」、テレビ大阪の「和風総本家」などTVで取り上げている「日本文化」に関する番組や書籍などを通して、モチベーションを高めておいてほしい。</p>

成績評価の方法	出席点 (10%)、KT2000点 (30%)、課題点 (30%)、発表点 (30%) の合計
教科書/テキスト	『情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint2007対応』 日経BPソフトプレス 1,200円+税 ISBN978-4-89100-787-4

参考書	
その他	

PC利活用の向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので常にYeStudyを見ること。

また、タッチタイピング(手元を見ないで入力する方法)をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。

この授業では、タッチタイピングレベル測定結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする/しないは、大きな点差となって顕れる。

履修コード	169701
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 平安末期から鎌倉時代にかけて生きた一女性の和歌集をもとに、当時の女性の人生観である「契り（＝前世からの約束事）」という認識を考察してもらおう。平家全盛の時代、平清盛の娘建礼門院徳子に仕えた「右京大夫」と呼ばれた女房の個人歌集を通して、作品中に語られた二人の男性との恋愛交渉を中心に、作品を講読する。</p> <p>（到達目標） 平安時代の一夫多妻の不安定な女性の生き方を通して、「契り」という宿命観を考察してもらおう。一般に平安期の女性の「契り」の認識は一種の諦観たる宿世観（前世からの因縁）と受け止めることが出来るが、作者の場合単に宿世観にとどまらない、自らの意志としての選択された「契り」の認識が示されているといえよう。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1～2、女性の手になる自照文学の流れを概観し、女性の自己観照のあり方を考察 3～5、作者の経歴や周辺人物の紹介 6～15、高倉天皇中宮徳子の宮廷での女房生活や、平資盛との出会いと交渉 16～20、似絵（肖像画）の名手で歌人の藤原隆信との稔らぬ恋 21～25、資盛との愛の再燃、平家一門都落ち・西海流浪の果ての壇の浦で入水死 26～28、大原に徳子を訪問、後に後鳥羽天皇の宮廷に再出仕する後半生 29～30、「契り」の認識</p>
----------	---

準備学習	通年で作品の内容を紹介するために古文読解をしてゆくので、授業の事前・事後いずれかにおいて、注釈書により口語訳を目にするなど作品内容の確認をしてほしい。
------	---

履修上の留意点	生涯結婚することなく平資盛の菩提を弔う生活を選択した作者の、「契り（＝前世からの約束事）」という宿命に殉じて行く生き方を通して、この時代の女性の人生観を考察してほしい。なお、日本古典文学の作品を読解する授業であるので、古文の授業に関心のある諸君の積極的な受講を期待する。
---------	---

成績評価の方法	授業の最終日に提出してもらったレポートの評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象にする。
---------	---

教科書／テキスト	本位田重美編『校注建礼門院右京大夫集』（武蔵野書院）735円
----------	--------------------------------

参考書	授業時に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	171101
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 平安末期から鎌倉時代にかけて生きた一女性の和歌集をもとに、当時の女性の人生観である「契り（＝前世からの約束事）」という認識を考察してもらおう。平家全盛の時代、平清盛の娘建礼門院徳子に仕えた「右京大夫」と呼ばれた女房の個人歌集を通して、作品中に語られた二人の男性との恋愛交渉を中心に、作品を講読する。</p> <p>（到達目標） 平安時代の一夫多妻の不安定な女性の生き方を通して、「契り」という宿命観を考察してもらおう。一般に平安期の女性の「契り」の認識は一種の諦観たる宿世観（前世からの因縁）と受け止めることが出来るが、作者の場合単に宿世観にとどまらない、自らの意志としての選択された「契り」の認識が示されているといえよう。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1～2、女性の手になる自照文学の流れを概観し、女性の自己観照のあり方を考察 3～5、作者の経歴や周辺人物の紹介 6～15、高倉天皇中宮徳子の宮廷での女房生活や、平資盛との出会いと交渉 16～20、似絵（肖像画）の名手で歌人の藤原隆信との稔らぬ恋 21～25、資盛との愛の再燃、平家一門都落ち・西海流浪の果ての壇の浦で入水死 26～28、大原に徳子を訪問、後に後鳥羽天皇の宮廷に再出仕する後半生 29～30、「契り」の認識</p>
----------	---

準備学習	通年で作品の内容を紹介するために古文読解をしてゆくので、授業の事前・事後いずれかにおいて、注釈書により口語訳を目にするなど作品内容の確認をしてほしい。
------	---

履修上の留意点	生涯結婚することなく平資盛の菩提を弔う生活を選択した作者の、「契り（＝前世からの約束事）」という宿命に殉じて行く生き方を通して、この時代の女性の人生観を考察してほしい。なお、日本古典文学の作品を読解する授業であるので、古文の授業に関心のある諸君の積極的な受講を期待する。
---------	---

成績評価の方法	授業の最終日に提出してもらったレポートの評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象にする。
---------	---

教科書／テキスト	本位田重美編『校注建礼門院右京大夫集』（武蔵野書院）735円
----------	--------------------------------

参考書	授業時に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	171201
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	鈴木 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) テーマ：歌物語を楽しむ 代表的な歌物語である『伊勢物語』と『大和物語』を読む。『伊勢物語絵巻』など絵画資料についても触れ、古典作品がどのように享受されてきたかを理解する。 (到達目標) この講義の到達目標は、日本の歌物語の本質について理解すること。代表的な古典文学に触れて、日本文化の伝統と創造について理解を深めること。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (『伊勢物語』について) (2~3) 「一代記」の始まり・伊勢初段 (4~6) 伊勢2、3、76段と大和161段 (7~11) 伊勢4、5段、123段と大和157、158段、伊勢23段と大和149段 (12~14) 伊勢6段・12段と大和155段 (15) 前期総括 (16~19) 伊勢24段と大和148段、伊勢60、62段 (20~21) 伊勢63段と大和156段 (22~24) 伊勢40段と大和64段 (25~27) 伊勢65段、69段と源氏物語 (28~29) 業平の終焉・伊勢124、125段と大和165段 (30) 総括
準備学習	授業では古文(原文)を読むが、予習用に現代語訳等のプリントを用意するので、予め目を通しておくこと。
履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、毎回コメントの提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
成績評価の方法	前期末および後期末に課するレポート(論題等は授業時に提示)80%、平常点(出席状況と毎回のコメントの内容)20%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する(平常点を0点とすることもある)。
教科書/テキスト	徳原茂実・青木賜鶴子編『王朝歌物語選』(和泉書院) ISBN 4-87088-588-3 C3095、その他プリント教材。
参考書	授業中に必要に応じて指示する。

履修コード	172001
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	蘭部 幹生
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	伝承文芸は上代から近世まで、あらゆるジャンルの文芸と関わって、大きな意味を持っていた。その伝承文芸を代表する説話文学のなかから、特に有名な作品の一つである『宇治拾遺物語』をとりあげる。説話集は、伝承された話を編纂したものであるから、同じ話や類似した話が、他のさまざまな作品にも載せられているので、そうした作品も合わせ読むことになる。『宇治拾遺物語』は長く編者未詳の作品として扱われてきたが、その謎を解き明かしてみたい。合わせて、説話の本質を考え、また、『宇治拾遺物語』の秘められた特質も浮き彫りにしてみたい。それらの考察を通して、日本文化の一端を掘り下げて理解することを目標とする。
授業スケジュール	1 ガイダンス。 2 説話とは。 3・4 説話文学史。 5 序文講読。 6~15 宇治拾遺物語の特徴と問題。 16~23 編者論。 24~28 作品論。 29 教場テスト。 30 まとめ。
準備学習	前期は予告された説話をあらかじめ読んでから授業に臨むようにすると理解しやすい。後期の内容は毎週の関連が深くなるので、前週までの内容の復習をしっかりとしたうえで授業に臨むようにすること。
履修上の留意点	毎時間の最後に、その時間の講義内容に対する意見文を書いて提出するので、必ず原稿用紙を持参すること。
成績評価の方法	毎時間提出する意見文で50点分を評価し、授業時間内に50点満点の教場テストを行なう(教場テストには、ノート・テキスト・辞書・参考書など、何でも持ち込み参照可)。また、最後の授業時間内に、追・再試験に相当するレポートについての連絡を行なうので、必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
教科書/テキスト	中島悦次校注『宇治拾遺物語』角川文庫。(ただし、宇治拾遺物語の全文が載っているものであれば、これ以外でも可)
参考書	『駒澤国文』26号。その他は必要に応じてそのつど紹介する。

履修コード	170201
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代文学の作家と映画の関わりは、その作家及び作品の方向性を決定してしまうほど深いケースが多くなっていると言えるだろう。その関わり方は、大きく分けて二種類あると思われる。一つは、作家が観た映画に触発された、あるいは影響を受けた場合であり、もう一つは作家が実際に監督として映画を作った、もしくは脚本などを担当して映画作りに参加した場合である。これまで、映画と文学というテーマが掲げられると、前者の関わりから語られることが多かったが、ここでは具体的に後者の場合を安部公房について取り上げ、どのように関わっているか考えてみたい。また、前者についても、ネオリアリズム、シュールレアリズムなどの視点から取り上げる。
---------------------	---

授業スケジュール	代表作『砂の女』など昭和30年代から40年代にかけて先駆的に自作の映画化に数多く関わった安部公房について順次みていく予定である。 (1~3) 安部公房・作家活動の軌跡 (4~6) 安部公房の映画製作について (7~9) ネオリアリズムとの関わり (10~12) シュールレアリズムとの関わり (13~15) 映画『おとし穴』について (16~18) 映画『砂の女』について (19~21) 映画『他人の顔』について (22~24) SF的方法と小説『第四間水期』について (25~26) SFの歴史 (27~30) SF文学と映画の比較
----------	---

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席のこと。
------	--

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きい迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	安部公房『他人の顔』(新潮文庫) 476円 その他、適宜プリントを配布する。
----------	---

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	175501
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代文学の作家と映画の関わりは、その作家及び作品の方向性を決定してしまうほど深いケースが多くなっていると言えるだろう。その関わり方は、大きく分けて二種類あると思われる。一つは、作家が観た映画に触発された、あるいは影響を受けた場合であり、もう一つは作家が実際に監督として映画を作った、もしくは脚本などを担当して映画作りに参加した場合である。これまで、映画と文学というテーマが掲げられると、前者の関わりから語られることが多かったが、ここでは具体的に後者の場合を安部公房について取り上げ、どのように関わっているか考えてみたい。また、前者についても、ネオリアリズム、シュールレアリズムなどの視点から取り上げる。
---------------------	---

授業スケジュール	代表作『砂の女』など昭和30年代から40年代にかけて先駆的に自作の映画化に数多く関わった安部公房について順次みていく予定である。 (1~3) 安部公房・作家活動の軌跡 (4~6) 安部公房の映画製作について (7~9) ネオリアリズムとの関わり (10~12) シュールレアリズムとの関わり (13~15) 映画『おとし穴』について (16~18) 映画『砂の女』について (19~21) 映画『他人の顔』について (22~24) SF的方法と小説『第四間水期』について (25~26) SFの歴史 (27~30) SF文学と映画の比較
----------	---

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席のこと。
------	--

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きい迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	安部公房『他人の顔』(新潮文庫) 476円 その他、適宜プリントを配布する。
----------	---

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	215731
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ「日本の絵本文化入門」 日本の絵本文化を取り巻く現状は複雑です。子どもの活字離れはつねに問題とされていますが、その一方で、「ぐりとぐらシリーズ」はじめ、不動の人気をほころぶ絵本も存在しています。また、「読みきかせ」がコミュニケーションの一手段として注目されるなど、現在、絵本を「読む」という行為は多様化しています。講義では、「現在」を意識しながら歴史をふりかえり、日本社会における絵本文化の位置を考えていきます。 到達目標は、日本の絵本文化の特徴を分析し、それを言語化できるようになることです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	日本の絵本文化について、具体的に作品を分析しながら学び、個々の作品の意義を考えていきます。
----------	---

- (1) オリエンテーション
- (2) 日本における絵本文化の特徴 その1 (「岩波の子どもの本」ほか)
- (3) 日本における絵本文化の特徴 その2
- (4) 日本における絵本文化の特徴 その3
- (5) 日本における絵本文化の特徴 その4
- (6) 日本における絵本文化の歴史 その1 (こぐま社ほか)
- (7) 日本における絵本文化の歴史 その2
- (8) 日本における絵本文化の歴史 その3
- (9) 日本における絵本文化の歴史 その4
- (10) 物質としての絵本の特徴 その1 (『はらぺこあおむし』ほか)
- (11) 物質としての絵本の特徴 その2
- (12) 物質としての絵本の特徴 その3
- (13) 物質としての絵本の特徴 その4
- (14) 物質としての絵本の特徴 その5
- (15) 絵本の分類について考える その1 (『かさ』ほか)
- (16) 絵本の分類について考える その2
- (17) 絵本の分類について考える その3
- (18) 絵本の分類について考える その4
- (19) 絵本の分類について考える その5
- (20) 専門出版社の役割について考える その1 (福音館書店ほか)
- (21) 専門出版社の役割について考える その2
- (22) 専門出版社の役割について考える その3
- (23) 専門出版社の役割について考える その4
- (24) 専門出版社の役割について考える その5
- (25) 絵本の「命運」について考える その1 (日本語訳の功罪ほか)
- (26) 絵本の「命運」について考える その2
- (27) 絵本の「命運」について考える その3
- (28) 絵本の「命運」について考える その4
- (29) 絵本の「命運」について考える その5
- (30) まとめ

なお、履修者の教や志向によって、内容(時事問題なども授業に取り入れるため)やスケジュールを調整する可能性があります。その際は、授業時間内に連絡をします。

準備学習	課題作成のためのメモ作りや絵本の選択などに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします。
------	--

履修上の留意点	前期末課題及び学年末課題のほか、授業内課題をおこないます。授業内課題の分量は、通年で8000字程度(400字づつめ原稿用紙換算、20枚程度、手書き)になります。継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。また、担当者の一方的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。
---------	--

成績評価の方法	適宜、授業中に課題をおこないます。A: 授業への参加度・授業内課題(50%)、B: 前期末のレポート(25%)、C: 学年末の教場試験(25%)を合わせて、総合的に評価をします。
---------	---

教科書/テキスト	指定なし。適宜プリントを配布します。
----------	--------------------

参考書	鳥越信編『はじめて学ぶ日本児童文学史』(ミネルヴァ書房 2001年) 鳥越信編『はじめて学ぶ日本の絵本史 1~3』(ミネルヴァ書房 2002年) このほか、授業中にも指示します。
-----	---

その他	「日本文化研究ⅠB」と「日本文化研究ⅡB」では、それぞれ異なる作品・題材を取りあげます。「日本文化研究ⅠB」を履修せずに、「日本文化研究ⅡB」だけを履修しても問題ありません。ただし、「日本文化研究ⅠB」を先に履修した方が、知識や理解が深まります。
-----	---

履修コード	215711
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要)</p> <p>日本の伝統芸能についての理解を深め、その上で近代の芸能や現代演劇についても考察する。日本では古代・中世・近世に起源をもつ芸能が、現在でも引き続き行われている。できる限り映像資料を用いてそれらの芸能に触れながら、現代に至るまでの日本演劇史を概観する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>ジャンルを越えた発想から、始原から現代に至るまでの日本の芸能の全体像を理解し、さらに西洋演劇との比較の視点から、文化事象に対する見識を広げることを目指す。単なる知識として芸能史を理解するのではなく、芸能とは何か、現代社会において芸能はどのような意味を持つのか、といった根本的な問いに対して、受講者がそれぞれ考えを持つことができるようになることを目指している。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 芸能とは何かー娯楽と芸術 3. 芸能の起源譚 4. 神事と芸能 5. 舞楽と雅楽 6. 民俗芸能の世界 7. 岩手県早池峰山山伏神楽 8. 相撲の歴史 9. 散楽・猿楽と能の成立 10. 世阿弥「風姿花伝」を読む 11. 異界との交流 12. 狂言の世界 13. 歌舞伎の成立 14. 「義経千本桜」を見る 15. 「勧進帳」を見る 16. 人形浄瑠璃の世界 17. 忠臣蔵とは何か 18. 歌舞伎と文楽の忠臣蔵 19. 放浪の芸能 20. 大道芸と見世物 21. ものを売る芸能 22. 近代と芸能 23. 比較演劇の視点 24. ゴーリキー「どん底」と歌舞伎「三人吉三」 25. 資本と芸能ーレビューと宝塚 26. 歌舞伎俳優祭「仏国宮殿薔薇譚」を見る 27. 現代演劇の視点 28. 野田秀樹「赤鬼」を見る 29. 歌舞伎「野田版鼠小僧」を見る 30. まとめ
----------	--

準備学習	<p>古典芸能を扱うため、高校で履修する範囲の古典の理解力が必要となる。また日本史に関しても、高校の授業で履修する程度の理解があるものとして話を進めるので、それらに自信がない場合は、高校の教科書を復習するなどして準備しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>授業はPC教場ではない一般教場で行うが、YeStudy（e-Learningシステム）を使用するので、授業時間以外に各自でPCからYeStudyにアクセスする必要がある。予習・復習に役立てるほか、レポート課題の提出をこのシステムでのみ受け付ける場合がある。レポート課題を1度でも提出できなければ、その時点で単位取得はできなくなる。YeStudyのコース登録に必要な「登録キー」は、授業で伝達する。また受講人数にもよるが、数名ずつのグループを編成して意見を交換するワークショップ形式で進める場合もある。基本的に毎回きちんと出席することを前提とし、2/3以上の出席がなければ単位は取得できない。遅刻の場合は出席とみなさない。教場に来て講義を聴くだけの授業ではないので、興味関心と意欲のない学生は履修しないでいただきたい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>定期試験期間中に行う筆記試験（資料等持ち込み不可）の点数が40%、YeStudyで提出するレポート課題と、ほぼ毎回の授業で提出していただく小レポートによる点数が60%として配分し評価する。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>指定しない。</p>
----------	---------------

参考書	
-----	--

その他	<p>この授業で扱う内容の専門性を深め、少人数によるワークショップ形式を取り入れた「日本文化研究ⅠB（松田）」も開講している。希望者はまずⅠBを先に履修してから、翌年度以降にさらに興味があればⅠBを履修していただきたい。</p>
-----	--

履修コード	359201
科目名	日本文化研究ⅡA
担当者名	坂口 博規
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 古代の『古事記』『日本書紀』『風土記』等に登場する歌謡について考察する。古代の「ウタ」の発生の問題や、「ウタ」の役割 (=古代的意義) を考えるとともに、作品中に登場する歌謡が、その物語の中でどのような役割 (=文学性) を担っているか、その二つの役を理解してもらいたい。</p> <p>(到達目標) 古代の歌謡には、明るく大らかで素朴な感情表現が認められ、それは当時の民衆の精神が反映していると考えられる。その純粋で率直な感動表現は、神の存在を信じる古代人の真率な心情に由来するものである。その浪漫的な香を感じ取っていただければ幸いである。また『古事記』と『日本書紀』のヤマトタケル物語を通して、歌謡がそれぞれの物語にどのような効果を与えているか考えてほしい。特に二書の歴史書としての性格ないしは政治的自己主張につながっていることを理解してほしい。</p>
授業スケジュール	<p>1～3、「ウタ・韻文文学」の発生について 4～6、古代歌謡の種類 7・8、古代歌謡の表現様式・歌体 9・10、古代歌謡の文学性 11・12、『古事記』『日本書紀』編集前史、修史事業の流れ 13～15、『古事記』について 16～18、『日本書紀』について 19～26、『古事記』の倭建命物語 27～30、『日本書紀』の日本武尊物語</p>
準備学習	古代史への関心は旺盛でも『古事記』や『日本書紀』や『風土記』の内容を知る者は少ない。本授業では歌謡の考察を通して古代の文学作品へ関心を持ってほしいと考えている。努めてこれらの作品を目にする機会をもってほしい。
履修上の留意点	特に後期において、記紀のヤマトタケル物語の比較を通して物語における歌謡の役割 (=文学性) を考察するとともに、記紀の政治的主張の差異というものを確認してほしい。
成績評価の方法	授業の最終日に提出してもらったレポートの評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象とする。
教科書/テキスト	授業時において配布するプリントを教材とする。
参考書	授業時に適宜紹介する。

履修コード	359101
科目名	日本文化研究ⅡA
担当者名	鈴木 裕子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) テーマ：和歌で読む『源氏物語』 『源氏物語』の名場面を、特に和歌に着目して鑑賞する。『源氏物語』についての理解を深めつつ古典和歌のおもしろさについて学ぶ。授業では原文を読むが、現代語訳も用意する。 (到達目標) この講義の到達目標は、古典の物語における和歌の役割について理解すること。代表的な古典文学に触れて、日本文化の伝統と創造について理解を深めること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) ガイダンス (2~4) 光源氏の父母の物語 (5~7) 光源氏の青春の物語・空蝉物語 (8~11) 光源氏の青春の物語・夕顔物語 (12~14) 光源氏の青春の物語・さまざまな女性の歌 (15) 前期の総括 (16) 和歌で読む紫の上の人生史・紫の上の登場 (17~19) 和歌で読む紫の上の人生史・紫の上の成長 (20~25) 和歌で読む紫の上の人生史・夫婦のゆくえ (26~28) 和歌で読む紫の上の人生史・紫の上の最後 (29) 光源氏の物語の終焉・死の準備 (30) 総括 ※受講生の興味・要望や進捗状況により多少変更するかもしれない。</p>
----------	---

準備学習	予め配布するプリントに（現代語訳の部分だけでも）目を通しておくとよい。
------	-------------------------------------

履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、毎回コメントの提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
---------	--

成績評価の方法	前期末および後期末に課するレポート（論題等は授業時に提示）80%、平常点（出席状況と毎回のコメントの内容）20%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する（平常点を0点とすることもある）。
---------	--

教科書/テキスト	プリント教材。
----------	---------

参考書	依万智『愛する源氏物語』（文藝春秋社）、鈴木裕子『『源氏物語』を〈母と子〉から読み解く』（角川叢書・角川書店）、『源氏物語入門』（角川選書・角川書店）その他、授業中に指示する。
-----	--

履修コード	359301
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	蘭部 幹生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	『宇治拾遺物語』の編者が文章博士・藤原経範であるという前提に立てば、『宇治拾遺物語』をどのように読むことができるか、という点を最大のテーマとする。恣意的な読み方によらずに、どのように読むべきかという作品研究の立場に立った方法を実践したい。 日本文化研究方法の理解とともに、日本文化の一端を深く掘り下げて探究するおもしろさを理解することを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	1 ガイダンス。 2 説話文学の盛衰。 3~4 編者論。 5~8 作中人物論 (藤原実頼と藤原師輔)。 9~11 作中人物論 (藤原兼家と藤原兼通)。 12~15 作中人物論 (藤原頼通と藤原教通)。 16~19 作中人物論 (藤原忠通と藤原頼長)。 20~23 作中人物論 (相撲人)。 24~28 作品論。 29 教場テスト。 30 まとめ。
----------	---

準備学習	毎時間の授業内容がどのように関連しているのか、現在の授業内容が全体の中でどのように位置づけられるのか、といった点を見失うことのないように、しっかりと復習をして次の授業に臨むことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	日本文化研究ⅠAを履修済みであることが望ましい。できれば同一担当(蘭部幹生)者の日本文化研究ⅠAを単位修得してから履修することが望ましいが、そうでない場合は、必ず最初の授業時にその旨を授業担当者に相談すること。 また、毎時間の最後に、その時間の講義内容に対する意見文を書いて提出するので、必ず原稿用紙を持参すること。
---------	---

成績評価の方法	毎時間提出する意見文で50点分を評価し、授業時間内に50点満点の教場テストを行なう(試験には、ノート・テキスト・辞書・参考書など、何でも持ち込み参照可)。また、最後の授業時間内に、追・再試験に相当するレポートについての連絡を行なうので、必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
---------	--

教科書/テキスト	中島悦次校注『宇治拾遺物語』角川文庫(ただし、宇治拾遺物語の全文が載っているものであれば、これ以外でも可)
----------	---

参考書	必要に応じてそのつど紹介する。
-----	-----------------

履修コード	359801
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	戦後における文学の第一声ともされる同人誌『近代文学』に依る本多秋五や荒正人の評論から始めて、野間宏、椎名麟三などの第一次戦後派から、第二次戦後派の安部公房、島尾敏雄を経て、小島信夫、庄野潤三などの第三の新人に至るまでの戦後日本文学の軌跡を、それぞれの作家の作品を読むという形で辿ってみたい。そうすることで、敗戦までの日本近代文学の陥穽に対峙することから、その表現の独自性を確立しようとした戦後日本文学の可能性と限界を探りたい。 同時に受講生において、個々に自分にとって文学を読むこと、もしくは文学として作品を読むという行為がどのような意義を持つのかということをおぼろげに意識して考えていくことを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	第二次大戦直後の戦後文学の出発期から昭和三十年代に至るまでの戦後派文学の軌跡がいかなるものであったのか、その概論を講義形式でおこなうと同時に、個々の作家の重要な作品については、逐次たどって具体的にテキストを用意してじっくりと講読する。なお、今年度は主に同人誌『近代文学』掲載の評論ならびに安部公房と島尾敏雄の短編小説を取り上げる予定。 (1~3) 戦後文学の特色について (4~6) 同人誌『近代文学』の役割 (7~9) 安部公房の軌跡 (10~11) 『デンドロカカリヤ』の分析と読解 (12~13) 『飢えた皮膚』の分析と読解 (14~15) 『闖入者』の分析と読解 (16~17) 『R62号の発明』の分析と読解 (18~19) 『死んだ娘が歌った』の分析と読解 (20~21) 『棒』の分析と読解 (22~24) 島尾敏雄の軌跡 (25~27) 『鳥の果て』の分析と読解 (28~30) 『出発は遂に訪れず』の分析と読解
----------	---

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席すること。
------	---

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きい迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容(60%)と、出席などに基づく平常点(40%)とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	安部公房『水中都市、デンドロカカリヤ』(新潮文庫)514円 安部公房『R62号の発明、鉛の卵』(新潮文庫)552円 島尾敏雄『出発は遂に訪れず』(新潮文庫)590円 その他、適宜プリントを配布する。
----------	--

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

